

奈良市立幼稚園における園児募集停止、休園及び閉園の基準に関する要綱【現行】

平成26年10月1日奈良市教育委員会告示第16号

奈良市立幼稚園における園児募集停止、休園及び閉園の基準に関する要綱

(目的)

第1条 この要綱は、奈良市立幼稚園における園児募集停止、休園及び閉園の基準を定めて手続きを明確化するとともに、「奈良市幼保再編基本計画」（平成25年1月策定）及び「奈良市幼保再編実施計画」（平成25年7月策定）を推進することを目的とする。

(園児募集停止基準)

第2条 当該年度における園児募集の結果、翌年度に2年保育で入園予定の園児の応募数が15名未満で、かつ、翌年度の在園予定園児数が30名未満となる園については、翌年度における募集分から園児募集を停止することとする。ただし、統合再編により園児募集を停止する場合及び地域により特別の事情があると教育委員会が認める場合は、この限りでない。

2 園児募集を停止するにあたっては、園児募集に係る入園予定者及び地域に対し事前に説明を行い、翌年度以降具体的な統合再編に着手することとする。

3 園児募集を停止することとなった園において、翌年度の在園予定園児数が30名以上になると見込まれる特別の事情がある場合は、園児募集の停止措置を解くことができる。

(休園及び閉園基準)

第3条 翌年度に在園する園児が0名となる幼稚園については、翌年度の閉園の手続きを行うことができる。ただし、統合再編により閉園の手続きを行う場合は、この限りでない。

2 当該年度の途中で在園する園児が0名となった幼稚園については、その時点から休園の手続き及び翌年度の閉園の手続きを行うことができる。

(その他)

第4条 この要綱に定めるもののほか、奈良市立幼稚園における園児募集停止、休園及び閉園の基準に関して必要な事項は教育委員会が定める。

附 則

(施行期日)

- 1 この要綱は、告示の日から施行する。

(現に休園中の幼稚園に関する特例)

- 2 この要綱の施行の際現に休園している幼稚園については、この要綱の規定にかかわらず、平成27年度分の園児募集を停止し、平成26年度末をもって閉園の手続きを行うこととする。

2017

奈良市子ども会議 報告書

未定稿



目次

I 奈良市子ども会議の概要	1
1 奈良市子ども会議について	1
2 奈良市子ども会議開催状況	1
3 ファシリテーター	1
4 子ども参加者	2
5 サポーター	3
II 奈良市子ども会議の開催	4
1 奈良市子ども会議の内容	4
2 振り返りシート集計結果	10
3 アンケート集計結果	15
III 奈良市子ども会議意見書	18
IV 意見書に対する答え	24

別冊資料

- 平成29年度奈良市子ども会議 意見書(原本の写し)



I 奈良市子ども会議の概要

1 奈良市子ども会議について

奈良市では、子どもたちが、今を幸せに生きることができ、将来に夢と希望をもって成長していけるような、子どもにやさしいまちづくりを目指して「奈良市子どもにやさしいまちづくり条例」を制定し、平成27年4月から施行しました。

奈良市子ども会議は、この条例の規定に基づき、子どもの意見表明や参加を支援するための取組で、この会議に参加する子どもたちが子どもにやさしいまちづくり等について話し合い、出された意見をまとめ、市長に提出することを目的としています。

また、提出された意見に対しては奈良市としての回答を作成し、公表することとしています。

なお、平成29年度の奈良市子ども会議は、議論の中で出される意見を今まで以上に多様で様々な角度からの提案が出されるように、新たな試みとして、話し合うテーマを1つに絞って、子ども参加者の募集段階から提示しました。今回は平成27年度に続き平成28年度にも子どもたちから出されたテーマである「いじめ」をテーマにしています。

2 奈良市子ども会議開催状況

(1) 開催日・テーマ・参加人数

回	開催日	テーマ	参加人数
第1回	平成29年7月25日(火)	「仲間と出会い、テーマについて語ろう」	26人
第2回	平成29年7月27日(木)	「信頼できるおとなって？」	23人
第3回	平成29年8月1日(火)	「助けて！って言える相談窓口？居場所は？」	21人
第4回	平成29年8月3日(木)	「グループに分かれて意見書を作ろう 意見書の下書き」	20人
第5回	平成29年8月8日(火)	「私たちがつくる意見書」	21人
—	平成29年8月24日(木)	「市長への意見報告会」	20人

(2) 開催時間・場所

- ▶ 開催時間 午前10時から正午まで(※ 意見報告会は午前11時30分まで)
- ▶ 開催場所 奈良市役所 北棟6階 第21会議室

3 ファシリテーター

特定非営利活動法人 子どもの権利条約総合研究所関西事務所所長 浜田 進士

(アシスタント ※ 第1～4回に参加)

ひと結び 代表

佐野 岳章

4 子ども参加者

10歳から17歳までの子どもを対象に、公募等により募集し、28名の子どもが参加しました。

(応募受付順・敬称略)

	氏名	学校／学年	性別		氏名	学校／学年	性別
1	のだ のぞみ 野田 望未	三笠中学校 2年	女	15	むかいやま まなと 向山 愛都	青和小学校 6年	男
2	おおば りょうご 大庭 遼吾	明治小学校 5年	男	16	じょうた えりせ 上田 笑世	若草中学校 2年	女
3	ひがしもと ひろき 東元 博樹	帯解小学校 5年	男	17	いだ わかな 伊田 稚菜	飛鳥中学校 3年	女
4	はらだ あおい 原田 碧	富雄第三小学校 6年	女	18	にしうら ホセ 西浦 ホセ	飛鳥中学校 3年	男
5	ふじもと かなえ 藤本 佳奈絵	三笠中学校 2年	女	19	おおた そらの 太田 天乃	三笠中学校 3年	女
6	よしおか はつね 吉岡 初音	都跡小学校 6年	女	20	まつしま りく 松島 立空	三笠中学校 3年	男
7	いばらき じゅん 茨木 潤	鳥見小学校 6年	男	21	いしばし ゆうな 石橋 優奈	三笠中学校 2年	女
8	いばらき めぐ 茨木 恵	京都教育大学附属桃山 中学校 1年	女	22	かじ ゆりあ 鍛冶 優里亜	三笠中学校 2年	女
9	のむら なるこ 野村 成吾	辰市小学校 6年	男	23	やまむら ゆうき 山村 祐輝	三笠中学校 3年	男
10	たばた けい 田畑 桂	辰市小学校 6年	男	24	とおやま さとみ 遠山 聡美	三笠中学校 3年	女
11	よしもと ふう 吉本 風	一条高等学校 2年	男	25	わたなべ こうき 渡邊 光輝	三笠中学校 3年	男
12	さくらい まさてる 櫻井 優輝	一条高等学校 1年	男	26	まえがわ さくや 前川 朔哉	都祁小学校 5年	男
13	かわぐち こなみ 川口 虹波	一条高等学校 1年	女	27	ばんば みつき 馬場 充希	三笠中学校 2年	女
14	ふじもと レイナ 藤本 レイナ	天理高等学校 1年	女	28	いとう にじか 伊藤 虹架	鼓阪小学校 6年	女

内訳（単位：名）

小学生	10
中学生	14
高校生	4
男子	13
女子	15

新規参加者	16
H27参加者	3
H28参加者	11
H27・H28参加者	2

5 サポーター

奈良市内に在住または在学している大学生等を対象に募集し、8名の大学生が参加しました。

(応募受付順・敬称略)

	氏名	学校／学年	性別
1	つじ ななこ 辻 葉々子	帝塚山大学 3年	女
2	たにがき とおる 谷垣 徹	奈良教育大学 4年	男
3	ふじい まなか 藤井 愛華	奈良教育大学 3年	女
4	うつのみや れな 宇都宮 怜奈	奈良教育大学 2年	女
5	なかむら ゆきな 仲村 幸奈	奈良教育大学 1年	女
6	たなせ しほ 種瀬 史歩	奈良教育大学 1年	女
7	しもはら まい 下原 舞	奈良教育大学 1年	女
8	やぐら のりか 櫓 乃里花	奈良教育大学 1年	女



Ⅱ 奈良市子ども会議の開催

1 奈良市子ども会議の内容

(1) 第1回「仲間と出会い、テーマについて語ろう」(7月25日開催)

10:00 開会

- ・開会あいさつ(子ども未来部長 木綿 延幸)
- ・事務局紹介

10:05 ファシリテーター紹介

子ども会議のねらいと全5回のスケジュールを説明

10:10 アイスブレイキング

- ・共通ルールについて確認

10:40 いじめに関する奈良市の現状の共有

- ▶(事務局から情報提供)

いじめの実態とその対策、様々な相談窓口の紹介

誰にも相談できずにがまんしている現状の共有

- ▶(ファシリテーターから情報提供)

子育て相談課の調査結果をもとに、情報の共有

昨年の子ども会議でのいじめに関する提案やその回答の再確認

11:00 休憩(お菓子・ジュース)

11:10 グループで話し合い(グループ分けはランダム)

① 自己紹介(名前、学校、学年など)

② この会議に期待すること

③ この会議で不安なこと

④ あなたの身の回りでいじめを見聞きしたことはありますか。

各自、A4用紙に①～④を書き、グループメンバーで話し合う。

11:50 全体での振り返りとまとめ(振り返りシートを記入してもらう。)

12:00 閉会

◆ 奈良市子ども・子育て会議 岡田 和大 委員にご視察いただきました。

◆ 奈良市子ども・子育て会議 森 久美 委員にご視察いただきました。



(2) 第2回「信頼できるおとなって？」(7月27日開催)

10:00 開会

- ・ 前回の振り返りと本日のねらい、流れの確認
- ・ 共通ルールについて確認
- ・ 今日のゴール「お話を聞いた感想などをグループで話し合う」

10:07 アイスブレイキング

バズセッション お互いのいじめのについてのイメージを語り合う

10:15 お話「信頼できるおとなって？」

一般社団法人なら人材育成協会 良知 克哉(らち かつや)さん

▶ 中学生時代にいじめにあい、高校生時代には不登校となったが、今は元気に過ごしているゲストに自分の経験を語っていただく。

- ①自己紹介 ②中学時代の壮絶ないじめ体験、いじめの実態
- ③いじめを受けていたときの気持ち ④いじめからひきこもりへ
- ⑤学校へ行かなかったらどうなるか ⑥そんなとき、どんな人と出会えたか
- ⑦みんなのクラスにいじめはある？どこからがいじめなんだろう？

10:58 隣の人と、お話を聞いた感想をわかちあう

11:02 良知さんへの質問

11:10 休憩(お菓子・ジュース)

11:20 グループ分け(ランダム)

11:23 グループディスカッション

▶ 良知さんのお話を聞いて話し合い。

A4用紙に①自分の名前、②お話を聞いて気になった言葉、③どうしてか

11:45 全体での振り返り

11:55 全体での振り返りとまとめ(振り返りシートを記入してもらう)

12:00 閉会

◆ 奈良市子ども・子育て会議 岡田 和大 委員にご視察いただきました。

◆ 奈良市子ども・子育て会議 森 久美 委員にご視察いただきました。



(3) 第3回「助けて！って言える相談窓口？居場所は？」（8月1日開催）

10:00 開会

- ・ 前回の振り返りと本日のねらい、流れの確認
- ・ 共通ルールについて確認
- ・ 今日のゴール「いじめの相談窓口にいる人や不登校の子どもの居場所づくりをしている人と話をしてみて、どんな相談窓口なら相談しやすいか、どんな居場所なら行きやすいか考える」

10:07 アイスブレイキング

10:15 あらかじめ、電話相談やメール相談の話を聞く時間、フリースクールなど居場所づくりの取組の話を聞く時間があることを伝える。

4つのグループ（ランダム）に分かれる

10:20 ゲスト各自自己紹介（自分のこと、自分の担当している活動内容のこと）

- ① 奈良市教育委員会いじめ防止生徒指導課 吉原 康予 さん
- ② チャイルドライン 電話相談担当 牛田 斐子 さん
- ③ 夢街道国際交流子ども館 スタッフ 以呂免 幸子 さん
阪野 将 さん
- ④ アイエス学園奈良学習館 取締役 三好 敏生 さん

10:25 ゲストと子ども参加者の交流①

子どもたちのグループにそれぞれゲストが参加し、ゲストの取組内容を中心に子ども参加者と質疑応答を行う。

10:50 ゲストと子ども参加者の交流②（ゲストが別のグループのゲストと入れ替わる）

11:15 休憩（お菓子・ジュース）

11:25 各グループで感想を話し合う

11:35 各グループにA4の用紙を配布。各自、市長にどんな提案をしたいかを記入。
書いたものをグループで話し合う。

11:55 全体での振り返りとまとめ（振り返りシートを記入してもらう）

12:00 閉会

◆ 奈良市子ども・子育て会議 岡田 和大 委員にご視察いただきました。

◆ 奈良市子ども・子育て会議 森 久美 委員にご視察いただきました。



(4) 第4回「グループに分かれて意見書を作ろう 意見書の下書き」(8月3日開催)

10:00 開会

- ・ 前回の振り返りと本日のねらい、流れの確認
- ・ 共通ルールについて確認

これまでの議論を踏まえて、意見書をつくるためのグループをつくることを伝える

10:05 アイスブレイキング

10:10 グループ分け

前回のグループディスカッションをもとに4つのテーマに関するグループを提案する
＜グループ案＞

- ①「相談窓口の工夫」 → 希望者7名
 - ②「相談窓口の広報」 → 希望者10名
 - ③「学校以外の場所(居場所)」 → 希望者0名
 - ④「いじめについて知る、考える、話し合う機会」 → 希望者3名
- ※ ①と②は希望者多数のため、それぞれ2グループ化。③はグループなし。

10:20 各グループで話し合い

自己紹介、模造紙に市長に提案したいことを各自考え、ポストイットで張り付ける
出てきた提案をよく似たもの同士まとめる、より具体的なアイデアを考える

10:50 各グループで市長への提案を1つに絞る、提案とその理由を考え、掘り下げる

11:10 休憩(お菓子・ジュース)

11:20 各グループの途中経過を発表してもらう

11:35 再度、グループで話し合い、市長への意見書の下書きを行う

- ① 提案 テーマについての提案を書く
- ② 理由 どうしてこの提案をするのかを書く
- ③ 私たちができること 提案を実現するために子ども参加者ができることを書く

11:55 全体の振り返りとまとめ(振り返りシートを記入してもらう)

12:00 閉会

◆ 奈良市子ども・子育て会議 岡田 和大 委員にご視察いただきました。

◆ 奈良市教育委員会 都築 由美 教育委員にご視察いただきました。



(5) 第5回「私たちがつくる意見書」(8月8日開催)

10:00 開会

- ・ 前回の振り返りと本日のねらい、流れの確認
- ・ 共通ルールについて確認
- ・ 今日のゴール「市長への意見書を作成する。」
- ・ 前回欠席者のグループ分け

10:15 意見書の作成

11:00 休憩(お菓子・ジュース)

11:10 各グループで出されている意見を発表し合う

11:35 意見書の作成

11:55 全体での振り返りとまとめ

(振り返りシートと全体を振り返ってのアンケートを記入してもらう)

12:00 閉会

◆ 奈良市子ども・子育て会議 岡田 和大 委員にご視察いただきました。



(6) 市長への意見報告会（8月24日開催）

9:00 事前打ち合わせ

・意見報告会の進行について確認する。意見報告の練習を行う。

10:00 開会

・市長あいさつ

・出席者紹介

10:10 市長へ意見書提出

10:20 各グループごとに意見発表・市長との意見交換

① 実際に体験し、相談窓口を身近に感じよう！

② 相談窓口の工夫

③ チャイルドラインやフリースクールの人に来てもらう時間を設ける

④ 相談窓口の広報 Ver.1

⑤ いじめについて知る・考える・話し合う機会をつくる

11:00 ファシリテーター浜田進士氏からのあいさつ

11:10 閉会

◆ 奈良市子ども・子育て会議 岡田 和大 委員にご視察いただきました。

◆ 奈良市子ども・子育て会議 栗本 恭子 委員にご視察いただきました。

◆ 奈良市子ども・子育て会議 森 久美 委員にご視察いただきました。

◎ NHKからの取材を受けました。



2 振り返りシート集計結果

奈良市子ども会議の各回で子どもたちにその日を振り返るアンケート(振り返りシート)を記入してもらい、子ども会議についての意見を聞きました。その集計結果は次のとおりです。

回答者数	第1回	26名
	第2回	23名
	第3回	21名
	第4回	20名
	第5回	21名

(問1) 楽しかったですか？

選択肢	第1回		第2回		第3回		第4回		第5回	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
とても思う	21	81%	15	65%	18	86%	17	85%	18	86%
そう思う	5	19%	5	22%	3	14%	3	15%	3	14%
そうでもない	0	0%	3	13%	0	0%	0	0%	0	0%
そう思わない	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
全く思わない	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
計	26	100%	23	100%	21	100%	20	100%	21	100%

(問2) わかりやすかったですか？

選択肢	第1回		第2回		第3回		第4回		第5回	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
とても思う	17	65%	16	70%	19	90%	18	90%	17	81%
そう思う	7	27%	6	26%	2	10%	2	10%	4	19%
そうでもない	2	8%	1	4%	0	0%	0	0%	0	0%
そう思わない	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
全く思わない	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
計	26	100%	23	100%	21	100%	20	100%	21	100%

(問3) 話しやすかったですか？

選択肢	第1回		第2回		第3回		第4回		第5回	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
とても思う	21	81%	13	57%	18	86%	19	95%	18	86%
そう思う	5	19%	8	35%	3	14%	1	5%	3	14%
そうでもない	0	0%	1	4%	0	0%	0	0%	0	0%
そう思わない	0	0%	1	4%	0	0%	0	0%	0	0%
全く思わない	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
計	26	100%	23	100%	21	100%	20	100%	21	100%

(問4) 今日の子ども会議に参加して、感じたこと、気づいたこと、考えたことなど…なんでも書いてください！

① 第1回

- ・ イジメられている子は話さないじゃなくて話せないだけです。イジメられていることを知ってほしくないから。
- ・ 意見の不安のマスに話せるかどうか的なのを書いてあって、中には、年上の人といっしょに…などの意見もあって、年上の人と話し合うのは、緊張しました。でも一回目は、楽しかったです。
- ・ すぐ回りの人がやさしくて話しやすかった。楽しかった！！
- ・ 「イジメ」って1つにまとめても、それは人それぞれ、感じている事、考えている事は1人1人ちがうのではないかなと改めて考えた。どういう風に考えているのか聞いてみたい。
- ・ いじめの相談センターに、いじめられている人が、話さないじゃなくて、話すことができないです。みんなに知ってほしいけれど、知られたくない。
- ・ いろいろな理由で子ども会議に来ているんだなと思いました。
- ・ イジメは案外少ない。1人で悩んでいる人が多くてビックリした。
- ・ はじめは知らない人が多かったけど、仲良くなってうれしかった！みんな、おもしろい！
- ・ みんな話しやすかった
- ・ どの学校でもいじめられてるかどうか、きわどいところの人がいる。人事ではない。みんなやさしい。
- ・ メンバーの入れ替わりもあり、また、最上級生が自分の代になってしまったので、責任を持たねばと思いました。
- ・ イジメの現状が今回の子ども会議でよく分かり、これから、イジメについて話し合いたいという意欲がとても強くなったと思います。
- ・ 小学生から高校生まで集まっていたが、そんなのは全く関係なく話しやすかった。普段の生活では高校生ぐらいとしか関われないが、小学生、中学生と平等に仲良くなれたのがとてもよかった。
- ・ イジメについて話しにくそうな人がいて、そのとき、話し合いを進める進行法をどうしたら良いのか戸惑いました。テーマがとても責任重大なのでどこまで話していいのかとか、どう聞いたら良いか戸惑いました。
- ・ しゃべれる人が増えたからうれしい。
- ・ 初めて会ったみんなと、積極的に話し合えた。
- ・ いろいろな人たちと交流することができてよかったです！特に自分と年がはなれている人(小・高)の人々とコミュニケーションをとれる良い機会でした。
- ・ いじめを受けている人で、人に相談しない人が16.2%(1,003人中)もいるということに気づいた。もっと相談できるような場所をつくっていかれたらと思った。
- ・ 同じ学校の子とか先輩がいたからいいけど、そうじゃなかったら話せなかったなあー。と思いました。次の子ども会議では、いじめを体験した方が来られるので、勉強になるだろうなと思います。今回は「いじめ」というテーマが決められているので、みんなの意見がたくさんありそうで楽しみです！
- ・ けっこうみんなフレンドリーやったのでめっちゃしゃべりやすかった！そして、いじめについてもくわしく知れそうだし、この会議で少しでもいじめが減ったらいいなと思いました。次もよろしくお願いします！
- ・ いろんな人と意見が交流できて、とても自分の視野が広がりました。
- ・ 初めての参加で不安だったけれどすごく話しやすくて思っていたより楽しかったです！！みんな積極的でおもしろくてなごみやすかったです！いじめにも真剣に考える場所ができて良かったと思います。
- ・ とても話しやすかったです。人との交流の楽しさを感じることができました。とても、意味のある時間になったと思います。次も今日のように取り組みたいと思います。
- ・ ふつうに楽しかった。友達増えそう
- ・ 何か思ってたふんいきとは違って、皆優しく話しやすかった！また来たい！応募して良かったと思いました！
- ・ アニメの好きな子が多かった！8/1、3がこれませんがよろしくお願いします。

② 第2回

- ・ これから6年、中1・中2・中3になっていくに連れて、良知さんのようになるのか起こる可能性は低くはないから

ちょっと心配です。1軍になった場合は、いじめている人を止めようと思います。

- ・ 人のランクわけということが一番ダメ！ではなく、そういう事があったときに、どういう行動をとるのが必要だと思った。
- ・ 今日、良知さんが話してくださったことを学校などで話し、伝えていくと、もっとたくさんの人たちが助かると思いました。本人からの体験談を聞くことで、分かりやすかった。
- ・ いじめはつらい。
- ・ 良知さんは、けっこう色々なことを話してくださいましたが、自分の経験したいやだったことについてはあまり話されませんでした。(落書きされたなど)だから、それほど、つらい思いをされたのだな〜と思った。
- ・ 良知さんの話を聞いてかなり共感できたし、いじめはだめだと思った。
- ・ イジメの体験を聞いたのは、ぼくたちだけで良知さんがよければ、もっと学校に来てくれれば少しでもイジメは減ると思います。
- ・ 良知さんのお話には非常に共感する部分があった。僕のクラスにはカーストはなくても派閥はあるので根底にある問題は同じだと思うので、自分の周囲と重ね合わせることができた。
- ・ いじめをなくすための一番の方法は人との関わりを大切にすることだと思います。人と関わることにより、相手の良い所や相手の興味がある所がうかびあがってくると思うからです。
- ・ いじめの原因となるスクールカーストがあるのにおどろいた。中3のときの先生がとても生徒のことを考え、仲良くなり、グループというのがなかった。自分一人一人の意識をもっと高めようと思った。公演が聞けてよかった。
- ・ すごく重たいお話を聞かせていただきましたが、自分の気づかなかったことや、周りでそのようなことが起こっているんだと感じることがありました。スクールカウンセラーは良い関係を築きながら相談できる良い場所というのを知りました。
- ・ 良知さんのとても貴重な話を聞くことができてとってもよかったです
- ・ 良知さんが、自分が体験したイジメより、もっと、大変なイジメを体験していて、何をされたか、どんな心境かなどを聞いて、正直、聞いている側もつらくなった。もし、自分が体験したら、もっとつらいだろうな。と思った。
- ・ 義務じゃなくて意志で行動することが大切なんだと思った。無理することが大切なのではないと思いました。
- ・ 学校のカウンセリングでもいじめてくる人に見られていると思って行けない人もいるかもしれない。それで、また、そのことについていじめがエスカレートしたりするかもしれないので学校ではなくもっと身近な別のところにあればと思った。もっと身近だが電話はわかりにくいので直接話せる場所があったらなと思った。
- ・ いじめが起こったとき、自分は逃げてもいいんだ、逃げられる場所があるんだと思えば気持ちもだいぶ楽になるだろうなと思います。初めて話す子とも仲良く楽しく？話し合えたかなと思いました！
- ・ 良知さんの話を聞いてすごくイジメについて、よく分かりました。実体験を語ってくださるのは、すごくつらいことだったかもしれないのに、本当にありがとうございました。感動しました。
- ・ 実際にいじめにあった人のお話はとても貴重なものだと思うので、常に心にとめておきたいと思います。自分の気持ちは言葉にしないと伝わらないので、しっかりと相手に伝えようと思います。
- ・ いじめが起きる理由は、様々だけど根幹にあるのは身分によって差別していることだと思ったし、いじめを受けた人は大人になっても引きづっていくのかと思うと少し恐くなった。
- ・ いじめを受けていた人の話を改まって聞くのははじめてでした。あまりにも思っていたより、リアルで悲しいことだと感じました。学校にも良知さんみたいに相談できない人がいるのなら声をかけてあげようと思いました。
- ・ 自分もイジメられた経験があったので、そのことを思い出しながら聞いていましたが、自分のイジメとは、ちがうことが多かったので、人によってイジメのとらえかたがちがうんだなって思いました。助けてあげるのは、難しいですが、せめて、自分がその人にとっての逃げ場になってあげたいと思いました。
- ・ いじめのことについて学校でもしっかり気をつけて楽しい生活をみんなで送りたいと思う。
- ・ 良知さんの話を聞いて、すごくはげましになりました。自分もいじめられててどうすればいいかわからなかったけど、良知さんが言った言葉でうれしくなりました。フリースクールに一度行ってみたいと思います！！

③ 第3回

- ・ やっぱいじめをかかえこんでいる人は、分からないから、どうやってやるのか、無くすのか？むずかしいです。
- ・ フリースクールのイメージが少しわかりました。
- ・ 方法を考えるのはむずかしい。
- ・ しっかりアイデアを考えたい。固まってる人が固まらないように。
- ・ 全然知らなかったことを知れた
- ・ チャイルドラインをみんなに知ってもらうことが大切だと思います。みんな聞いたことはあるけどあまりよく知らない人は多いから
- ・ チャイルドラインや相談所などは本当に心が開ける楽しい所なんだと思いました。とても考え方や味方が変わった。
- ・ テーブルで回ってもらって質問しやすかった。相談窓口やフリースクールのことについて詳しく聞けてよかった。不登校の子にも知ってもらいたい。
- ・ 全然知らないことや、初めて知ったこと。フリースクールや電話相談は、名前は知っていたけど実際にどんなところかなど知らなかった。グループでの話し合いでは、トイレに貼るなどのおもしろい意見がでて次回が楽しみです。
- ・ いじめの人がなくなればいいなと思いました。
- ・ フリースクールのイメージが少しわかりました。方々から話をきいて……。フリースクールは「普通の学校みたいにすごすのかなあ。」と思っていたけど、以外に自由時間などと、楽しい感じだった。
- ・ やはり、意見を言ったり発言したりするのは楽しかったです。
- ・ チャイルドラインはいじめのことしか話せないと思っていたので、色んなことを話せることを知れて良かったです。私はスマホ依存症みたくスマホが好きなので、インターネットの方が言いやすいかなと思いました。
- ・ とても話やすく、楽しかったけれど、いじめについて、深く語り合うこともできた。電話は、子どもより親の方が多いと知っておどろいた。
- ・ 色々なところでいじめを受けている人を助けるようなところがあるので安心するだろうなと思った。フリースクールとかは自分が思ってたのとぜんぜん違って、明るく、楽しいふんいきやと知った。
- ・ フリースクールやチャイルドラインは、学校に行きたくなかったり、行きにくい人のことをよく考えてつくられているなと思った。
- ・ いろんないじめに対しての対策がとられていたことが良かったです。
- ・ チャイルドラインがいじめの相談をすることや、ただ学校の出来事を話すだけでもいいと初めて知りました。フリースクールはかたいイメージがあったけれど学校につながっていたりすごくやわらかい場所だった。
- ・ 今日聞いたことを、自分の中で整理し、少しでも良い意見を出し、イジメられている子達を少しでもいいから楽にしたい。自分の意見も生かしていきたい。
- ・ しっかり話せた。今度も来たい。
- ・ フリースクールについて初めて知った。話し合いが楽しい！

④ 第4回

- ・ 色々な事を話し合えて楽しかった。
- ・ グループの人数は少なかったけどたくさん意見がでたので良かった。
- ・ 自分達ができる事を考えて、それを実現できるようにしたいです！！
- ・ チーム名がなかなか決まらない
- ・ 「イジメ」のなくし方はたくさんある
- ・ 提案がしっかりかたまってきた。
- ・ 互いに意見を出すだけにとどまらず、反対意見を提示することで議論にまで発展させることができていた。
- ・ 同じテーマについて意見を出しても人それぞれの意見が多くあり、お互いの事を知る良い機会になったと思います。
- ・ 私のグループは3人で他の班より人数は少なかったが、3人ともやる気に満ちていたので、意見がいっぱい出て、

とても楽しかった。ふせんで意見のグループ分けをして、以外とわかりやすくなった。小学生、中学生、高校生3人で、ジェネレーションギャップがあってよかった。

- ・ グループ分けもあり、色んな意見が出ました。なかなか自分では思いつかない意見も出て、楽しく話し合いができました。
- ・ 大きい紙ができることが楽しみです。
- ・ もっとみんなで楽しく話し合える場があればもっとイジメが減るんじゃないか。
- ・ あまり上手く意見を言うことはできなかったけど、皆がフォローしてくれたりとか、楽しく話し合えたかなと思います！ 次の子ども会議も楽しみにになりました。
- ・ 皆で意見をまとめるのは難しかったが、今日学べたことが実現すれば、苦しんでいる人を助けられると思う。
- ・ 自分達で市長への提案を考えたり、ポスター作ったり、とても楽しくて、いろんな人の意見も知れてよかったあ！！
- ・ 人によって自分が理想に思っている人が違ったりして、人によって違うんだなと思いました。
- ・ 知らない人に知ってもらうためにどうしたらいいかこんなに真剣に考えられて良かったと思います。少しでも自分たちの意見が通るといいです。
- ・ 色んな視点から話し合いをすることができたと思います。次はもっと意見をいうようにしたいです。
- ・ 自分は考えるだけだったけど年上の人がまとめてくれた。
- ・ ポスター作り楽しー♪提案するって大事！

⑤ 第5回

- ・ みんなと話し合ってわかることがあるとわかりました。
- ・ 提案を変えようか迷いました。
- ・ 自分がたくさんの意見を言えて他の人の良い意見も聞けたし、話し合うことが苦手だったけど、この機会ですその力が増えたと思います。
- ・ 1つのテーマで話し合っていると、目的がずれることが少なくて良かったです！！
- ・ 話し合いのチームには入らず、2人でイラストをひたすら考えていた。
- ・ がんばりました！！
- ・ 前もって準備しておいたおかげでさくさく進んだのでよかった。
- ・ 議案のまとめから参加した子も良い意見がいっぱい出て、本当にすごいなと思いました。班の中では年上だったけど、私より他の子がとても良い意見ばかりだった。今回で最後だけど、もっと時間がほしいと思った！！
- ・ なんとか完成できて、ふんいきもとても良く、おもしろく進むことができました！
- ・ 8月24日、市長に伝わって奈良の意見の一つになったらしいなと思いました。
- ・ 自分の言いたいことが素直に言える事ができた。
- ・ とても話しやすく楽しい会議だった。
- ・ 最初はいじめという1つのテーマだけで、たくさん話すことができるのかなと心配でしたが、皆優しいし、話しやすく楽しく初めて会った子ども、会議ができたのかなと思います。次の24日のときに市長さんに上手く伝えるような提案ができたらしいなと思います！
- ・ チャイルドラインやフリースクールはあまり知らない人が多いので、まだまだ考えて皆に知ってほしいと思います。
- ・ 市長への提案が決定して、最後だったけど「いじめ」について、すごく考えられた5日間でした。本当に楽しかったです！ありがとうございました😊
- ・ 自分の言いたい事を言えて、話し合えたのが良かった。自分の考えが広がったので良かった。
- ・ 意見書をつくるときに自分の意見を発言することがむずかしかったです。
- ・ 意見書をつくっている時にしっかりと自分の意見を言えたので良かった。
- ・ しっかり考えられた
- ・ 楽しかったです！メンバーがおもしろすぎる！
- ・ 来年は中1なので一つ成長して子ども会議に来たいと思います！

3 アンケート集計結果

第5回奈良市子ども会議の際には振り返りシートの他に奈良市子ども会議全体を振り返ってのアンケートを子どもたちに記入してもらいました。その集計結果は次のとおりです。

回答者数 21名

(問1) 奈良市子ども会議についてご満足いただけましたか。

選択肢	人数	%
満足	20	95%
やや満足	1	5%
普通	0	0%
やや不満	0	0%
不満	0	0%
計	21	100%

(その理由)

【満足】

- ・ 年上の人達と仲良く話し合えたから。
- ・ たくさんの人とふれあえておもしろい人もいたし、やさしい人がいて良かったからです。
- ・ いろいろな見方から話し合いが出来たから
- ・ 楽しくさせていただいたり、飲み物や食べ物もいただいたから
- ・ みんなとたくさん話せたから
- ・ 意見の統合だけでなく議論まで出来たのでよかった
- ・ お菓子やジュースがもらえるだけでなく、学年や学校の違う人と関わることができてよかった。
- ・ 新たに友達も増えて、子どもだけで考える機会もあまりないので、良い会議だと思ったから
- ・ お菓子がもらえるから。友達ができたから。自分が言いたいことが素直に言える場ができたから。
- ・ とても話しやすく、みんな笑顔で話を聞いてくれた。
- ・ 楽しく話し合いができたからです。
- ・ 話し合いが好きだから。
- ・ みんなが一生懸命で話し合いが集中してできたから。
- ・ 自分の言いたいことを話し合えたから
- ・ 話しやすい環境で自分の意見を言いやすかった。
- ・ 話しやすかったし、しっかりと意見を言い合うことができたから。
- ・ 楽しかった。ただそれだけ
- ・ 話しやすい雰囲気があってしゃべりやすい！楽しかったです！！
- ・ みんなとしゃべりやすく楽しかったです！

(未回答1名)

【やや満足】

(未回答1名)

(問2) 奈良市子ども会議を通して自分の意見を言うことができましたか。

選択肢	人数	%
充分できた	16	76%
できた	5	24%
どちらともいえない	0	0%
あまりできなかった	0	0%
まったくできなかった	0	0%
計	21	100%

(問3) 奈良市子ども会議に参加して、奈良市のまちづくりにより興味・関心をもつことができましたか。

選択肢	人数	%
充分できた	14	67%
できた	6	29%
どちらともいえない	1	5%
あまりできなかった	0	0%
まったくできなかった	0	0%
計	21	100%

(問4) 奈良市子ども会議に来年もまた参加したいですか。

選択肢	人数	%
とても参加したい	17	81%
参加したい	2	10%
どちらともいえない	2	10%
あまり参加したくない	0	0%
参加したくない	0	0%
計	21	100%

(問5) 来年も奈良市子ども会議に参加するとしたら、どんなテーマで話し合いたいですか。

- ・ 環境について
- ・ 政治について
- ・ 自由テーマ(4名)
- ・ 子ども達の留学について
- ・ 地域の環境
- ・ 地球温暖化
- ・ 観光産業の振興
- ・ いじめ、みんなで楽しめる施設！奈良市の観光について。
- ・ 非常用設備をもっと学校に置いてほしい
- ・ 奈良県のPRについて
- ・ 自分の家の近くにできる高速道路について
- ・ 奈良市にホテルを作るべきか。
- ・ 1年で奈良市で改善するべきことができれば、それについて話し合い解決したい。
- ・ 奈良市の政治について

- ・ 球技ができる公園が近くにないので、大きい公園をつくってほしい。
- ・ 球技ができる公園を増やしてほしい。
- ・ 「いじめ」！ 今年の内容も踏まえてもっと深いところについて話し合いたい！！
- ・ 奈良県の良さを韓国の人に伝える！

(問6) 奈良市子ども会議に参加して、良かったところ、悪かったところ、変えてほしいところなど、自由に感想や意見を書いてください。(開催時期、回数、場所、内容など)

- ・ 特にないです。
- ・ 良かった所しかありません。アドバイスをしてくれたところ。
- ・ たくさんの人と触れ合えて話し合えたのですごく良かったと思います。
- ・ もう少し、話し合う時間が欲しかったです。でも、いろいろな人から話を聞けて良かったです！！
- ・ 特になし
- ・ 開始時間が10時というちょうど良い時間だった。
- ・ 提案をつくる時間の日だけ、もう少し長くしてほしい。提案をつくってから、市長に提案する日までの時間がけっこう開いていると思う・・・。
- ・ もう少し回数がほしいです。大学生の方がサポーターとしていてくれることで、進めるし、雰囲気もいいし、盛り上げてくださるから、とても良いなと思いました！！
- ・ 自分の意見を言うことができたし、聞くこともできたのでよかった。
- ・ クラブと大会前と重なるのをやめてください・・・。もっと回数を増やしてほしい！！
- ・ あまり日程を広げてほしくない。もうちょっと回数を増やしてもいいと思う。
- ・ 特にありません！ 最後の日のお菓子にアイスがあったのは特別感があって良かったです。
- ・ とても楽しかったので、今のままで良いと思います。
- ・ テーマにそってみんなとこんなに真剣に話し合ったり、自分の意見を発表したりできてすごく良かった！！ 来年も参加したいです！！
- ・ いろいろな人と話し合える機会は少ないので、楽しかったし、貴重な体験になった。
- ・ 回数が増えるにつれ、内容が段々と濃くなっていったので、すごくおもしろかったです。
- ・ 回数を増やしてほしい。
- ・ ないです。
- ・ もっと回数があっても良かったと思います！ とっても楽しかったのですごく満足しています！！
- ・ 図書カードを1,000円にしてほしい。今回のテーマが暗くて少し、いやだ。

(未回答1名)



Ⅲ 奈良市子ども会議意見書

奈良市子ども会議で出された子どもたちの意見をまとめ、市長に提出するための意見書を子どもたち自身の手で作成しました。その内容は次のとおりです。

平成28年度奈良市子ども会議では、参加者募集の段階から全体のテーマを「いじめ」に絞り、5つのグループにわかれて議論を行いました。

そして、テーマについて出された多くの意見を「提案」「提案の理由」「提案からぼくたち・わたしたちができること」として意見書にまとめてくれました。

なお、この意見書の原本は子どもたちによる手書きの意見書になっていますので、この報告書の別冊資料としてその写しを添付しています。

[テーマ・グループメンバー一覧]

「実際に体験し、相談窓口を身近に感じよう！」

野田 望未 藤本 佳奈絵 茨木 恵 吉本 風 上田 笑世
前川 朔哉

「相談窓口の工夫」

大庭 遼吾 櫻井 優輝 向山 愛都 山村 祐輝

「チャイルドラインやフリースクールの人に来てもらう時間を設ける」

吉岡 初音 茨木 潤 野村 成吾 松島 立空 遠山 聡美
渡邊 光輝

「相談窓口の広報 Ver.1」

原田 碧 藤本 レイナ 太田 天乃 石橋 優奈 馬場 充希

「いじめについて知る・考える・話し合う機会をつくる」

東元 博樹 川口 虹波 伊田 稚菜 西浦 ホセ 伊藤 虹架

(途中欠席のため、グループには未加入の参加者)

田畑 桂 鍛冶 優里亜

(1) 「実際に体験し、相談窓口を身近に感じよう！」意見書

[テーマ] 実際に体験し、相談窓口を身近に感じよう！

[チーム名] やぶさめteam

[提 案]

学校で時間をもらい、チャイルドラインにかけける練習をしてみる。(体験なので、「楽しかったこと」を話す)

- ・学校に4台、けいたいを買う。(無理なら、学校の電話)
- ・プライバシーを守るため、電話をするときは、部屋に誰もいない
- ・6時間目などの後半に電話し、「うれしかったこと！」を話す。
- ・あらかじめ、チャイルドラインについて学ぶ。

[提案の理由]

まず、みんなが、気軽に電話をかけられるようにするのが目的です。

今までは、チャイルドラインときいても、「いじめ専門かな？」と思ったり、「名前言わなあかんな？」などの不安がありましたが、チャイルドラインについて学ぶと、安心して、かけられると思います。

どんな話でもいいので、電話してみると、悩みも相談できると思います。

結果、1人で抱え込むことなく、悩みをうちあけられると思うし、なぐさめにもなると思います。

このことにより、電話の練習をするといいと思います！

また学校で時間をもらう理由は

- ・各家庭でさせるとやらない人が出てくる。
- ・学校ですると言えばチャイルドラインの支援センターの方へ依頼するのが簡単

電話相談に絞った理由は

- ・子どもたちの理解が及んでいないから(ハードルが高いと感じられている)
- ・メールだとその場で返信がこないから。

[提案からぼくたち・わたしたちができること]

- ・事前にチャイルドラインの概要やルールをプリントなどにして教室に貼っておく。
- ・授業で練習した後もチャイルドラインの有用さを忘れられないようにアピールする。
- また、他にも相談窓口があるということを広める。
- ・学級代表が事前に皆の前で電話をして(あくまで模擬的に、当たり障りのないこと)見本を示しておく

(2) 「相談窓口の工夫」意見書

[テーマ] 相談窓口の工夫

[チーム名] 奈良のゆかいな仲間達

[提 案]

相談相手の情報を教えてほしい

[提案の理由]

- ・誰と話すのか、分からないと不安だから。
- ・どんな人に相談するかを分かっておきたいから。

<提案の具体例>

- ・QRコード（チラシ・ポスター）でホームページにつながるようにする。

↓

- ・ホームページでは、相談相手の顔写真・年齢・性別・名前などの自己紹介動画がのって・いて、それを見たら情報が分かるようにする。

読み取る機械がない場合、

- ・相談相手の顔写真・年齢・性別・名前などが書かれているプリントを配ってもらう。
- ・学校の中休み・昼休みにパソコンルームに行って調べる。
- ・手紙や電話できく。

[提案からぼくたち・わたしたちができること]

相談相手の情報をしっかり確認する。

(3) 「チャイルドラインやフリースクールの人に来てもらう時間を設ける」意見書

[テーマ] チャイルドラインやフリースクールの人に来てもらう時間を設ける

[チーム名] ダイアルゴッド

[提 案]

学期に1～2回、学校にチャイルドラインやフリースクールの人に来てもらい、各クラスで話してもらう時間を設けてください。

[提案の理由]

- ・チャイルドラインは、堅苦しいイメージがあるので、そのイメージを変えたい。
- ・顔が見えないから実際に会って信頼性を深め、心のドアを開きたい。
- ・直接話し合う時間を設けたいから各クラスに来てほしい。
- ・フリースクールについて知ってもらい身近に感じてほしいから

[提案からぼくたち・わたしたちができること]

1. 児童会や生徒会を中心に意見箱から出た意見をもとに自分たちにできることを考える。
2. チャイルドラインやフリースクールについてのポスターを作ったりすることで興味や・関心をもたせる。

(4) 「相談窓口の広報 Ver.1」意見書

[テーマ] 相談窓口の広報 Ver.1

[チーム名] Sunny Girls

[提 案]

相談窓口の広報のために、身近なものを使って宣伝する。

例えば、ティッシュやマンガ、マグネット、個人懇談を通して親に伝えたり、夏休みの宿題として作品を募集する。また、掲示板（HP）を利用するなどということを考えています。

そして、自分の言いたいことを、電話や手紙で相談できるという相談窓口をこれらで宣伝します。

[提案の理由]

身近なものを使う理由は、

- ・ 広まりやすいから
- ・ よく使うから
- ・ 無料というのも良いから
- ・ 一目でみて知ってほしいから

↓

思わず目がいくデザインや相談窓口にする

↓

興味がでる

↓

捨てない！！と考えたから

[提案からぼくたち・わたしたちができること]

◎ティッシュ配り

ティッシュの中にはいつている紙をカラーにする。

ポスターを持ちながら宣伝する。

⇒ 学校ごとに行うのも、学校の意識が高まり、効果的だと思います！！

◎夏休みの宿題として宣伝

作文、絵、俳句、作品など自分の得意なことを生かして参加してもらうために生徒会などで企画しようと考えています。

◎HPなどで広めていきます！

(5) 「いじめについて知る・考える・話し合う機会をつくる」意見書

[テーマ] いじめについて知る・考える・話し合う機会をつくる

[チーム名] いじめぼくめつ四銃士

[提 案]

キラキラフレンズトークの日をつくってください。

キラキラフレンズトークの日とは…

一人ひとりのキラキラ輝く個性をほめあってみんなのキズナを深めていこうという日です。

[提案の理由]

今、小5・中2の1,003名中16.2%の人が自分の悩みを自分で抱え込んでいる人がいます。今、悪い部分がシェアされているので、思ったことを言える機会があれば、逆に良い部分をシェアしていけると思ったからです。自分のニガテな人の良い部分を知れた結果、「良い部分もあるのだと再認識できた。」と言ってもらえると思います。そして、再認識できた良い部分をまずは班から、学級へ、そして、学年へと、みんなの仲を広げていけばみんなのキズナが深まると思ったから。

[提案からぼくたち・わたしたちができること]

週末の6時間目のキラキラフレンズトークの時間に…

◎ ほめ合う◎

◎ 時には遠足・ゲーム・大きなアート作りや劇などをしてクラスメイトの知らなかった一面を知って仲良くなる

◎ 一言日記にそれぞれの良いところを書いてみんなとシェアする

作成中



平成29年度奈良市子ども会議集合写真

第1回奈良市子ども会議開催時撮影(平成29年7月25日)

平成29年度奈良市子ども会議報告書

平成 年 月

【発行】

奈良市子ども未来部子ども政策課

〒630-8580 奈良市二条大路南一丁目1番1号

電話:0742-34-4792 FAX:0742-34-4798

E-mail:kodomoseisaku@city.nara.lg.jp

奈良市子どもにやさしいまちづくりプランの 平成28年度進捗管理に係る委員評価(案)

奈良市子ども・子育て会議委員から「奈良市子どもにやさしいまちづくりプラン」の点検・評価に関してご記入いただきましたご意見等をもとに主なご意見を事務局案としてまとめています。

◆ 奈良市子どもにやさしいまちづくりプラン

[基本方針1 子どもがいいきと心豊かに育つまちづくり]

① 子どもの権利保障のための取り組みの推進(No.1)	1
② 乳幼児期の教育・保育の提供体制の確保(No.2～No.7)	2
③ 質の高い教育・保育の一体的提供と内容の充実(No.8～No.15)	4
④ 豊かな人間性と生きる力を育む学校教育の充実(No.16～No.24)	6
⑤ 子どもの居場所や体験活動の充実(No.25～No.33)	7
⑥ 心身の健やかな成長のための取り組みの充実(No.34～No.39)	9

[基本方針2 子どもを安心して生み育てられるまちづくり]

⑦ 妊娠から出産、子育てまでの切れ目ない支援の充実(No.40～No.51)	10
⑧ 健やかな成長発達を促すための相談体制・情報提供の充実(No.52～No.59)	11
⑨ 小児医療体制等の充実(No.60)	12
⑩ 子育て中の親子の居場所づくりの推進(No.61～No.66)	13
⑪ 多様な子育て支援サービスの充実(No.67～No.70)	14
⑫ 子育てに関する相談体制・情報提供の充実(No.71～No.75)	15
⑬ 子育て家庭への経済的な支援の充実(No.76～No.79)	16
⑭ ひとり親家庭への支援の充実(No.80～No.86)	17
⑮ 障がいのある子どもと子育て家庭への支援の充実(No.87～No.99)	18
⑯ 児童虐待防止などの取り組みの充実(No.100～No.102)	19

[基本方針3 地域全体で子どもと子育て家庭を見守るまちづくり]

⑰ 地域における子育て支援活動の充実(No.103～No.105)	20
⑱ 地域における子どもの見守り活動の推進(No.106～No.109)	21
⑲ 男女共同の子育ての推進と子どもを大切にする社会的な機運の醸成(No.110～No.111)	22
⑳ 安心して外出ができる環境づくりの推進(No.112～No.116)	23

① 子どもの権利保障のための取り組みの推進(No.1)

[各事業]

(No.1: 奈良市子ども会議開催事業)

・参加した子どもの満足度も高く、意味のある充実した取り組みになっていると思う。ただ、参加する子どもが一部の生徒・児童に限られてしまっているという点はあると思います。「奈良市の子どもたちにとって」と考えると、各学校の児童会や生徒会、あるいは地域教育協議会や放課後子ども教室などとの連携を図るなどの工夫で、より多くの子どもたちの参加する取組から出てくる意見を持って臨む形の子ども会議というものになれば、その価値も高まるのではないかと思います。

・子ども自身が考え、提案し、可能なことは実現していくというプロセスを体験することは、子どもの自尊心を高めると考えます。

・事業の推進については、テーマ設定方法や募集方法の再考が必要。

・昨年度の子どもからの意見書について、どのようなことを市が実施したのかについて、わかりやすく解説していくことが必要だと思います。

・今後もっと「奈良市子ども会議」の存在について周知を図っていく必要があると思う。

・政策実現型の子ども会議として、関西地区では先進的な実践を取組んでいると評価している。点から線へ、線から面に広げていくために、中学校区ごとにより身近な生活課題についておとなと一緒に話し合い、施策に反映できるようにしてほしい。また審議会への子ども若者の参加も検討してほしい。

・「子ども会議」に参加した子どもたちが、引き続き活躍できる場があるとよいと思う。子ども同士の学び合いの場が生み出せるとよい。

② 乳幼児期の教育・保育の提供体制の確保(No.2～No.7)

[総 評]

・子育て支援の受け皿として必要なことは、子どもの最善の利益であり、子どもが10年20年後に人として育ったのかである。長期的視点での検証及び総合的・包括的に見る視点が求められる。預かり保育や休日保育は、評価はCであるが、本当に必要な視点はどこかを考えることも大切である。利用率だけではかれる内容ではない。今後は必要な利用者が利用できる体制構築も視野に入れる評価が必要と考える。また、地域住民や保護者の理解が重要であり、双方にとって、またこれからの子育て世帯や子どもの最善の利益を考えた取り組みを目指す必要がある。

・土曜の夕方以降、日曜祝日の保育の少なさ、病児保育の時の親子のケアをどうするかが、課題として残っている。

・財政上の問題と理想論とのミスマッチが大きく、解決に向けてのハードルは高いとは思いますが、時代ニーズにマッチしたスタイルの整備・設置・事業運営をお願いしたいと思います。

・待機児童の増加や育児する親・子どもの両方の角度から考え、現代の社会や育児の状況と、市のこども園や保育園の行政の計画がマッチしているかを今一度検証・検討していただくことを望みます。

現在は、子育ての当事者が行政の制度に無理やり合わせて育児する状況になっているように思います。育児する人達がどのように子育てをしたいかを調査していただき、それに合うような行政計画をたてていただきたいです。ちなみに、3歳からの子ども園では今の育休制度では3歳までは待てません。加えて、私立認定保育園から私立認定こども園への移行は、待機児童の解消にはなっていないと思います。

・市立こども園の設置は、私立幼稚園の認定こども園移行についてということで評価が高くなっている。確かに尽力してきた経緯がある。しかしながら、「協議を進め、保護者の増加・多様化する保育ニーズに迅速に対応し、市全体の更なる教育・保育の充実を目指す。」ことに終わらず、設置計画が保育ニーズに迅速に対応してはじめて言えることではないか。今後の課題である。これは「保育所等の延長保育」項目についても同じことが言える。また、「幼稚園の一時預かり保育」「休日保育事業」「夜間保育事業」はC評価である。多様化する保育ニーズに対応するためには、これらの課題の実態と必要性を考慮し、事業の拡充を目指すことが大切である。

[各事業]

(No.2:教育・保育施設及び地域型保育事業の整備)

・昨年度は予算を全く執行していない状況ですが、既存施設の増改築でも費用は掛かるもの。これは小規模保育施設を設置していくという方針をやめて、既存の保育所などを増改築して定員を増やしていくという方針を決めた一年間だったということでしょうか。待機児童解消の問題は差し迫った課題と言えますので、スピード感を持った施策が必要と思われます。

・「中央区域及び西部南区域の保育所待機児童の解消を目指す」実体把握は進んでいると思うが、西部・北部地域からの入所者も多い。駅前保育所確保だけでなく、西部・北部地域での充実を。

・本プランでも指摘しているように「乳幼児期における教育・保育は、生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要なもの」であり、本条例の理念でもある「子どもの最善の利益を保障する」観点からも、当初の目標そのものを抜本的に見直し、小規模保育事業や幼保再編によるこども園化を基本にした対策ではなく、公設公営も含めた特定保育施設の整備拡充へ、基本施策を転換していくことが望ましい。

・待機児童の解消は喫緊の課題であることから、新設・既存施設の増改築を問わず積極的に推進してほしい。

(No.3:市立こども園の設置)

・市立こども園の設置数が幼保再編実施計画どおりに進んでいる一方で、提供していただいたデータによれば平成29年度は待機児童数が増加(85名から163名)しています。定員を確保するという点だけでなく、通園や通勤の利便性や地域性、こども園化に伴う様々な不安なども考慮していかなければならないとも思います。もし「以前の形なら利用出来たのに」といったケースがあるのならば、そうした声から実施計画を考えていく必要もあるのかとも思います。

・市立こども園の再編については他の評価も同様であるが、必ずしも計画通り執行することが高評価とは言えない。本プランの最大の目的は子育てしやすいまちづくりにあり、保護者や地域住民の声に謙虚に耳を傾け地域によっては幼稚園や保育園を存続させるなど、再編計画の見直しも含め柔軟に対応すべきではないか。また、幼保連携型については、3歳以上の園児は設置運営基準により同じ年齢での学級編成が原則となっており、生活リズムの違いや長期休暇のあるなし、幼稚園教諭と保育士による勤務条件や保育感の違いなど、全国的にも様々な問題点が指摘されている。幼保連携型だけに固執せず、幼稚園型、保育所型、または保育時間の延長(実質2号認定)など、周辺地域の実態やニーズも加味し柔軟に対応していくことが求められる。

(No.4:幼稚園等の預かり保育)

(No.5:保育所等の延長保育)

・体制充実によって待機児童の解消にも繋がると思うので、未実施のところでの実施の推進が重要。延長保育や、一預かり保育を希望する人の実体把握が重要である。特に、シングル家庭での把握が、貧困家庭対策の参考になり、その後の小中学校での対策になる。

・No.4で、評価がCになっているのが気になるが、待機児童を持つ保護者の教育や保育に対する考え方によるニーズと各施設の設置や変換の方向性が少しずれているように感じる。保育所での延長保育、幼稚園や認定子ども園での預かり保育を増加させようという狙いは分かるが、それに伴う人件費や実際の人員確保など難しい現状があると思われる。保育士の質の向上と処遇改善及び幼稚園、認定子ども園の教諭(保育教育士)についても同じく処遇改善について早急に取り組むべきではないかと思う。

(No.4:幼稚園等の預かり保育)

・新制度により、保育短時間、保育標準時間の2区分となり、それを超えた場合は延長保育料が発生する仕組みとなり、前年度からは認定が厳格運用になり、特に短時間認定を受けた保護者は日々変動する仕事の終了時間とお迎えの時間のせめぎ合いのなかで余裕を無くし子どもにきつく当たったり自責の念に駆られたり、逆に、保育時間が保育料の対価であり権利であると認識することで、子どもの迎えの時間が遅くなり、保育量が増大するといった弊害も生れている。保育で大切な子どもを保護者と保育者が共同して育てていくという意識が希薄化し保護者と保育士との間に分断を生むことなども懸念されており、こういった視点からの評価も検討すべきと考える。園や保護者から聞き取りするなど、実際にどうなっているのかを検証し、保育料の差が1.7%しかないなかで短時間・標準時間の区分をなくすことも含め再検討すべきと考える。

・利用者の実績値が低い原因は何かの分析・検討が必要。そもそもニーズがないのか、ニーズはあるが、周知が不十分なのか、周知はされているが利用しにくい制度のためなのか、その原因によって対応策も異なる。

・待機児童を解消するためには、様々なリソースを活用する必要があり、幼稚園での一時預かりもしっかりと取り組むべきであると考え。目標となる人数をしっかりケアできるよう取り組んでほしい。

(No.6: 休日保育事業)

・休日保育については実施箇所が少ないため就労場所等への通勤時間の関係から預けにくく、実際には高額な自費による託児所へ預けるケースも少なくない。各園でアンケート調査を行うなどニーズの高い園で優先的に実施できるよう予算化の検討を。
・ニーズを把握した上で、周知とともに、利用しやすい制度を検討することが必要。

(No.5: 保育所等の延長保育)

(No.6: 休日保育事業)

(No.7: 夜間保育事業)

・保育士の確保の問題などもあり、ニーズをしっかりと把握していただき、適切な対応をお願いします。

(No.7: 夜間保育事業)

・実績が減少しているので、様々な手法での情報発信を積極的に行い、増加につなげてほしい。
・情報の提供方法についての検討が必要。なぜ、情報が十分に必要な保護者に届いていないのか、現在の取組を評価した上で、今後可能な具体的方策の提示が必要。

③ 質の高い教育・保育の一体的提供と内容の充実(No.8～No.15)

[総 評]

・今後、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、幼稚園教育要領、保育所保育指針が改訂になり、小学校との接続の部分を丁寧に見ていくことが大切になる。奈良市で作成した奈良市立こども園カリキュラムの見直しや改訂に向けての取り組みを進めていくことは大切である。しかしながら、〇評価としているところは、もう少し頑張って取り組んできたこととして自信を持ってよいのではないかと。改善すること、やってきたことを否定することとはちがう。連携が進んでいる園とあまりできていないところがあるので、奈良市全体で進めていけるようにしていくことが大切である。研修の推進は質的保障の根幹である。特に就学前の研修の充実には保育所・こども園を含めて求められる。幼児教育センターの配置や新採用者に対するアドバイザー配置などは、幼稚園・保育所・こども園・小学校、公立民間が一致して実施していくことが今後の課題である。子どもにやさしいまちづくり条例がせっかく奈良市としてあるので、それを生かした研修などがあるとういと思う。

放課後児童健全育成事業、児童館の事業の更なる充実を願う。子ども食堂など帰宅後一人で過ごす子どもが多い校区では、子ども食堂の実施を助成するなどの対応があればと思う。放課後の過ごし方が子どもの人との関係性の育ちにつながる。評価は単なる事業実施だけではなく、子どもの笑顔や人との関係性、登校率などに相關していけたらと思う。また、児童館と連携した取り組みや地域の子育て支援拠点として、子育て親子を対象とした交流、子育てについての相談、情報提供、その他の援助を行う子育て広場の実施、地域における子育て支援の充実につながる利活用の促進が課題である。

・多様なニーズに応えるために新しい保育や教育のあり方を検討するべき。オルタナティブスクールなども保育・教育の選択肢として検討していったり、保育園の先生や学校の先生の業務効率化で、IoTの導入を大胆に検討していくべき。

・昨年、今年とメディアでも話題になったいくつかの保育園や幼稚園での運営問題は、行政からのチェック体制の不備(人手や予算がないため?)も指摘されていました。行政で認定した園については少なくとも書面だけでなく抜き打ちでチェックできる体制を作っていただくことを望みます。

[各事業]

(No.9: 保育所及び幼稚園等と小学校との連携の推進)

(No.10: 特別支援教育支援員の配置(幼稚園))

(No.11: 公立保育所の充実)

(No.14: 保育所等のサービス評価の実施)

・これらの事がCの評価というのは、奈良市で子育てしていく上で非常に不安を感じる評価です。待機児童を数字上で解消できても、この部分での評価がプラスにならないければ、意味がないように思います。

(No.8: 保育所及び幼稚園等職員研修の推進)

(No.9: 保育所及び幼稚園等と小学校との連携の推進)

・現場の先生方は現状ですら多忙なのではないでしょうか。推進を行う為には、推進出来る体制を整える為の現状見直しが必要では。

(No.12: 保育所等における食育の推進)

(No.14: 保育所等のサービス評価の実施)

・第三者機関等より複数の方々の意見を取り入れては如何と思います。

(No.8: 保育所及び幼稚園等職員研修の推進)

・保育の質は研修も重要であるが、学びを実践に生かし、実践から教訓を導き出し職員みんなで共有することが重要で重要。経験を積み重ねていくためにも、その前提として、保育士が働き続けられ環境をつくることが重要となってくる。認可保育所(公立・私立)で働く保育士の勤続年数を明らかにし、保育士の労働条件、労働環境の改善をはかるなかで、他の指標と同様に数値目標化することが重要ではないか。また、本プラン、条例の基本理念、園児数からも公立だけでなく私立の職員についても園の経営者任せにせず同様の研修や勤続年数のアップが保障できるよう一定の予算措置が必要ではないか。

・様々な研修があるなか、奈良市としての独自の研修と、県との連携を必要とした研修を公私立全体で計画をたて受講できるよう、引き続き取り組んでいただきたいと思います。

(No.9: 保育所及び幼稚園等と小学校との連携の推進)

・保育所は幼稚園に比べ広い地域からの通園しており卒園後の小学校がバラバラになるところもあり、小学校との滑らかな連携ということが難しい状況もあると思います。こども園化が進む中で「連携が進んでいる園とあまりできていない園」といった違いがどこから出てくるのかを分析し、何かしらの目標・指標を打ち出していく必要があると思います。

・今まで以上に小学校への継続が大切とされていることもあり、公私立全園が小学校との連携を図れるよう引き続き取り組んでいただきたいと思います。

・これから育ちゆく子供たちの礎となる重要な課題である故、「連携」や「推進」といった言葉で終わることなく、具体論としての取り組みへの議論をお願いしたい。

・奈良市全体で幼小接続を進めていくためには、小中一貫教育とつなげながら、中学校区ごとに保幼小中合同研修等を重ねていくなど、学校区単位での丁寧な積み重ねが必要。

(No.10: 特別支援教育支援員の配置(幼稚園))

・特別支援学級等の充実は多様な教育・保育ニーズに対応するために、極めて重要なことであり、早期の充実をお願いしたい。

- ・特別支援に関しては現場のニーズにこたえられるべく支援員の配置やそれに関する研修が受講できるような処遇改善に積極的に目を向けて頂きたい。
- ・支援員の研修として、参加体制の見直しに加えて、勤務園に専門家を派遣し、園全体で研修を行うなどの研修方法の充実・検討も必要。

(No.11: 公立保育所の充実)

- ・課題に書かれている内容からの指標としては、入所児童数よりも保育士数の方が適切なのかと思います。
- ・保育士不足の解消においては、指摘されているように臨時保育教育士の処遇改善が喫緊の課題。保育士離職者が復帰しやすいように、研修制度(講義・実習)の検討が求められる。

(No.12: 保育所等における食育の推進)

- ・調理段階では適切な除去食や代替食を管理できる栄養士(あるいは調理員)の存在が必要で、また食事時間中では混入や誤飲などによるアナフィラキシーショックにも職員が適切に対応出来るような研修等が必要だと思います。子どもの命に関わる問題でもあり瞬時の判断の遅れが重大な結果につながる場合も、マニュアルだけでない十分な準備が必要かと思います。
- ・食物アレルギーを持つ乳幼児は増加傾向にあり、全国的には死亡事故などの重大な事故も多数報告されている。対策については保護者との連携強化やヒヤリハットになどの情報共有は大事だが、入所児童数の増加に伴いアレルギー対応児が増加するなか、個人の努力だけでは限界であり、アレルギー対応児の多い園への調理職員の加配などの一定の予算措置が必要ではないか。

(No.11: 公立保育所の充実)

(No.13: 民間保育所等運営費補助金)

- ・公立、民間を問わず保育所では非正規雇用が主力となっており、公立では5割、民間ではバラツキはあるものの高いところでは7割、9割が非正規という園もあり、生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要な時期を担う保育、教育体制として疑問を持たざるを得ない。一般的に保育士の労働環境はブラック化しており、介護と並び人が集まりにくい職種といわれている。公立でも非正規となると、賃金も低く、土曜出勤や時差勤務など、労働条件的にも良くなく就労につながりにくい。本条例の理念でもある「子どもの最善の利益を保障する」観点からも、非正規も含めた思い切った処遇改善が必要。

(No.14: 保育所等のサービス評価の実施)

- ・第三者評価制度については実績がなかったが、働きかけだけで実施につなげることができるのか。
- ・第三者評価を受審した施設数が0であった原因は何か、課題を明確にした上での具体的な対策が必要。

④ 豊かな人間性と生きる力を育む学校教育の充実(No.16～No.24)

[総評]

- ・教育の充実が求められるなか、デジタル化に偏ることなくそれぞれの事業が進められることを望みます。
- ・子供達のICT化だけでなく、先生たちの業務の効率化も行い、先生が子どもとじっくり関わる時間をとれるような仕組みを作れたらいいと思う。昔に比べて学習に躓きのある子どもへの配慮は進んできていると思う。特別支援学級への通級など、障害手帳がなくても入れるようになったのは、ありがたい。
- ・具体的な事案として、③質の高い教育・保育の一体的提供と内容の充実(No.8～No.15)の事業とそれぞれ有機的に連携して頂きたいと思います。

[各事業]

(No.16: 人権教育推進のための副教材の配付)

- ・奈良市独自の郷土に愛着が持てるような教育を実施できるように今後も目指して頂きたい。
- ・子ども達に本当に響いているのか、子ども達自身に聞き、こまめに検証していただければと思います。
- ・人権の中でも、子どもの権利学習+子どもにやさしいまちづくり条例を啓発する内容を盛り込んでほしい。

(No.17: 地域で決める学校予算事業)

- ・会計担当者設置は実務的に重要なポイントだとは思いますが、地域で決める学校予算事業を形骸化させない為には、学校・地域・保護者がどれだけこの事業の内容や意義を理解しているのかが重要かと思っています。
- ・中学校区の連携において、会計研修を行っている時点で、学校、教員、地域に負担のかかる事業であるように感じる。

学校の特色をより出しやすいプログラムにすべきではないでしょうか。

- ・評価0ということなので、具体的な方策が見えてこない気がする。
- ・地域教育協議会では、子ども参加をより大切にしてほしい。また、地域が学校を支援するだけでなく、児童・生徒が地域の課題を一緒に考えていき、子ども会議と連携する工夫を図ってほしい。そのためには、地域教育協議会の平準化が必要だと考える。
- ・No.9「保育所及び幼稚園等と小学校との連携の推進」の連携強化とも重ねて、中学校区単位での連携を進める仕組みづくりを期待する。市内の中学校区の中で、連携がうまく進んでいる事例から学ぶなど、好事例を広げる仕組みなども考えられる。

(No.18: 世界遺産学習推進事業)

- ・「世界遺産学習」＝「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えたことがある」は、ひとつの観点だとは思いますが、単純に結び付かないようにも思います。この項目の目標値として、もっと適切なものはないでしょうか。
- ・「奈良で学んだことを誇らしげに語る」と世界遺産学習がイコールになるとは考えづらい。指標である「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えたことがある児童の割合」を高めるために、どのようなことが必要なのかの検証が必要ではないでしょうか。
- ・実施したのであれば、目標値に比べ実績がどうであったのか評価してほしい。
- ・インプットだけでなく、子ども達自身が学んだことをアウトプットできる機会を是非たくさん作ってあげてください。

(No.19: フューチャースクール構想実証事業)

- ・実際に教育効果のあるICT機器の活用が求められると思います。生徒の満足度より「タブレット端末の学習効果」というものを指標化出来ないものではないでしょうか。
- ・満足度が高く維持されていると思う。引き続き端末の更新に取り組んでほしい。

(No.20: 地域に開かれた魅力ある学校・教育の推進(学校の自己評価))

- ・仕組みづくりは目標を上回り評価できるが、今後は評議員からの活発な意見がいただけるよう取り組んでもらいたい。

・PTAや地域の住民など自分の校区ではない学校も申し込み制などによって見学できる機会があれば良いと思う。子ども達も、自分の学校以外の学校を見学し、案内も児童にさせるなど、相対的な評価ができ、いろいろ学べることもあるのではと思います

(No.22: 小学校での少人数学級の実施)

- ・少人数学級の実施において、クラスサイズを小さくすることだけでなく個別対応を重視していくという市の方向性は分かりますが、〇〇人以下といった明確な目標もなくなり、良くなっているのか否かは身近なところの体感的なものになっています。評価する上で「目に見えにくくなっている」とも感じられます。

(No.23: 教職員研修の推進)

- ・教職員研修の推進は質的保障の根幹である。特に就学前の研修の充実には保育所・こども園を含めて求められる。幼児教育センターの配置や新採用者に対するアドバイザー配置などは、幼稚園・保育所・こども園・小学校、公立民間が一致して実施していくことが今後の課題である。子どもにやさしいまちづくり条例がせっかく奈良市としてあるので、それを生かした研修などがあるとよいと思う。
- ・研修を受けた人の満足度を目標に設定するのと合わせて、「研修に参加したかったけど、できなかった」「研修に参加したくなかった」というような研修に参加しなかった人達の声を聞いた上での目標を設定するのはいかがでしょうか。より意義のある研修内容を検討できるのではないかと思います。
- ・子どもも教員も疲れているような気がします。多忙化、孤立化を防ぐためにも、若い教員が意見をいいやすい環境、教員が助け合える環境を整えてください。その上で、子どものいのちが大切にされる教育が引き続きなされることを願っています。

(No.24: 中学校給食実施事業)

- ・中学校全校の給食開始は、保護者の負担の軽減につながるので非常に評価できる。また、保護者の費用負担も軽減できるよう取り組んでいただきたい。

⑤ 子どもの居場所や体験活動の充実(No.25～No.33)

[総 評]

・子どもにやさしいまちづくり条例を研修の項目に入れたらどうか。貧困家庭に対する学習支援、文化的豊かさを享受するための機会の保障、遊びの権利の保障を考慮したプログラムを検討する必要がある。深刻な課題といえる。帰宅後一人で過ごす子どもが多い校区では、子ども食堂の実施を助成するなどの対応が求められる。ただ、子どもだけではなく、擬似的な出会いの場として高齢者や地域の様々な方が集えるようなことも必要である。子どもの格差は放課後の過ごし方に顕著に表れると考えられる。

評価は単なる事業実施だけではなく、子どもの笑顔や人との関係性、登校率などに相関していけたらと思う。また、児童館と連携した取り組みや地域の子育て支援拠点として、子育て親子を対象とした交流、子育てについての相談、情報提供、その他の援助を行う子育て広場の実施、地域における子育て支援の充実につながる利活用の促進が課題である。

児童館の事業等を広く普及し、広報することは、放課後事業にも繋がる。C-評価で終わることなく、連携が求められるのではないかと。

・これから夫婦ともに就労している家族は増えていく中で、地域で子どもを育てる仕組みは大事だと思う。小学生になると子どもの親の姿が見えにくくなり、何かあっても気軽に話ができる環境でないのが気がかりである。親が先生や支援者とだけでも繋がり合える仕組みをどのように構築するかが課題だと思う。

・保育所において、延長保育等に頼っていた保護者が、子どもたちの放課後の預け先に苦勞する話は非常に多く聞きます。

保育所・幼稚園から小・中学校までの連携を密にするためにも、子どもたちの放課後について、より充実したサービスの提供が求められます。

・「黒髪山キャンプフィールド(No.28)」「児童館(No.29)」「スポーツ体験フェスティバル(No.30)」「スポーツ少年団(No.31)」等々広報に関する情報提供に力を注げば更に良いのではと思います。

・子どもの居場所・特別支援が必要な児童に対する支援に至るまで、是非各学校の図書室を活用して欲しい。どの児童も公平に通える図書室は絶好の場所だと思います。さらに、教師の授業支援や子どもの読書推進、関連機関との連携など図書室運営できる学校司書の配置を切望します。加えて、子ども達自身に放課後や学校・教室以外の居場所の希望を聞く努力をしていただけたらと思います。子どもたちの希望と大人の考えている居場所がマッチしているかを是非検証してください。

・広報活動に関わっては、他の事業においても、その強化が求められている。事業ごとの強化だけではなく、市全体として、事業を関連付けながら、総合的に広報を強化していく視点も必要だと考える。

[各事業]

(No.25:放課後児童健全育成事業)

・バンビーホームも保育所同様に隠れ待機児童の問題はあると思います。研修会等の充実を図って頂いているとは思いますが、まだまだ「バンビーホームを利用したいが出来ない」といった家庭もあるように思います。より一層の保育の質の向上が求められていると思います。

・多様な働き方による学童保育の潜在的なニーズを含めて把握していくことが必要だと考えます。

・保育所・幼稚園から小学校への連携と共に、学童保育への連携も大切なことの一つだと感じています。今以上にしっかりと連携を取れる仕組みを作ることも必要だと思います。

・目標を上回っており評価できる。更なる事業内容の充実に期待したい。

・共働き世帯や一人親家庭の増加に伴い、バンビーホームが過密状態であることを心配しています。放課後の時間を安心して過ごせるように、人員配置と快適なスペースの確保を図ってください。また、放課後の格差といわれる中で、バンビーに通う子どもたちの遊びの権利保障、学習権保証を図ってください。さらに、他府県では帰宅後ひとりぼちで食事している子どもの増加に対応して、学童保育で子ども食堂を行っている学校もあります。困窮家庭のニーズに対応してほしいと思います。児童デーサービスが充実してきたことにより、障害をもつ子どもの居場所が確保されましたが、一方で、分断化、孤立化が進んでいます。個別支援に集中するあまり、いっしょに助け合うという文化が失われつつあるように危惧しています。いぜん中高校世代の放課後の居場所が充実していません。中高校世代の居場所について検討してください。

(No.26:放課後子ども教室推進事業)

・放課後の子どもの居場所づくりという点でとても意味のある事業ですが、保険の問題の解決を図って頂きたいと思っております。現状のPTA安全会の保険を適用しているという不整合を解決するには、各放課後子ども教室毎に別途保険への加入が必要となりますが、年会費のようなものを徴収しなければならなくなりますし、そうなれば「誰もが」という居場所とはならない問題もあります。不測の事故によりこの事業の存続が問われることもあるかとも思いますので、放課後子ども教室に参加する子どもたちへの保険を予算化して頂きたいと思います。

・C評価とされた課題がみえにくい。具体的にどこを改善すれば、目標が達成されるのか。バンビーホームと連携しながら質量ともに向上が必要と言うことか

(No.25:放課後児童健全育成事業)

(No.26:放課後子ども教室推進事業)

・個別の評価だけではなく、放課後の子どもたちの居場所作りの視点から総合的に捉え、検討することも必要では。

(No.28:黒髪山キャンプフィールド管理運営)

- ・近場で野外活動が可能な施設であり、潜在的な需要は大きいと思います。利用申込みが、利用日14日前までの月・火・木・金・土曜日の午後1時～5時に限られ、電話等での受付もしていないので、申込みがやりにくいとの声があります。電話やFAX、ネットでの申込みも可能にするなどの工夫があっても良いのではないかと思います。
- ・利用者から幅広く意見を聴取し、魅力的なプログラムを作してほしい。

(No.29:児童館事業の充実)

- ・就園前の子どもと保護者を対象としている地域子育て支援拠点事業の充実も大切です。一方で、児童館は児童、中高生の居場所としての機能を充実する取組にも力を入れていただきたいです。
- ・児童館の数が限られ、少子化の中では、利用者を子どもの健全育成と若者が集って来れるプログラムが必要ではないか
- ・C評価に関わって「引き続き」これまで同様の取組を進めることで改善されるのか疑問。いずれも広報活動の強化が改善策として挙げられているが、具体的な方策の提示が望まれる。

(No.33:アウトリーチ活動の実施)

- ・件数は少ないが、参加人数については目標を大きく超えており評価できる。今後は件数を増やし、参加人数の増加につなげていただきたい。

⑥ 心身の健やかな成長のための取り組みの充実(No.34～No.39)

[総 評]

- ・特別支援教育推進事業は今後の課題としてインクルーシブ教育システムの構築を目指してほしい。教育センターに教育相談総合窓口を設け、カウンセラーを配置するとともに不登校や特別支援教育の相談、スクールカウンセラーの配置等を行い、教育に関する様々な相談の充実を目指してほしいが、評価基準は数とはいえない。相談した後の状況把握などが大切である。
- ・どの事業においてもとても大切ですので、引き続き取り組んでいただきたいと思います。
- ・スクールカウンセラーが各学校に配備され、相談できるようになったのは本当にありがたく評価できる。また、特別支援教育の相談の垣根が低くなったと感じている。その分、すぐに相談ができない状況があるので、相談窓口を増やすなどの対策が必要だと思う。
- ・窓口拡充や相談業務の、その後のフォローアップケアも抜けなきよう取り組んで頂けるようお願いします。
- ・子ども達が、困難に面した時、このようなツールがあることを全員が漏れなく知っているかが重要だと思います。
- ・子どもにやさしいまちづくり条例第18条には、子どもが直接相談できる窓口の充実という項目があります。今年度の子ども会議でも子どもたちから相談窓口に関する意見が出ましたが、それぞれの相談窓口で子どもからの直接相談件数はいくらなのか、もし少ないとしたら理由は何だと考えているのか、どうすれば相談しやすいかなどを考えていただきたいと思います。顔の見える広報を行うこと、電話しやすいように学校に出かけていくこと、相談だけではなく、調整や救済にも取り組むこと、メールやライン相談をおこなっていることなど子どもたちの意見も活かしていただきたいと思います。子どものSOSをより積極的にキャッチできる仕組みづくりにチャレンジしていただきますようお願いいたします。

[各事業]

(No.37:エイズ・性感染症に関する正しい知識の普及啓発事業)

(No.39:思春期保健対策(性))

- ・興味本位の情報ソースが氾濫している昨今、家庭及び学校(小・中学)含めた正しい知識の提供が大切

(No.34:教育相談業務の充実)

- ・不登校対応など教育相談の体制の充実は喫緊の課題とも言えます。学校からのつなぎやカウンセリングの予約などで時間がかかるといった面もあるようなので、より一層の充実をお願いしたいです。また、スクールカウンセラーの在校日数が増え、子ども自身ももっと簡単に相談に行ける体制があれば、不登校となる前に手が打てることもあるように思います。
- ・引き続き、積極的に巡回訪問等を実施していただきたい。

(No.35:特別支援教育推進事業)

- ・特別支援教育の充実と切れ目ない支援というところが実際に達成できてきているということであると、評価できるので、今後も引き続き実施して頂きたい。

(No.37:エイズ・性感染症に関する正しい知識の普及啓発事業)

- ・対象学年を高校生から中学生に引き下げることはいかないか。

(No.38:未成年の喫煙対策)

- ・積極的な働きかけをお願いしたい。

(No.39:思春期保健対策(性))

- ・ますます必要性が高まっている。どのような窓口が必要なのか、個別の対応や情報の守秘義務、社会参加への窓口が円滑に行くような取り組みが求められる。
- ・私が身近にいる中高生から相談を受ける場合、自己肯定感が低く、自分の命なんてどうでもいいって感じている子ども若者が多いです。そのような子どもに、命の大切さを伝えるだけでは子どもたちの心に響かないと考えます。気持ちを出せるような居場所や逃げ場の確保、高校において妊娠した場合、出産を準備しながら学び続けることの出来る環境、出産やその後の生活を支えることのできる支援体制を整えることも重要だを考えます。

⑦ 妊娠から出産、子育てまでの切れ目ない支援の充実(No.40～No.51)

[総 評]

- ・乳児期に手厚い支援はますます重要である。努力の結果が出ており一定の評価はできる。今後は、妊娠時からの継続的子育て支援につながるものがさらなる課題ではないか。就学まで一貫した継続的支援構築、及び支援を要する家庭への関係機関とのつなぎや支援計画が求められる。特に、乳児の虐待防止、子育てと乳児保育の連携が求められる。合理的には育たない人間教育をどのように伝えていくのか、そのためには暦年齢だけでは図れないことを伝え、「大人の役割」を子育てに入れていかなければならないと考える。専門性が必要である。妊産婦、乳児に関する取り組みとしては一定の評価はできる。今後は母子健康手帳の効果的活用、一人ひとりにメールなどで送受信できるような情報システムの開発など情報発信が今の時代に適応しているのかを検証していくことが大切である。
- ・乳幼児健診について受診率が上がっていることには目標値が達成できているという意味で、良い評価だと思う。できるだけ100に近い受診率になるよう今後もお願いしたい。また同時に、受診率だけでなく、検診内容の質の向上というか、幼稚園、認定こども園等に入園している子であっても、精神的な発達について未熟な部分などが早期発見できることで保護者の子育ての助けになるような質の高い健診になるようお願いしたい。
- ・一貫(妊娠から就学まで)した手厚い支援に、子育て夫婦は大きな安心感を持たれると思います。継続した取り組みをお願いします。

[各事業]

(No.40:特定不妊治療費助成事業)

- ・晩婚化の流れの中、益々ニーズが高まるのではと思います。継続的な取り組みをお願いします。

(No.42:妊婦健康診査事業)

- ・晩婚化が進み、高齢出産に不安を抱えている人が多いので、さらなる拡充と周知方法を未婚の女性にも周知を図る。
- ・費用負担の軽減は、未受診妊婦の減少につながるので予算確保に努めてほしい。

(No.43:はじめてのママパパ教室/プレママのためのクッキング講座/マタニティー歯つばいチェック(妊婦に対する健康教室))

- ・少子化対策と、父親の子育ての充実は、密接に連携している。奈良市では、イクメンハンドブック等、充実したツールがあるので、より一層の活用と啓発を実施してもらいたい。

(No.44:妊産婦、新生児、未熟児訪問(保健指導事業))

- ・引き続き目標達成に向け取り組んでもらいたい。

(No.45:乳児家庭全戸訪問事業(こんにちは赤ちゃん訪問))

- ・訪問後の乳幼児家庭の日常的な居場所となる地域子育て支援拠点事業との連携を図ることで、よりいっそう支援体制が整うと考えます。
- ・行政による継続支援を必要とした家庭へのフォローも大切であるが、保育所や幼稚園も行政と共に家庭を支援していくことが大切だと思います。
- ・乳児家庭全戸訪問事業については、本来、出産前から関係を作っておくことが重要であることから、ママパパ教室等と連携した取り組みがあってもよいのではないかと考えます。

(No.48:1歳7か月児健診、1歳7か月児歯科健診)

- ・「保護者の育児休業終了後の職場復帰により保育園入所児童が増え、内科健診や歯科健診が保育園でもあることから乳児期より受診率が減少する。」というのは、2重受診をしている保護者がいるということでしょうか。もしそうであれば、保育所等と連携し、保護者の負担を軽減すべきだと考えます。

(No.49:3歳6か月児健診、3歳6か月児歯科健診)

- ・しっかりとした基準で健診を行い、就学前の特別支援が必要な児童への対応を早期に行うことで、小学校への移行をスムーズに行えるようにしていく必要があると思います。

(No.51:乳幼児予防接種事業)

- ・目標値を上回っているのがA評価となるのではないのでしょうか。予防接種については、受けるべきものとリスクがあるものなど様々な情報があり、正しい情報がどれなのかを把握しにくい状況もあると思います。正しい知識のための情報提供の工夫もお願いしたいです。
- ・乳幼児予防接種は、近年その種類の増加、変更等もあり、複雑化しているように思う。予防接種の必要性、種類の周知に加え、具体的にどのように接種を進めていけばよいのか、接種時期、方法等を丁寧に伝えていく必要がある。保育・教育機関等に勤める保育者・教師等にも、新たな情報の周知が必要である。

⑧ 健やかな成長発達を促すための相談体制・情報提供の充実(No.52～No.59)

[総 評]

- ・市民目線に立った更なる推進をお願い致します。(当該施策は、行政だからこそ出来るものであり採算性の面からなかなか民間が参入出来るものではないと思います。)
- ・全体と言えることだが、基本目標の施策の方向性の評価は、個別の事業の評価の積み重ねから総評することになるが、全体像が見えにくい。市として、各施策の方向性の全体としての進捗状況に対する評価や改善点をどのように捉えているのか、総括的な視点が必要ではないか。また、No.57「すくすく相談」では事業の廃止が記載されているが、新規事業の必要性、事業の統合など、全体的なプランの見直しや改善についての評価がほしい。健康相談や歯、発達相談など、共通する内容の事業の連携(子どもの成長につれてどの事業に関わっていけるのか)や独自性が見えにくい。事業ごとの評価だけではなく、関連、継続、全体からの視点をもった評価が望まれる。

[各事業]

- (No.56:きしゃぽっぽ教室(発達支援教室))
- ・組数を減らした状態での目標値達成の見込みはあるのか。見直しが必要なのか。
- (No.57:すくすく相談)
- ・育児相談を行っている保育所や幼稚園を周知し、もっと気軽に相談してもらえるように働きかけることが必要だと思います。

⑨ 小児医療体制等の充実(No.60)

[各事業]

- ・小児科医の配置を進めることや診療の空白時間帯の解消を図るための診療時間の見直し等は至急の課題である。例年通りでよいこととイケないことがある。
- ・夜間や休日の急病は、大人なら自分の感覚で翌日まで待てるという判断もつくが、子どもや特に乳幼児の場合は本人の意思表示も難しくもあり、小児科医の配置が進むことはありがたいと感じます。
- ・緊急時の体制があるというだけで、住んでいる人の安心感が違います。ぜひともさらなる拡充を図ってください。
- ・小児の夜間の病気発症に対応する医療機関の拡充は必須と考えます。更なる予算配分の充実をお願いしたいです。

⑩ 子育て中の親子の居場所づくりの推進(No.61～No.66)

[総 評]

- ・子育ては協力者を募ることや育てる困難さへの理解は必要である。一定の理解は進んできた。しかし、問題は、子どもが育つには、その時々のお生活における大人の働きかけや愛情豊かな応答性である。親でなくとも誰かがその子とを子どもにする大人が必要である。子育て支援が、その時々のお行事におられないよう、大人が果たすべき子どもへの具体的な働きかけの意味を丁寧に伝えていく時期であると考えます。
- ・地域子育て支援の充実をはかるため、事業を超えたネットワークの構築が必要だと考えます。(No.61～64)また、親子支援のみならず、地域と親子をつないでいくというスキルをもつ職員の質向上の研修は恒久的に位置づける必要があると思います。
- ・私立幼稚園でも子育て支援として園庭開放や保護者の情報交換の場としての役割を果たしている部分もあるので、そういう情報を今以上に公開できる工夫ができないかと思う。
- ・時代ニーズとマッチし、地域コミュニティと一体となった推進をお願いします。
- ・全般、父親の参加が鍵となるように思う。子育てに積極的に関わる男性も増えつつある中、イクメンの先輩など、男性スタッフを増やし、父親同士で育児相談ができるような仕組みづくりが望まれる。また、各事業の連携を進めると共に、利用者がそれぞれのニーズに合った事業に参加できるように、それぞれの事業の独自性を明示した事業全体を把握できる広報活動も期待したい。

[各事業]

(No.61:地域子育て支援拠点事業)

(No.63:子育てスポットすくすく広場事業)

- ・多くのイベント、講座は、対象を母親から父親に設定しただけのものとなっていることが多い。父親を対象とするならば、父親の求めるものをしっかりと把握する必要がある。

(No.61:地域子育て支援拠点事業)

- ・保健師が定期的に拠点を訪問する、乳児家庭全戸訪問事業で情報提供を必ずするなど保健センターとの連携をとることで、より充実した子育て支援が可能になると考えます。
- ・父親が参加しやすい雰囲気づくりへの取り組み内容・状況の広報の強化が必要。参加者の増加により、民生児童委員等への財政支援が必要。

(No.62:子育てスポット事業)

- ・子育てスポット会場数の増加が課題。子育て家庭の人たちは身近なところでの開催を希望されている。

(No.64:市立こども園の地域活動の推進)

- ・地域との交流を図るには、地域行事への園の参加や園行事への地域の方の協力といった関係が考えられます。保護者においては幼稚園PTA等は地域行事に関わるところが多数ですが、保育園の保護者会などは、居住地が園の小学校区とは異なる保護者も多く地域との関わりが薄いように思います。幼保一体型のこども園などPTAと保護者会が合体した際にも、従来のような地域との関わりを維持することが難しい面があります。園と地域との関係は保護者のかかわり抜きには考えられないところもありますので、どう地域が保護者を巻き込んでいくのかを考えていく必要があるかと思います。
- ・評議員制度を認定こども園にも導入することが大切ではないか。
- ・地域のものが園の状況がわからないとの声があるので地域にも情報発信が必要。

(No.65:地域に開かれた幼稚園・保育所づくりの推進)

- ・地域のものが園の状況がわからないとの声があるので地域にも情報発信が必要。そして、指標や実績等がないが、「未就園児親子登園を充実させる」事業を行なっている園もあるので実施箇所を指標とするのも一つではないかと思う。
- ・とても大切な事業だと思うので、目標も設定して欲しい。数字では難しいのであれば、この事業を継続するにあたって利用者にヒアリングする努力をしたかどうかなどでも良いとは思いますが。

⑪ 多様な子育て支援サービスの充実(No.67～No.70)

[総 評]

- ・日常から就学前の子どもがカルテを作成しておけるような体制が大切である。子どもの急病に対応するためには、日常かかりつけ医などカルテがあることが重要。保健所や健診との連携が課題である。子育て支援はかかりつけ医との連携も今後は必要であり、医療との連携は子育ての課題といえる。
- ・更なる改善への取り組み及び広報活動の充実をお願い致します

[各事業]

(No.67:保育所等における一時預かり事業)

(No.68:地域子育て支援拠点における一時預かり事業)

- ・一時預かり事業は、認定こども園でも行なっていることから実施箇所の増加を図ることが必要。地域支援拠点の増加や財政支援も含めて。

(No.69:病児・病後児保育事業)

(No.70:子育て短期支援事業)

- ・事業充実はもとより、この事業の受益者の中には貧困による事例を注意深く観察し、支援組織との連携を図る体制を作ることが重要。

(No.67:保育所等における一時預かり事業)

- ・ニーズも高く拡充を図っている事業の実績が、前年度より下がっている原因はどこにあるのかの分析が必要と思います。
- ・子育て支援、児童虐待防止の観点からもニーズの高い事業であり、利便性も含め実施箇所数の拡大が求められる。
- ・保育所等の拡充に合わせて広報活動も積極的に行っていただきたい。

(No.68:地域子育て支援拠点における一時預かり事業)

- ・在宅子育て家庭の休息機能を果たす一時預かり事業はとても必要です。利用促進にむけた案内を乳児家庭全戸訪問事業や健診などの機会、また利用者支援事業などで積極的に情報提供をすすめていただきたいと思います。
- ・一時預かりの最長利用時間が短いように思います。利用時間の見直し設定すれば利便性が高まると思われます。

(No.69:病児・病後児保育事業)

- ・病児・病後時保育についてはその性格上担当課の評価にもあるように当日申し込みのケースが多く、実施事業所の自助努力だけでは厳しい。常に定員一杯までの応需を求めるのであれば、職員確保が十分できるような予算措置が必要ではないか。
- ・病児、病後児の保育は、共働きの保護者にとって非常に重要な取り組みである。子どもの体調は、日によって急激に変化するため、事前予約ではニーズに対応しきれない。民間のノウハウ等も活用し、柔軟な対応を可能にしたい。
- ・就労家庭において極めて必要性が高い。適切な数の看護師・保育士の配置のためには、予算措置が必須。

(No.70:子育て短期支援事業)

- ・核家族化、ひとり親家庭が増加するなか一定のニーズはあると考えるのが妥当。現状では他市町村まで連れていかなければならず利便性が低い。中核市でもある奈良市の人口規模を考えれば民間活用も含め最低1箇所は自前で設置する必要があると考える。

⑫ 子育てに関する相談体制・情報提供の充実(No.71～No.75)

[総 評]

- ・地域としての取り組みは一定の評価ができると考える。課題は、今後就労する子育て者が増加したときのシステム構築である。未就園の孤立化をどのように地域で支援していくのか。講習会の中身は従来型でよいのか。子育ての何が課題であるのかは時代によって変容してきている。大人の生活がこの数年で大きく変容し、子どもの生活も大きく変わっている。そのことと、支援が必要なことは整理しなければならない時期ともいえる。
- ・これらの事業は利用するしない以前に存在を知られているかどうかが重要だと思いますし、周知する努力をしているかどうか重要だと思います。

[各事業]

(No.71:利用者支援事業)

- ・子ども育成課に配置された職員が基本型の利用者支援をするためには、情報提供や相談業務を窓口でおこなうだけではなく、訪問を含めたアウトリーチ型の支援は必要だと考えます。どれだけの情報提供や相談を受け付け、必要な支援につないだか等、事業の内容を実績をもとに事業評価を行えると良いと思います。
- ・利用者支援事業実施箇所が1箇所は市役所での窓口だけではなく、西部・北部会館育みセンター・奈良まちセンターや出張所にも配置をすることが大切ではないか(経費の増加が課題)。この段階で貧困家庭への支援を探ることができる。
- ・保育所・幼稚園の現状をしっかりと捉え、正しい情報提供に引き続き取り組んでいただきたいと思います。
- ・コンシェルジュの活躍に期待する。

(No.71:利用者支援事業)

(No.72:子育て世代支援PR事業)

(No.73:家庭児童相談室運営事業)

(No.74:幼稚園や保育所の子育て相談)

- ・相談事業の内、利用者がニーズに合った事業を選択できるよう、連携を進めながら、その独自性のアピールなど、情報提供を積極的に進めてほしい。

(No.72:子育て世代支援PR事業)

- ・多様な情報配信方法の活用により多くの方に利用してもらい、目標値の達成を期待する。

(No.75:家庭教育推進事業)

- ・実施している公民館数という指標が適切なのか。参加者数の推移などが分からないと、事業として成立しているのか判断が出来ないように思います。

⑬ 子育て家庭への経済的な支援の充実(No.76～No.79)

[各事業]

(No.76:子ども医療費助成)

・平成28年8月からは助成対象を更に拡大し、中学生の通院も助成対象としたことは評価できる。これにより中学校修了までの子どものすべての保険診療が助成対象となり、子どもの健やかな成長により一層寄与するものとなったことも評価できる。

・中学生の通院まで助成対象を拡大したことは高く評価できる。しかしながら、今なお償還払い(一旦立替が必要)制度であり、利便性としての保護者サイドからの評価は低い。近畿2府4県で現物給付方式を採用していないのは奈良だけであり、特に他府県から引越してきた親などからは「子育てしにくいまち」であるとの声も多い。実施できない最大の障壁とされていた国の現物給付へのペナルティも廃止の方向が確認されており、速やかに現物給付方式にあらためるべきではないか。県に倣えではなく、本計画、本条例の理念からも先行実施すべき課題であると考ええる。

(No.77:就園奨励費補助)

・支給内容、支給時期についても、新入学準備金の入学前支給など、より対象世帯の生活実態に沿ったかたちになるよう改善していくことが大切である。

・目標値達成でなぜC評価なのかを、課題や今後の改善点欄に記述してほしいです。

・国基準の支給をしてもらえることを継続してほしい。各自治体で非常に差があるので、奈良市で保護者が安心して私立幼稚園にも通わせられる補助をしてもらえるように願います。

(No.78:就学援助)

・子どもの貧困が社会問題化するなか、他市町村の先進事例に倣い、新入学準備金の入学前支給を実施するなど、現実的に対応されている点は高く評価できる。但し、担当課評価にもあるように、周知が不十分であり、配布される文章だけでは、対象に該当するかどうか分かりにくいのではないかと。保育料のように市民税額など所得階層から対象者を選定し、市からの個別通知方式の導入も検討するなど、更なる改善と予算措置を期待する。

・就学援助が必要な家庭は、情報の獲得についても支援が必要なケースが多いため、行政の持つネットワークや情報を駆使して、100%届けられるよう努力をお願いします。

⑭ ひとり親家庭への支援の充実(No.80～No.86)

[総 評]

- ・母子家庭の母、父子家庭の父、寡婦の自立を支援するため、就業相談、就業支援講習会、就業情報提供等の施策を総合的・計画的に実施することが課題である。
- ・ひとり親家庭の子ども2人に1人が貧困状態にあると言われています。すべての子どもが等しく充実した生活を送ることができるよう、一つ一つの充実と周知の徹底をお願いします。
- ・相談・支援業務の後のフォローアップケアも含め取り組んで頂けるようお願いいたします。

[各事業]

(No.81:ひとり親家庭等相談)

- ・ひとり親家庭の子どもたちが抱える困難は経済的なものだけではないと思います。子どもたちを支えるのは親だけではない、ということを子どもも親も感じられる仕組みがあって、相談の中でそうした面のケアが出来るようなものであってほしいと思います。
- ・目標値を大きく上回っており評価できる。相談内容が多岐にわたるが引き続き利用しやすい環境づくりを目指してほしい。

(No.83:母子家庭等就業・自立支援センター事業)

- ・平成28年度から養育費等相談をスマイルセンターで実施することとなったことに加え、新たにひとり親家庭を対象とした弁護士相談を開始したことは画期的である。今後も機会を捉えて周知し、新規利用者の拡大を図ってほしい。

⑮ 障がいのある子どもと子育て家庭への支援の充実(No.87～No.99)

[総 評]

- ・障がい児の発達支援、家族支援、地域支援をさらにすすめられるように、事業所の相談体制や支援方法について強化していく必要があると考える。障がいの内容やアセスメント、子どもを取り巻く環境は激変してきている。相談支援専門員や関係機関が協議し方向性や支援方法を見極めていくことを継続していくことが求められる。頑張っていることは一定の評価ができる。
- ・障がいのある子どもの支援は、子どもだけでなく、その親のケアも必要であると考え。しっかりとニーズを把握しながら、利用者の拡大を図ってほしい。
- ・障がい者も健常者も共に生き生きと過ごせる地域を目指し取り組んでいく事は大切な事だと思います。当該施策の広報活動の更なる充実を行えばと思います。

[各事業]

(No.95:みどり園)

(No.97:親子体操教室)

- ・評価がCなので、今後具体的な施策や環境整備をご検討いただきたい。

(No.87:放課後児童健全育成事業施設における障がい児の受け入れ推進)

- ・単に指導員の加配だけでなく、障がい者理解や障がいの別に応じた適切な知識や対応が出来るような研修等も必要ではないかと思います。

(No.97:親子体操教室)

- ・安全面で万全でない課題として挙がっているので、早期に解消してほしい。

⑩ 児童虐待防止などの取り組みの充実(No.100～No.102)

[総 評]

- ・児童虐待の予防・早期発見・再発防止のため、啓発活動や家庭児童相談の充実を図り、子どもと接する機会の多い教諭や、地域を見守る民生児童委員等との更なる連携を深めていくことはますます求められる。支援者への研修を引き続き行い、関係機関のスキルアップを図っていくと同時に、小学校・中学校でも虐待について学ぶ機会が必要ではないか。虐待はすでに連鎖している。正しい研修教育が必要である。また生徒自身が虐待を受けていたりする場合もあることに気づく学校教育現場でなければならない。
- ・警察組織との連携と共に地域コミュニティーの意識の醸成を働きかける啓蒙活動的な広告宣伝も有効な活動になると考えます

[各事業]

(No.100:被虐待児童対策地域協議会の活用)

- ・児童虐待については、隣近所であつたり友人知人の関係で何かしら把握していても何処にどういう形で連絡や相談したら良いのか分からないというケースも多いように思います。被虐待児童対策地域協議会というものの存在や窓口を広く知らせていくことが早期発見につながるかと思います。
- ・虐待の防止は、根気強い啓発が必要であり、また、予算計上ほどの執行ができていないので、計画的にしっかりと執行すべき。

(No.101:養育支援訪問事業)

- ・相談、助言にとどまらず、家事支援や育児支援など具体的な手助けとなる援助も含めていくことで、より充実した虐待予防事業となると考えます。(育児ヘルパー事業を展開している自治体も存在しています)
- ・養育支援訪問事業の平成28年度実績数が目標を下回っているが、実体数は目標数を超えていると思われる。貧困家庭掌握のためにも対象者掌握を明確にして訪問者数の増加が必要。

⑰ 地域における子育て支援活動の充実(No.103～No.105)

[各事業]

(No.104:子育て支援アドバイザー事業)

(No.105:子育てサークルの支援)

・事業を通して貧困家庭である可能性を探り、対策が可能になるのではないかと？そのためアドバイザーの人数増や各地の子育てサークルの活動掌握が必要である。

(No.103:ファミリー・サポート・センター事業)

・ファミリー・サポート・センター事業の援助会員が少ない状況とのことですが、地域には人材が眠っているようにも思われます。広報活動だけでなく、地域毎の取り組みの中でこうした事業の紹介や呼びかけをしていくことも必要かと思われま。

・援助会員をNo.61「地域子育て支援拠点事業」、No.62「子育てスポット事業」、No.63「子育てスポットすくすく事業」、No.64「市立こども園の地域活動の推進」の担い手からも積極的に募って、より一層促進していただきたいです。

・「地域における子育て支援を更に充実させていく。」とあるが、地域で活動をしていても、奈良市で掌握できていないものがあるのかの調査が必要ではないか。

・奈良市のホームページでは援助会員の具体的な活動の想像がつきにくいような気がします。実際に利用していたり、援助されている方の声を前面に挙げていくとわかりやすいのではと思います。

(No.104:子育て支援アドバイザー事業)

・子育て支援アドバイザー事業を地域子育て支援拠点事業の実施団体に委託することが大切である。子育て支援に関する専門知識や経験豊富な拠点スタッフがアドバイザー業務に携わること、子育て支援のさらなる連携の強化と事業内容の充実を図ることである。各地域子育て支援拠点等との連携・協働を図ることで、地域における子育て支援を更に充実させていく必要がある。ただ、何を支援するのかは、時代と共に考えなければならないのではないかと。本当に必要な人への支援となっているのかは考えねばならない。

・事前面接や書類選考なしに希望する受講者全員が2日間の研修でアドバイザーの認定をされることに少し不安を感じています。たくさんのアドバイザーを養成されることは良いことですが、質の確保も支援をしていくためには大切だと思います。

(No.105:子育てサークルの支援)

・子育てサークルの方々への補助金は、活動促進につながるが、一方で活用方法についての知識が不足しているケースも多くみられる。単に補助金を交付するだけでなく、子育て支援のメニューを提供することも必要ではないかと思。

⑱ 地域における子どもの見守り活動の推進(No.106～No.109)

[総 評]

- ・子どもの安全は危機といえる。大人が信用できない、地域が信用できないことが多く、セーフティーネットがかけにくいといえる。
- ・当項目の充実度が、その地域の安全性・快適性に繋がっていると考えます。ハード&ソフト(支援、教室開催)等充実度UPの推進をお願い致します。
- ・ここに子どもを守る為の防災・減災の項目があれば良いと思います。
- ・防犯に関わっては、子ども自身の意識・知識の習得、地域の人材を活用した、家庭・学校園・地域・市の連携が重要である。子どもを中心に据えた、各者、関連機関の一層の連携を期待する。

[各事業]

(No.106:交通安全教室の開催)

- ・子どもの交通安全に対する意識は日常の声掛けが必要で家庭によるところも大きい。大人自体がルールを守っていない現状もあり、交通安全教室に大人も参加していくような工夫も必要かと思います。
- ・子供たちの交通事故の減少を図るため、実施率向上に向け取り組んでいただきたい。特に自転車の乗り方やルールの指導を徹底してほしい。

(No.107:学校・家庭・地域が連携した防犯力の充実)

- ・子ども安全の日の集いの参加人数は毎年目標達成していますが、見守り活動の次世代の担い手確保という課題からは、新たな目標設定が必要と感じます。
- ・「学校・家庭・地域が連携した防犯力の充実」と「指標」を「子ども安全の日の集い」参加人数としているのは評価を矮小化させてしまうのではないかと。指標を「事業の実施件数及び参加人数」にしてはどうか。
- ・「防犯力の充実」を目指すのであれば地域で実施されている活動数や事業内容の数を評価対象としてその団体数や事業内容数の増加を図るべきではないか。また、「地域」とは何を指すのか。

(No.108:不審者情報の配信)

- ・サポートネット登録者数は目標を達成しておりA評価でも良いように思います。もしくは目標値の設定を保護者世帯の何%とする方が分かりやすいという気がします。

(No.109:「子ども安全の家」標旗配布)

- ・子ども安全の家の旗は設置しているものの、特に店舗等では経営者が変わっている等の理由で、子ども安全の家であることの認識もないケースもあります。一定期間毎にそうした確認をして回る必要もあるかと思います。
- ・子ども安全の家については、そこに設置されていることで防犯効果が得られるような取り組みが必要ではないかと思えます。そのためにも、子ども安全の家の事業を大きく啓発していく必要があると考えます。
- ・「子ども安全の家」の標旗の設置場所を各学校で必ず子どもたちに確認させることを義務化してはどうだろうか。手間や時間はかかるが、子どもたちの安全を守るためには必要であるし、見守る大人にとっても責任を果たすために大切かと思う。

⑭ 男女共同の子育ての推進と子どもを大切にする社会的な機運の醸成(No.110～No.111)

[各事業]

(No.110:イクメン手帳の配布)

- ・イクメン手帳配布機会をもっと増やし、できるだけ多くの方に届けてほしいと思う。
- ・イクメン手帳の存在を周知できるような工夫が必要かと思います。
- ・未来の父親である高校生・大学生など、学生への配布をお願いしたい。

(No.111:仕事と生活の調和推進事業)

- ・企業のというか社会全体の働き方に対する意識が変わらなければ「男女共同の子育て」は本格的には進まないのかなと思います。非常に難しいところですがWebの更新回数という指標では何とも言いようがないところもあります。
- ・事業主や企業に対しては、イクボスを含めた、組織全体で従業員のワークライフバランスを支援できる意識改革のための予算措置が必要不可欠だと考えます。

②0 安心して外出ができる環境づくりの推進(No.112～No.116)

[各事業]

(No.112:通学路整備事業)

・予算をしっかりと消化し、早期に実施してほしい。

(No.113:公園管理運営)

・児童公園では草刈が年2回しか行われず(以前は3回)、草が伸び放題となっている期間が長く、公園としての体をなしていない。保育所などでは、子どものお散歩コースとして活用しているところもあり、最低でも年3回は必要と考える。

(No.114:公園整備事業)

・都市公園の遊具改修や、施設整備等は、子どもの遊び場を確保するためにも非常に重要な取り組みです。ぜひ、前倒しですべての施設を早期に改修してください。

・公園利用者への告知はしているのだろうか。利用者との協同が必要では。

(No.113:公園管理運営)

(No.114:公園整備事業)

・園・学校の時間外の子どもの居場所づくりは大切な問題。子どもが安全に外で遊べる場所が不足していると思います。遊具等の維持管理に費用がかかるのならば、一定数撤去しても良いとも思えます。ただの広場であっても子どもたちは自由な発想で遊びますから、安全に遊べる広い場所を確保して頂ければと思います。

(No.115:公共賃貸住宅における多子世帯向けの優先入居制度の活用)

(No.116:公共賃貸住宅における子育て世帯向けの優先入居制度の活用)

・需要のある世帯に対して、こういった制度があることがどれくらい周知されているのかという点があると思います。

(No.116:公共賃貸住宅における子育て世帯向けの優先入居制度の活用)

・親の通勤、子の通学等の関係から引越までして生活圏域を変更するにはマイナス面も多く使い勝手が悪い。他市町村のように民間の賃貸住宅も活用し思い切って家賃補助制度への転換を検討すべき。住居費の負担は大きい。ため市の財政出動も大きい。出生率のアップや人口増にもつながり、将来的には税収増につながられるのでは。本計画、本条例の理念にも合致し、子育てしやすいまち奈良市のシンボリックな事業となる可能性があると考えます。

奈良市では、平成27年度に「奈良市子どもにやさしいまちづくりプラン」を策定しました。

このプランは平成27年度から平成31年度までの5か年を計画期間としており、また、計画の中間年を目安に計画の見直しを行うこととしています。

本年度、事業計画の見直しのためのアンケート調査、ヒアリング調査を実施し、その結果を踏まえ計画を見直すこととします。

1 事業計画見直しのためのアンケート調査等について

本プランの中間年度である平成29年度には、アンケート調査とヒアリング調査によりニーズを再確認し、事業計画を見直すこととします。

【1. アンケート調査】

[調査の対象者及び対象者数]

	今回の調査 (平成29年度実施)	【参考】計画策定時の調査 (平成25年度実施)
対象者	① 就学前児童の保護者(0～2歳) ② 就学前児童の保護者(3～5歳) ③ 小学生児童の保護者	① 就学前児童の保護者(0～2歳) ② 就学前児童の保護者(3～5歳) ③ 小学生児童の保護者
配布数	① 1,000件(回答数 527件) ② 1,000件(回答数 511件) ③ 2,089件(回答数 870件)	① 1,500件(回答数 908件) ② 1,500件(回答数 815件) ③ 2,000件(回答数 1,151件)
設問数	① 26問 ② 29問 ③ 28問	① 31問 ② 36問 ③ 34問

【2. ヒアリング調査】

[調査の対象者及び対象者数]

	今回の調査 (平成29年度実施)
実施施設	地域子育て支援センター・つどいの広場 市内5地域(中央・西部北・西部南・南部・東部)各1施設
対象者	施設利用者 ※0～3歳児の保護者
調査数	合計101サンプル(各施設約20件)

2 見直しの範囲及び方向性について

見直し対象	奈良市子どもにやさしいまちづくりプラン
	第1章 事業計画の策定にあたって
	第2章 奈良市の子ども・子育てを取り巻く状況と課題
	第3章 事業計画の基本的な理念・方針
	第4章 奈良市の子ども・子育て支援のこれからの取組
★	第5章 主な事業の5年間の需給計画
	第6章 事業計画の推進体制
★	資料編(資料4 進捗管理事業一覧)

※第5章の主な事業とは

4. 教育・保育の量の見込みと確保方策

5. 地域子ども・子育て支援事業の量の見込みと確保方策

- (1)利用者支援事業
- (2)時間外保育事業(延長保育事業)
- (3)放課後児童健全育成事業(バンビーホーム等)
- (4)子育て短期支援事業(ショートステイ等)
- (5)乳児家庭全戸訪問事業(こんにちは赤ちゃん訪問)
- (6)養育支援訪問事業
- (7)地域子育て支援拠点事業(子育て広場)
- (8)一時預かり事業
- (9)病児・病後児保育事業
- (10)子育て援助活動支援事業(ファミリー・サポート・センター事業)
- (11)妊婦健康診査事業
- (12)実費徴収に係る補足給付を行う事業
- (13)多様な事業者の参入促進・能力活用事業

○見直しの方向性

- 1 事業の進捗やアンケート調査及びヒアリング調査の結果を踏まえ、平成30年度以降の目標値の修正等見直し案を作成する。
- 2 進捗管理事業についても、同様に見直すものとする。

3 今後のスケジュールについて

次回子ども・子育て会議(平成30年1月頃実施予定)には事業計画の見直しの素案についてご審議いただき、3月に確定する予定。

アンケート調査実施スケジュールについて

	アンケート調査等	奈良市子ども・子育て会議
H29 4 月		奈良市子どもにやさしいまちづくりプラン平成28年度分 進捗状況の照会
5 月		
6 月	◆アンケート調査業者選定 ◆調査票作成・調査実施	① ・プラン平成28年度分検証 ・調査票（案）について
7 月		
8 月	◆調査票集計・分析期間	
9 月		
10 月		② ・プランの平成28年度分検証結果 ・調査集計・分析中間報告
11 月		
12 月		
H30 1 月		③ ・プランの見直し案の作成
2 月		
3 月		⑤ ・プランの見直し案の確定

1. 就学前児童の保護者対象の調査項目

把握する事項	設問	調査項目	設問の有無		新規項目
			0～2歳	3～5歳	
①居住地域	1	居住地域	○	○	
②子どもと 家族の状況	2	子どもの数、生年月、一番下の子の生年月、同居（単身赴任）の家族	○	○	
	3	回答者と子どもとの関係	○	○	
	4	主に子育てする人	○	○	
	5	日ごろ面倒見る親族・知人の有無	○	○	
	5-1	みてもらっている状況について（安心感等）	○	○	
③保護者の 就労状況	6-1	保護者（回答者）の年齢	○	○	○
	6-2	保護者（回答者）の就労の有無	○	○	
	6-3	就労形態	○	○	
	6-4	日数、就労時間	○	○	
	6-5	出社、帰宅時間	○	○	
	6-6	フルタイムへの転換希望	○	○	
	6-7	就労希望	○	○	
	6-8	希望の就労形態	○	○	
	6-9	希望の就労時期	○	○	
	6-10	現在就労していない理由	○	○	
④平日の定期的な教育・保育	7	平日の定期的な教育・保育事業の利用の有無	○	○	
	7-1	現在の平日の定期的な教育・保育の利用と今後の希望	○	○	
	7-2	1の利用日数・時間数	○	○	
	7-3	平日の定期的な教育・保育事業を利用したい場所	○	○	
	7-4	施設を選んだ理由・今後重視すること	○	○	
	7-5	平日の定期的な教育・保育事業を利用している理由	○	○	
	7-6	利用している施設への交通手段	○	○	
	7-7	施設を利用しない・出来ない理由	○	○	
⑤土曜・休日や長期 休暇中の定期的な教育・保育	8	土曜日曜祝日、長期休暇中の定期的な教育・保育事業の利用希望	○	○	
	8-1	月1～2回程度の利用希望の理由	○	○	
	9	幼稚園の預かり保育	×	○	
	9-1	上記利用している理由	×	○	
	9-2	長期休暇期間中の預かり保育の利用希望	×	○	
	9-3	利用していない理由	×	○	
⑥病気の際の対応	10	病気の際に通常の定期的な教育・保育が利用できなかった経験	○	○	
	10-1	その際の対応	○	○	
	10-2	病児・病後児の保育施設等の利用希望	○	○	
	10-3	病児・病後児の保育施設等の利用希望の事業形態	○	○	
	10-4	病児・病後児の保育施設を利用したいと思わない理由	○	○	
	10-5	休んで看護したかった日数とそれが困難な理由	○	○	
⑦地域の子育て支援 事業	11	奈良市の地域子育て支援事業で知っている事業	○	○	
	12	奈良市の地域子育て支援事業で利用している事業・利用頻度	○	○	
	12-1	上記利用していない理由	○	○	○
	13	奈良市の地域子育て支援事業で今後の利用希望	○	○	
	14	奈良市の事業の認知度・利用の有無・今後の利用希望	○	○	
⑧不定期の教育・保育事業や宿泊を伴う 一時預かり等	15	不定期の教育・保育事業の利用の有無と日数	○	○	
	15-1	利用していない理由	○	○	
	16	不定期の教育・保育事業の利用の希望有無	○	○	
	16-1	不定期の教育・保育事業の利用の希望日数・目的・事業形態	○	○	
	17	泊りがけで見なければならなかったことがあるか	○	○	
	17-1	誰かに見てもらうことは難しかったか	○	○	
⑨小学校入学後の放 課後の過ごし方	18	小学校の放課後をどこで過ごさせたいか・希望日数	×	○	
	19	土曜日曜祝日、長期休暇中のバンビーホームの利用希望	×	○	
	20	育児休業の取得の有無・理由	○	○	

⑩育児休業や短時間勤務制度等職場の両立支援制度	20-1	職場復帰したか	○	○	
	20-2	職場復帰しのタイミング	○	○	
	20-3	職場復帰した時の子の年齢（実際と希望）	○	○	
	20-4	育児休暇取得の希望期間	○	○	
	20-5	希望より早く／遅く復帰した理由	○	○	
	20-6	短期間勤務制度の利用の有無	○	○	
	20-7	短期間勤務制度を利用しなかった理由	○	○	
⑪子育てに関する困りごと等	21	子育ての環境や支援への満足度	○	○	
	22	子育て情報の取得手段	○	○	
	23	子育てに関する悩み事	○	○	
	24	相談相手	○	○	
	25	妊娠中・出産後3カ月以内に困ったことがあったか	○	○	○
	26	サポート希望内容／受けて良かったサポート	○	○	
⑫子どもにやさしいまち・子育てしやすいまち	27	奈良市を子どもにやさしいまちと思うか	○	○	○
	27-1	子どもにやさしいまちとを感じる条件	○	○	○
	28	奈良市は子育てしやすいまちと思うか	○	○	○
	28-1	子育てしやすいまちとを感じる条件	○	○	○
⑬自由記述	29	自由記述	○	○	
設問数			26	29	

2. 小学生の保護者対象の調査項目

把握する事項	設問	調査項目	設問の有無	新規項目
①居住地域	1	居住地域	○	
②子どもと家族の状況	2	子どもの数、生年月、一番下の子の生年月、同居（単身赴任）の家族	○	
	3	回答者と子どもとの関係	○	
	4	主に子育てする人	○	
	5	日ごろ面倒見る親族・知人の有無	○	
	5-1	みてもらっている状況について（安心感等）	○	
③保護者の就労状況	6-1	保護者（回答者）の年齢	○	○
	6-2	保護者（回答者）の就労の有無	○	
	6-3	就労形態	○	
	6-4	日数、就労時間	○	
	6-5	出社、帰宅時間		
	6-6	フルタイムへの転換希望		
	6-7	就労希望		
	6-8	希望の就労形態	○	
	6-9	希望の就労時期	○	
	6-10	現在就労していない理由	○	
④放課後の過ごし方	7	放課後の過ごし方	○	
	8	放課後の過ごし方の希望（低学年・高学年）	○	
	9	バンビーホームの利用希望（土曜・休日・長期休暇）	○	
	10	放課後子ども教室の利用希望	○	
⑤バンビーホームの利用	11.	バンビーホームの利用の有無・	○	
	11-1	それぞれの理由・今後の希望	○	
⑥居場所について	12	子どもの遊び場について感じること	○	
	13	子ども同士の交流の場として望ましい場	○	
⑦病気の際の対応	14	病気の際に通常の定期的な教育・保育が利用できなかった経験	○	
	14-1	その際の対応	○	
	14-2	病児・病後児の保育施設等の利用希望	○	
	14-3	病児・病後児の保育施設等の利用希望の事業形態	○	
	14-4	病児・病後児の保育施設を利用したいと思わない理由	○	

	14-5	休んで看護したかった日数とそれが困難な理由	○	
⑧地域の子育て支援事業	15	奈良市の地域子育て支援事業で知っている事業・利用状況・今後の希望	○	
⑧不定期の教育・保育事業や宿泊を伴う一時預かり等	16	不定期の教育・保育事業の利用の有無と日数	○	
	16-1	利用していない理由	○	
	17	不定期の教育・保育事業の利用の希望有無	○	
	17-1	不定期の教育・保育事業の利用の希望日数・目的・事業形態	○	
	18	泊りがけで見なければならなかったことがあるか	○	
	18-1	誰かに見てもらうことは難しかったか	○	
⑩育児休業や短時間勤務制度等職場の両立支援制度	19	育児休業の取得の有無・理由	○	
	19-1	職場復帰したか	○	
	19-2	職場復帰しのタイミング	○	
	19-3	職場復帰した時の子の年齢（実際と希望）	○	
	19-4	育児休暇取得の希望期間	○	
	19-5	希望より早く／遅く復帰した理由	○	
	19-6	短時間勤務制度の利用の有無	○	
	19-7	短時間勤務制度を利用しなかった理由	○	
⑪子育てに関する困りごと等	20	子育ての環境や支援への満足度	○	
	21	子育て情報の取得手段	○	
	22	子育てに関する悩み事	○	
	23	相談相手	○	
	24	妊娠中・出産後3カ月以内に困ったことがあったか	○	○
	25	サポート希望内容／受けて良かったサポート	○	
⑫子どもにやさしいまち・子育てしやすいまち	26	奈良市を子どもにやさしいまちと思うか	○	○
	26-1	子どもにやさしいまちとを感じる条件	○	○
	27	奈良市は子育てしやすいまちと思うか	○	○
	27-1	子育てしやすいまちとを感じる条件	○	○
⑬自由記述	28	自由記述	○	

設問数

30

ヒアリング調査項目一覧

把握する事項	設問	調査項目
①対象者情報	1-1	回答者の性別
	1-2	回答者の年代
	1-3	居住地域
	1-4	お子さんの年齢、きょうだいの数
	1-5	お子さんとの関係
	1-6	就労の有無
②利用施設の満足度	2	施設利用のきっかけや施設について感じる事
③市民のニーズ	3	子育ての悩みや気がかり
④保育所・幼稚園・こども園の認知度等	4	保育園・幼稚園・こども園について（現在の利用・今後検討の有無） こども園についての認知度、イメージ
⑤事業の満足度・希望	5	奈良市の子育て支援事業について（良いと思うところ、充実してほしいところ）

奈 良 市
子ども・子育て支援事業計画見直しに
係るアンケート調査結果報告（速報値）

校正中

平成 29 年 10 月

調査の実施について

(1) 調査目的

本市では、平成 27 年度から施行されている「子ども・子育て支援新制度」の一環として、「奈良市子ども・子育て会議」を設置し、奈良市子ども・子育て支援事業計画の策定・運営しています。

この度、計画策定より 2 年を経過したことから、改めて就学前児童及び小学生の保護者の方を対象に、子育てに関する現状や、教育・保育、地域の子育て支援事業の利用状況及び今後の希望等を把握し、計画見直しの基礎資料とすることを目的として、アンケート調査を実施しました。

(2) 調査概要

調査地域	奈良市全域
調査対象	① 奈良市内在住の 0 歳～2 歳児のいる世帯・保護者 1,000 人 ② 奈良市内在住の 3 歳～5 歳児のいる世帯・保護者 1,000 人 ③ 奈良市内在住の小学生のいる世帯・保護者 2,089 人
調査方法	①② 住民基本台帳から対象児童のいる世帯を無作為抽出、 郵送法による ③ 奈良市内の小学 2 年生・5 年生それぞれ学級単位の無作為抽出、 学校配付郵送回収
調査期間	平成 29 年 7 月 20 日から 8 月 7 日まで

(3) 回収結果

	配布数	有効回収数	回収率
0～2 歳児	1,000 通	527 通	52.7%
3～5 歳児	1,000 通	511 通	51.1%
小学生	2,089 通	870 通	41.6%

(4) 調査結果の表示方法

- ・ 0～2 歳児、3～5 歳児と小学生のアンケートは、設問内容が同様のものがありますので組み合わせで表示しています。なお、設問番号が相違するため、それぞれの設問番号をカッコ書きで表示しています。
- ・ 「SA」とは単数回答、「MA」とは複数回答のことを示しています。
- ・ グラフに表示されている「N 値」は有効回答数です。
- ・ 回答は各質問の N 値を基数とした百分率（%）で示してあります。また、小数点以下第 2 位を四捨五入しているため、内訳の合計が 100.0%にならない場合があります。
- ・ 複数回答が可能な設問の場合、回答者が全体に対してどのくらいの比率であるかという見方になるため、回答比率の合計が 100.0%を超える場合があります。

1. 子どもと家族の状況について

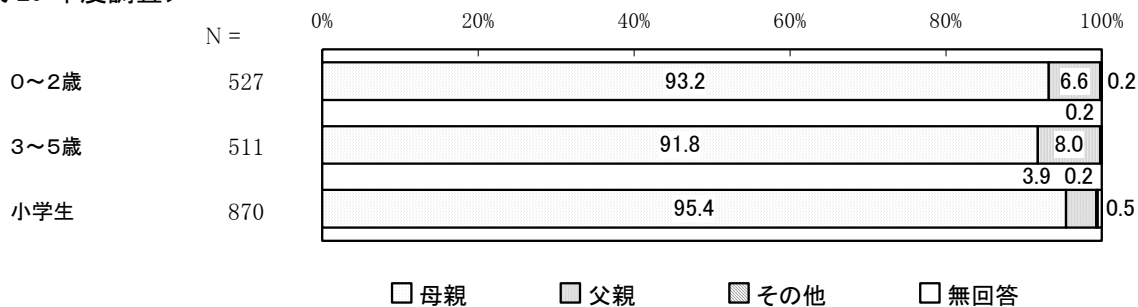
アンケートの回答者は、平成 25 年度調査と同様、それぞれの年齢区分で母親が最も高く、9 割以上を占めています。

子どもの子育てを主に行っている人は、平成 25 年度調査と同様、就学前児童については「主に母親」が最も高く、半数を超えています。

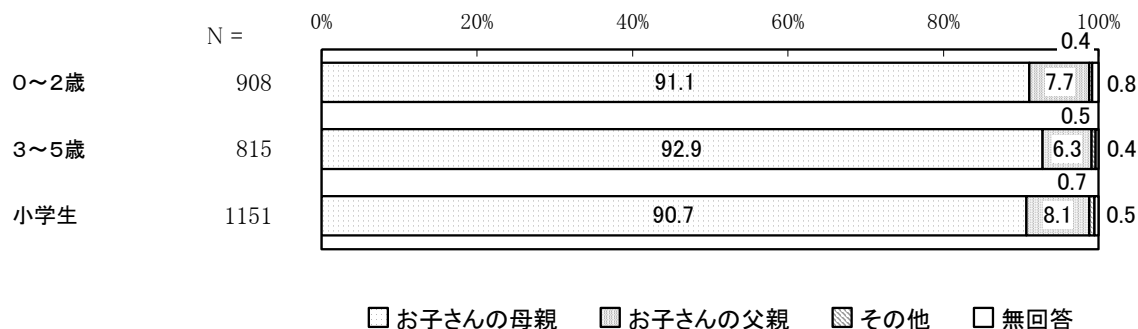
日頃、子どもをみてもらえる親族・知人の有無のうち、「緊急時もしくは用事の際」については、平成 25 年度調査と同様、約 6 割の方が「祖父母等の親族にみてもらえる」と回答しています。

①アンケートの回答者【0～2歳：問3、3～5歳：問3、小学生：問3】（SA）

<平成 29 年度調査>

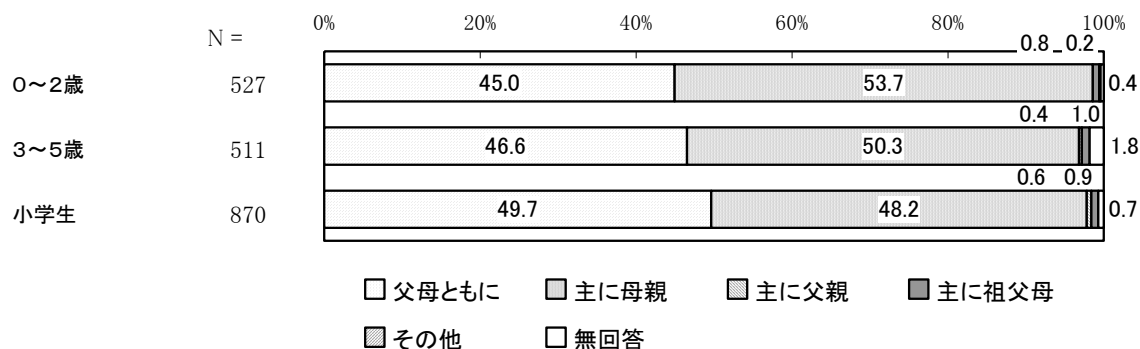


<平成 25 年度調査>

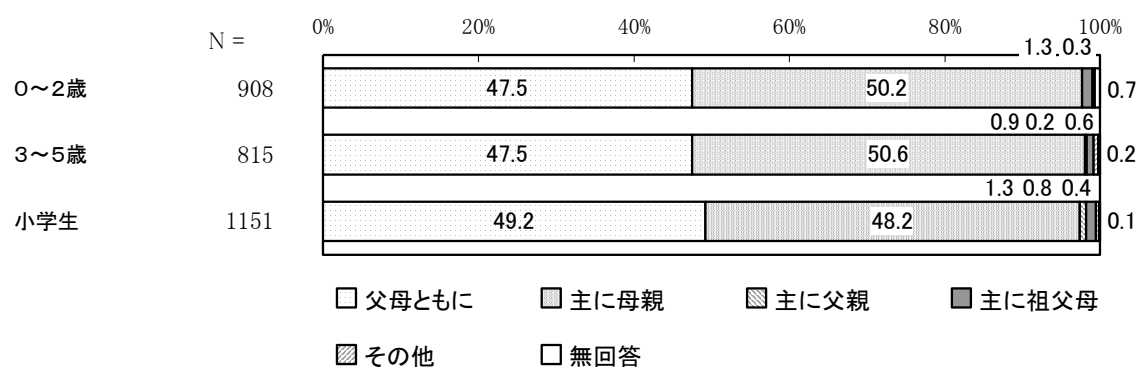


②子どもの子育てを主に行っている人【0～2歳：問4、3～5歳：問4、小学生：問4】（S A）

<平成 29 年度調査>

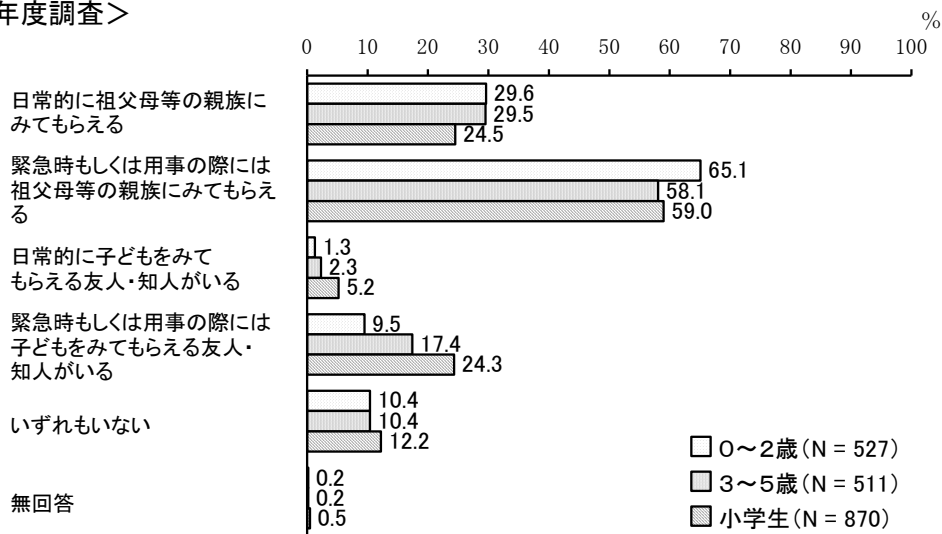


<平成 25 年度調査>

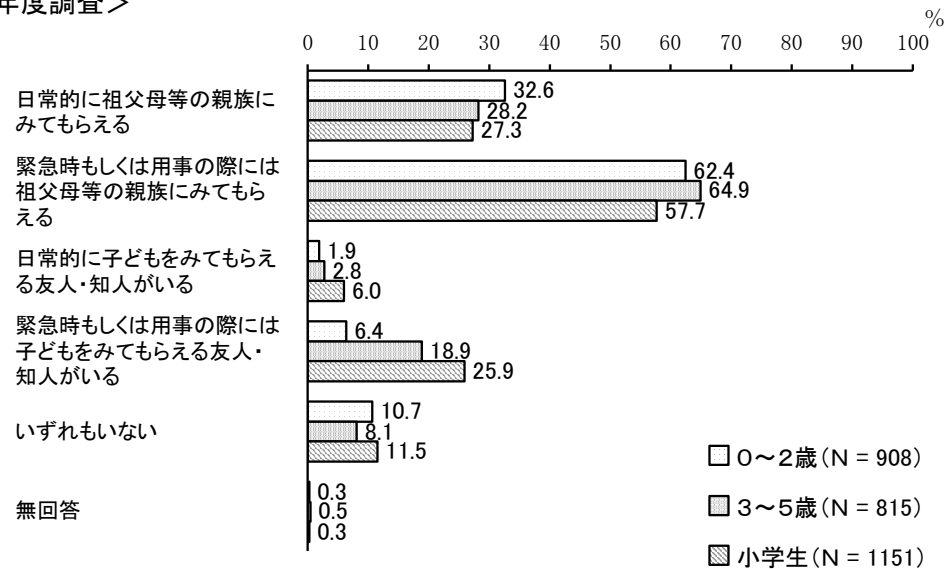


③日頃、子どもをみてもらえる人の有無【0～2歳：問5、3～5歳：問5、小学生：問5】(MA)

<平成 29 年度調査>



<平成 25 年度調査>



2. 保護者の就労状況について

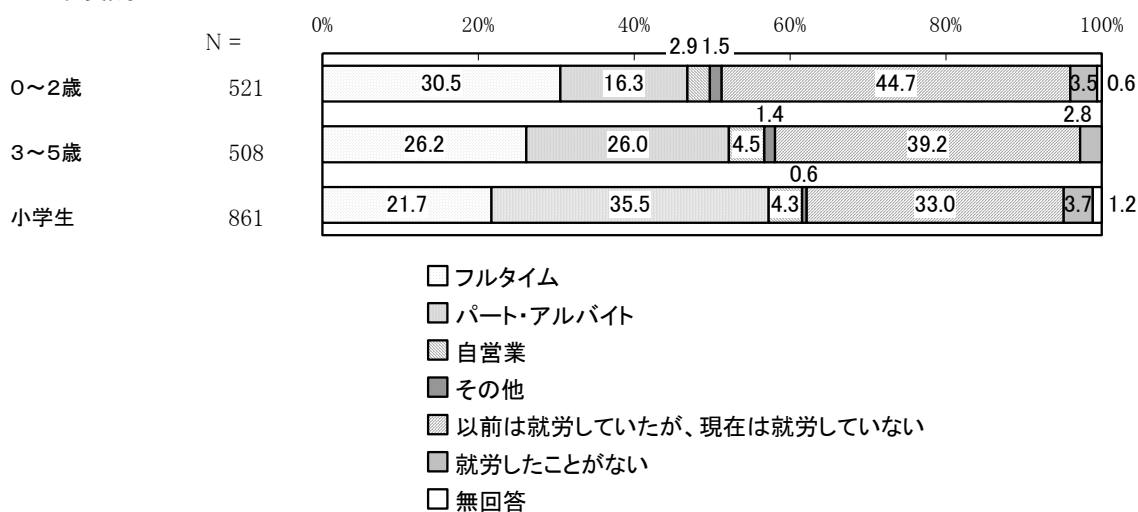
母親の就労状況については、平成 25 年度調査に比べ、就学前児童では「以前は就労していたが、現在は就労していない」が減少し、就労している割合が増加しています。また、小学生でも、就労している方が増加しています。

母親のフルタイムへの転換希望は、子どもの年齢区分が高くなるにつれ「パート・アルバイト等（「フルタイム」以外）の就労を続けることを希望」する人の割合が高くなっています。

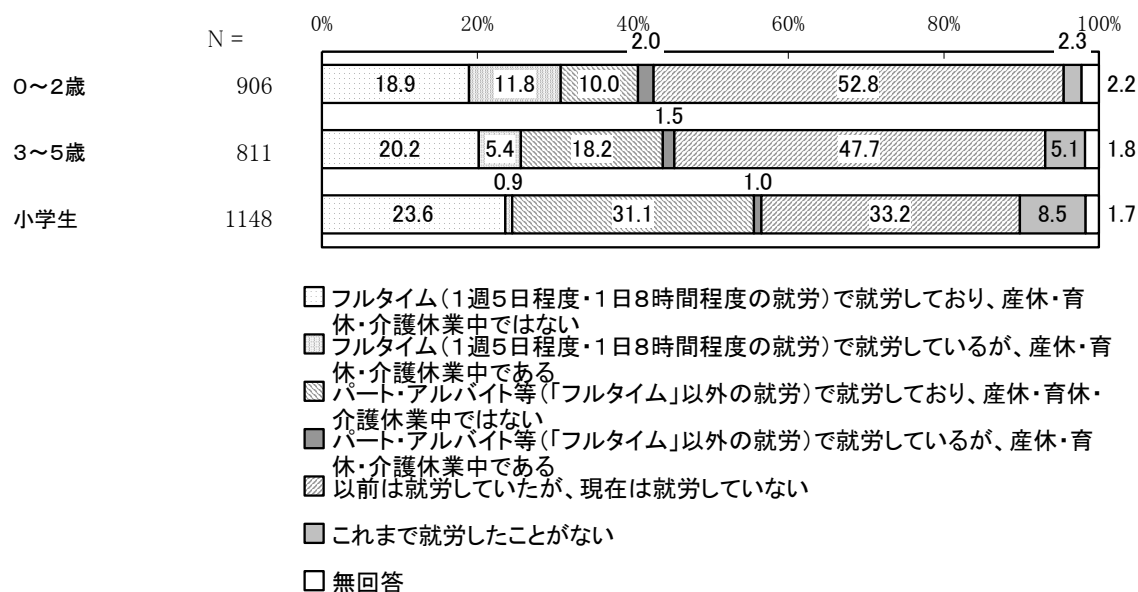
また、現在就労していない母親の就労希望については、「就労したくない」人が平成 25 年度調査の「子育てや家事などに専念したい（就労の予定はない）」より低くなっており、2割未満となっています。

①母親の就労状況【0～2歳：問6、3～5歳：問6、小学生：問6】（SA）

<平成 29 年度調査>



<平成 25 年度調査>



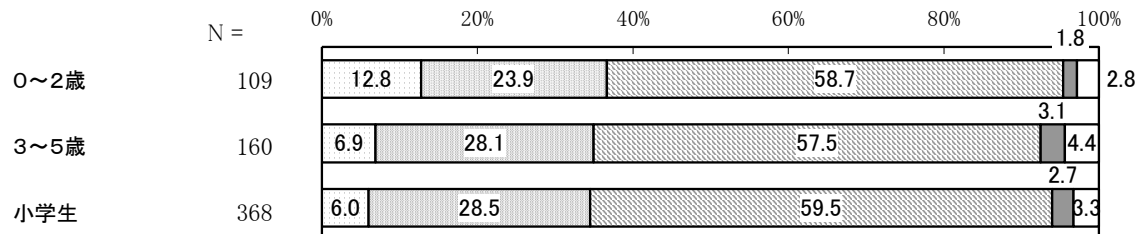
②パート・アルバイト等で就労している母親のフルタイムへの転換希望
【0～2歳：問6、3～5歳：問6、小学生：問6】（SA）

<平成 29 年度調査>



- ☐ フルタイムへの転換希望があり、実現できる見込みがある
- ☐ フルタイムへの転換希望はあるが、実現できる見込みがない
- ☐ パート・アルバイトを続けたい
- ☐ パート・アルバイトをやめて子育てや家事に専念したい
- ☐ 無回答

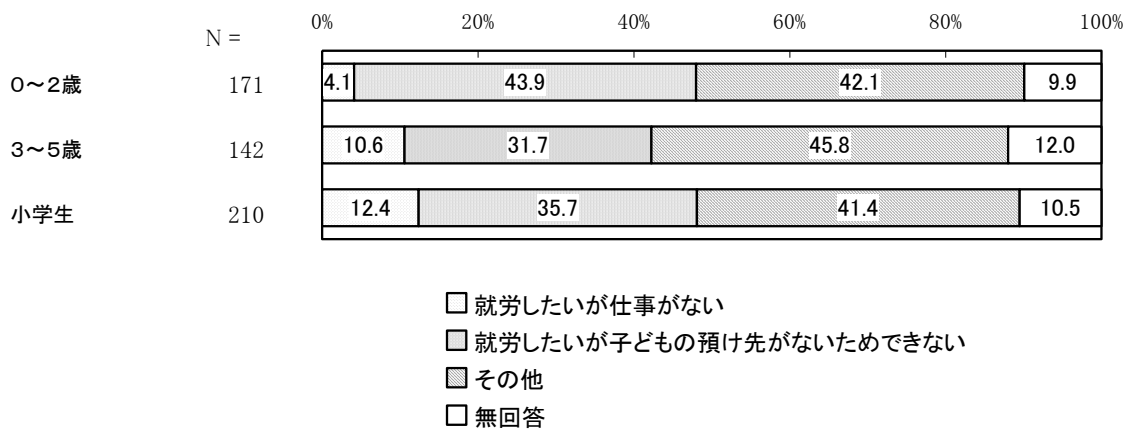
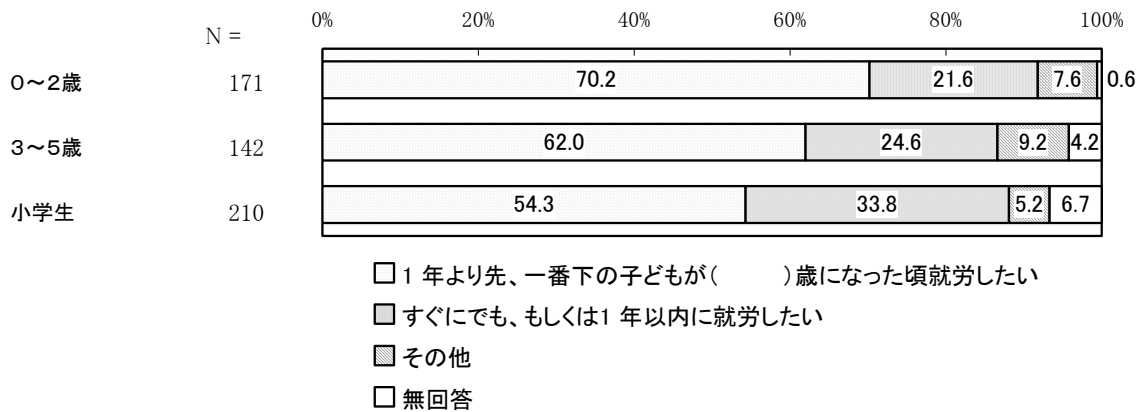
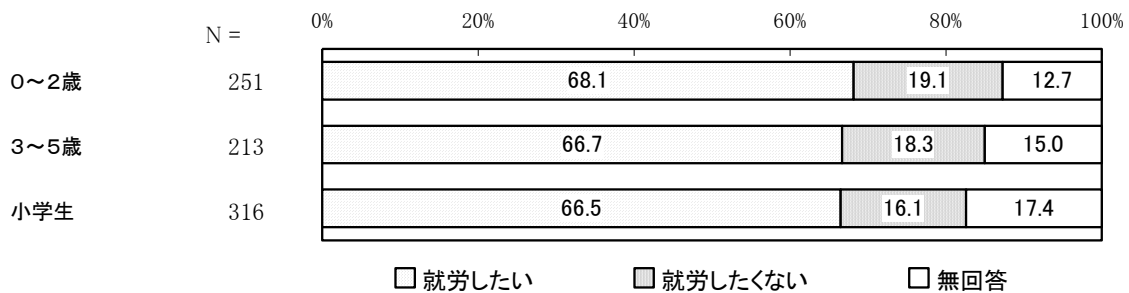
<平成 25 年度調査>



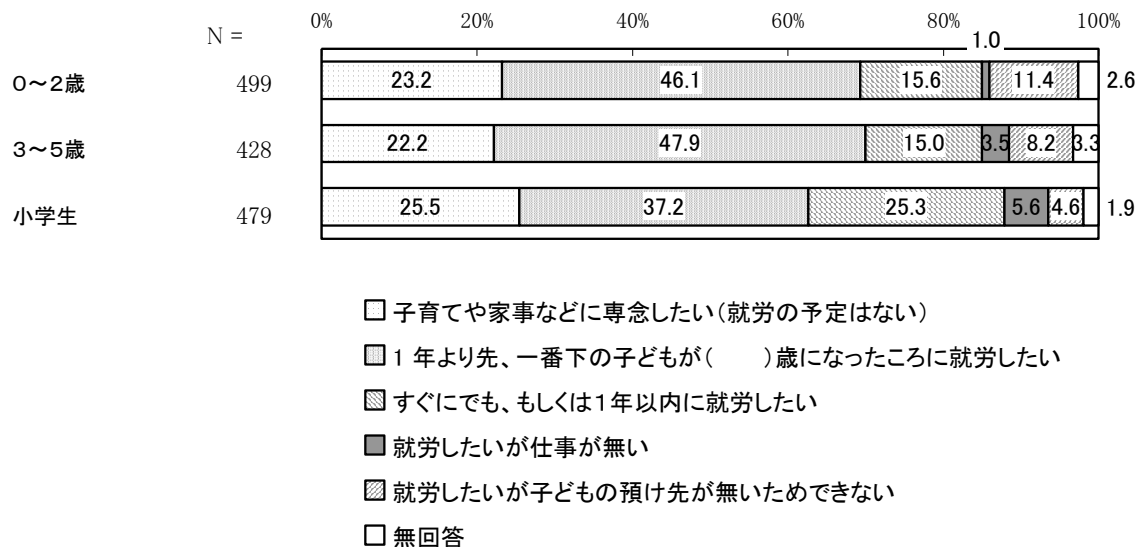
- ☐ フルタイム(1週5日程度・1日8時間程度の就労)への転換希望があり、実現できる見込みがある
- ☐ フルタイム(1週5日程度・1日8時間程度の就労)への転換希望はあるが、実現できる見込みはない
- ☐ パート・アルバイト等(「フルタイム」以外)の就労を続けることを希望
- ☐ パート・アルバイト等(「フルタイム」以外)をやめて子育てや家事に専念したい
- ☐ 無回答

③現在就労していない、または、これまで就労したことがない母親の就労希望
【0～2歳：問6、3～5歳：問6、小学生：問6】（SA）

<平成29年度調査>



<平成25年度調査>



3. 平日の定期的な教育・保育事業の利用状況について

幼稚園や保育園等の定期的な教育・保育事業の利用について、0～2歳では平成25年度調査より「奈良市内で利用」している人が増加し、約4割となっています。

利用している事業は、0～2歳で「認可保育園」が最も高くなっています。3～5歳では「幼稚園」が約4割と最も高く、次いで「認可保育園」となっていますが、その割合は平成25年度調査よりも減少しています。また、「認定こども園」の割合が2割台半ばまで増加しています。

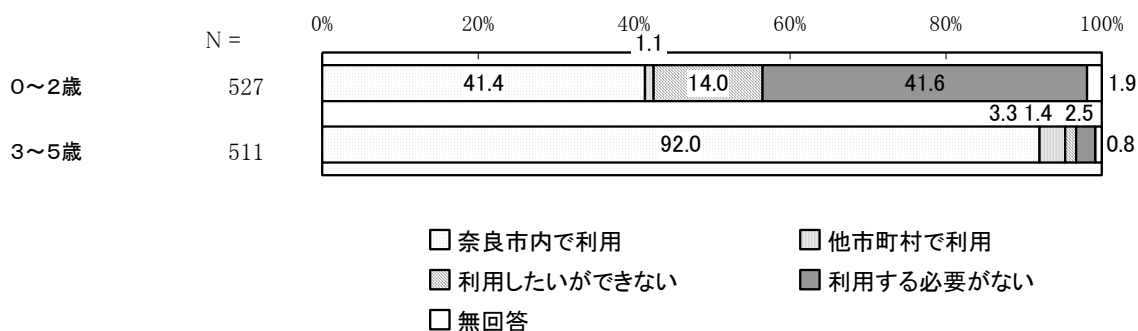
利用している施設への通園手段をみると、平成25年度調査と同様、子どもの年齢区分に関わらず「自家用車」が最も高くなっています。

今後、定期的に利用したい事業の希望については、0～2歳で「認可保育園」と「認定こども園」が3割を超えており、次いで「幼稚園・認定こども園の預かり保育」が高くなっています。3～5歳になると「認定こども園」が最も高くなっている一方、平成25年度には約5割だった「幼稚園」が1割台まで減少しています。

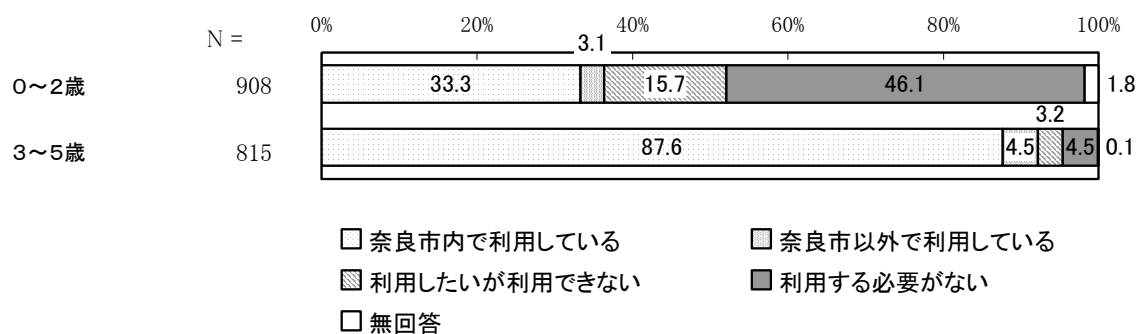
さらに、施設・事業を選ぶ際に重視することは、平成25年度調査と同様、「通園距離や立地条件」が最も高く、次いで「教育方針や保育方針の内容」となっています。

① 定期的な教育・保育事業の利用の有無【0～2歳：問7、3～5歳：問7】（SA）

<平成29年度調査>

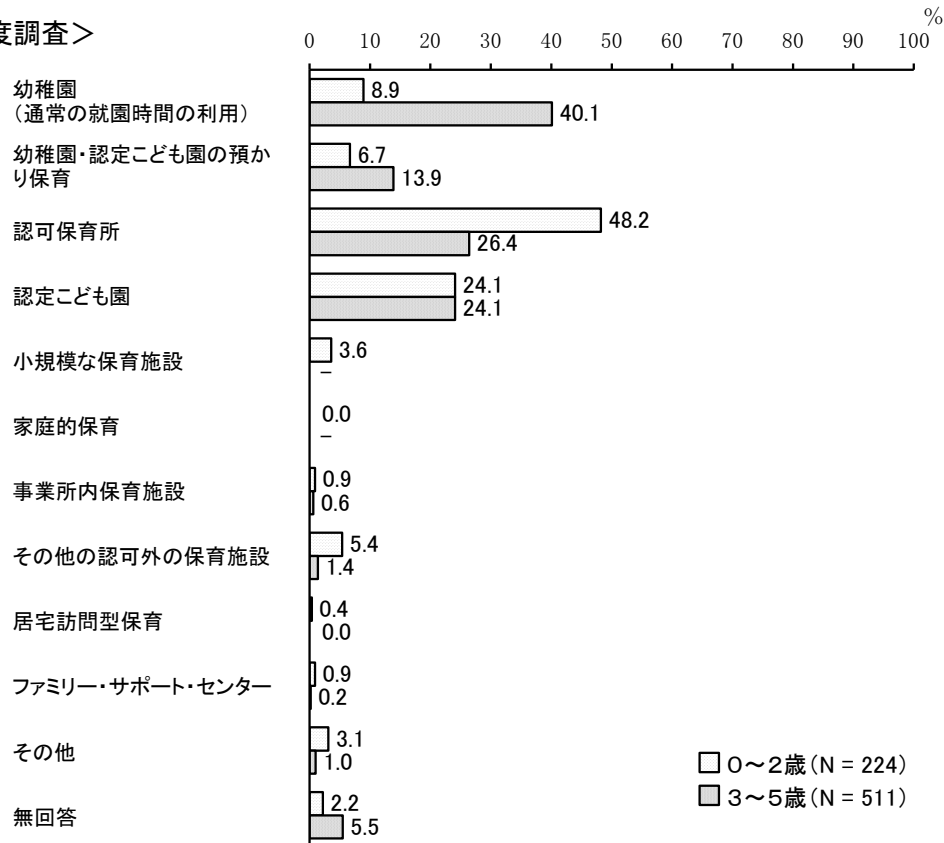


<平成25年度調査>



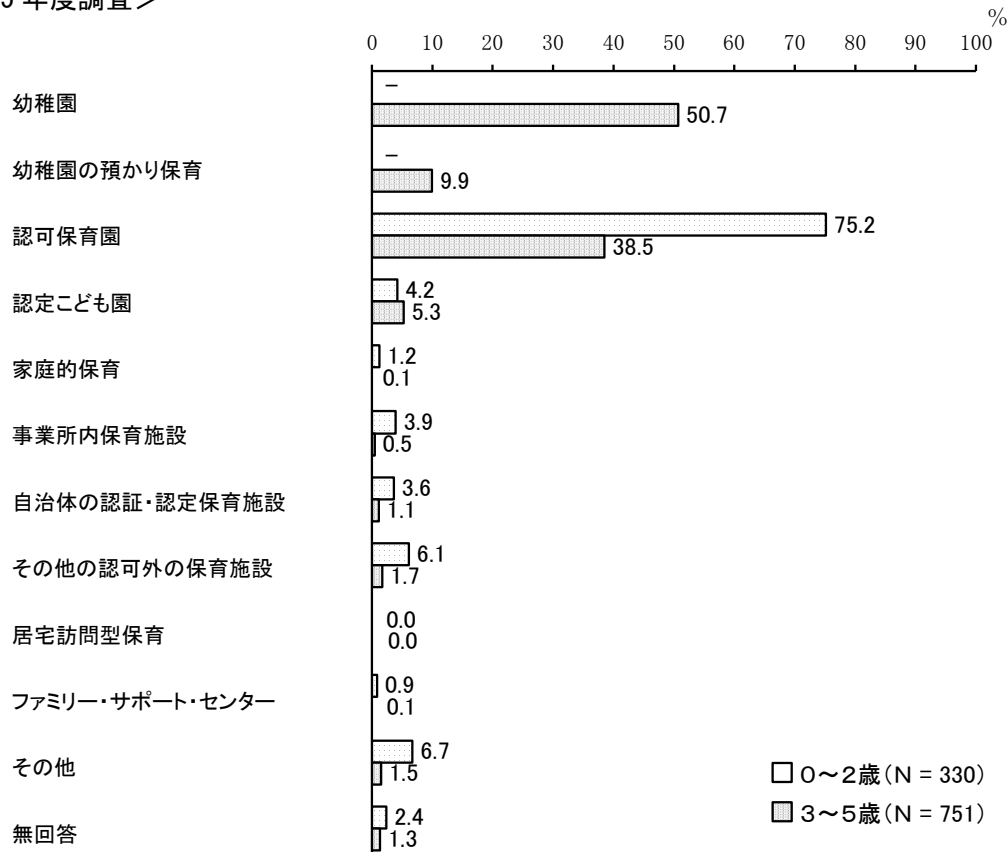
②定期的に利用している施設・事業【0～2歳：問7-1、3～5歳：問7-1】(MA)

<平成29年度調査>



※3～5歳には「小規模な保育施設」「家庭的保育」の選択肢はありません。

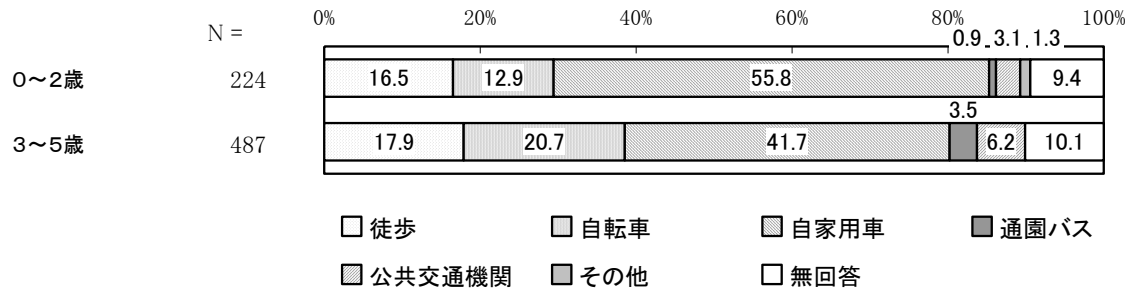
<平成25年度調査>



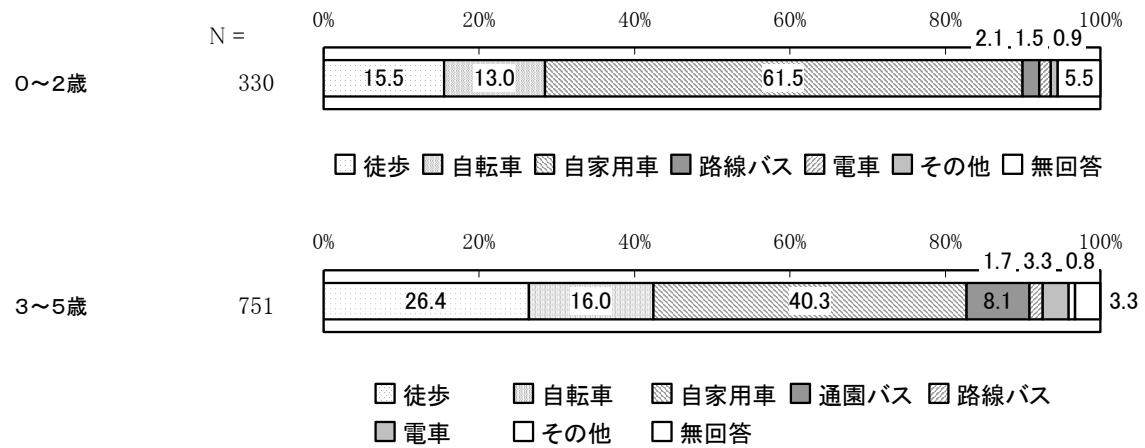
※0～2歳には「幼稚園」「幼稚園の預かり保育」の選択肢はありません。

③利用している施設・事業への主な通園手段【0～2歳：問7-6、3～5歳：問7-6】（SA）

<平成29年度調査>

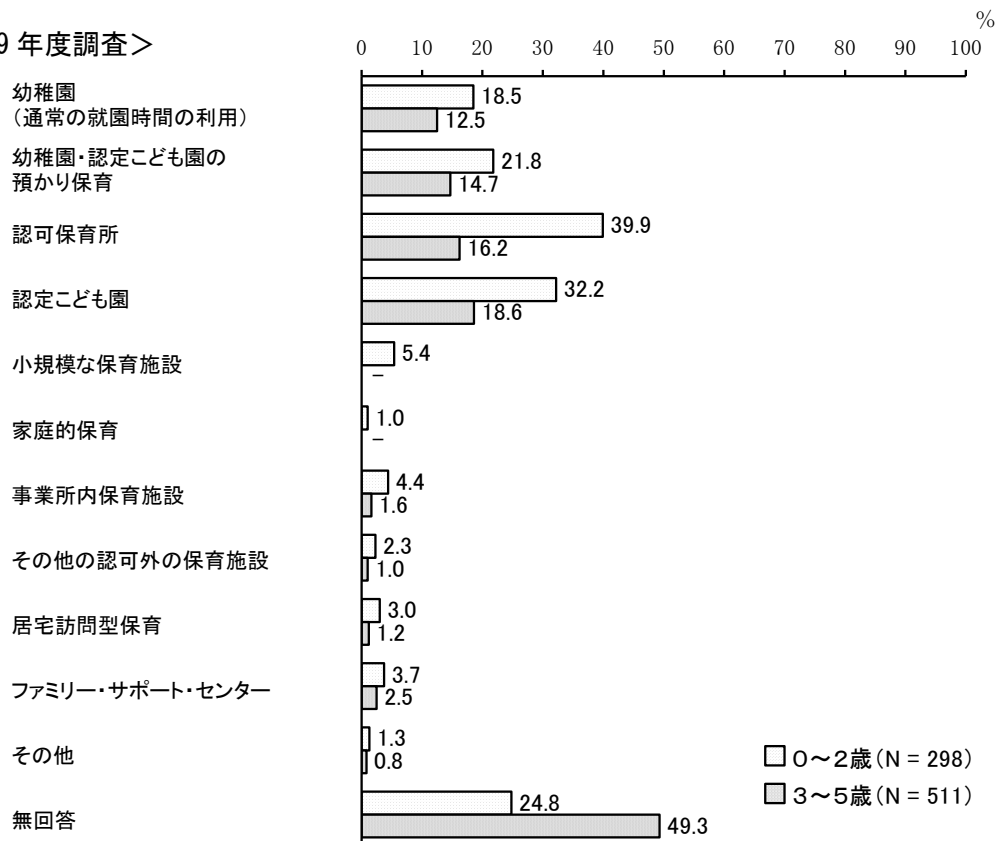


<平成25年度調査>

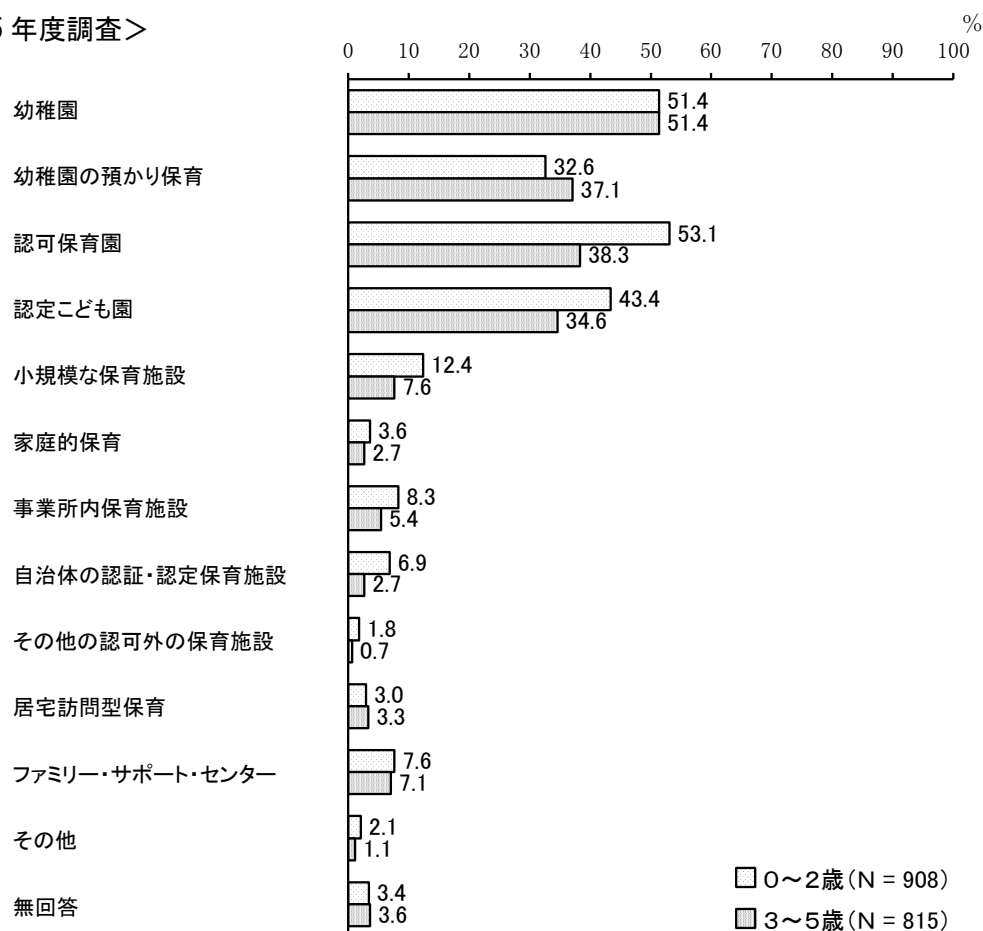


④定期的に利用したい教育・保育事業の希望【0～2歳：問7-1、3～5歳：問7-1】(MA)

<平成29年度調査>

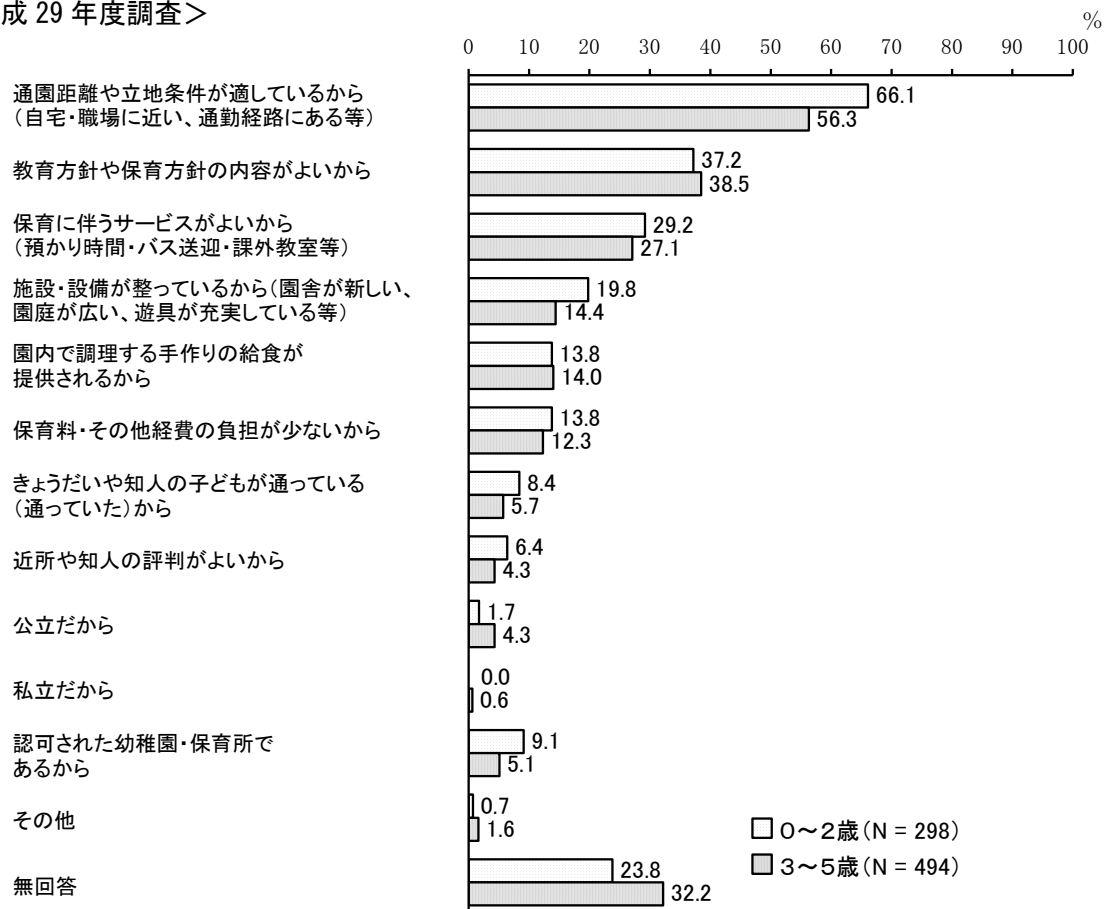


<平成25年度調査>

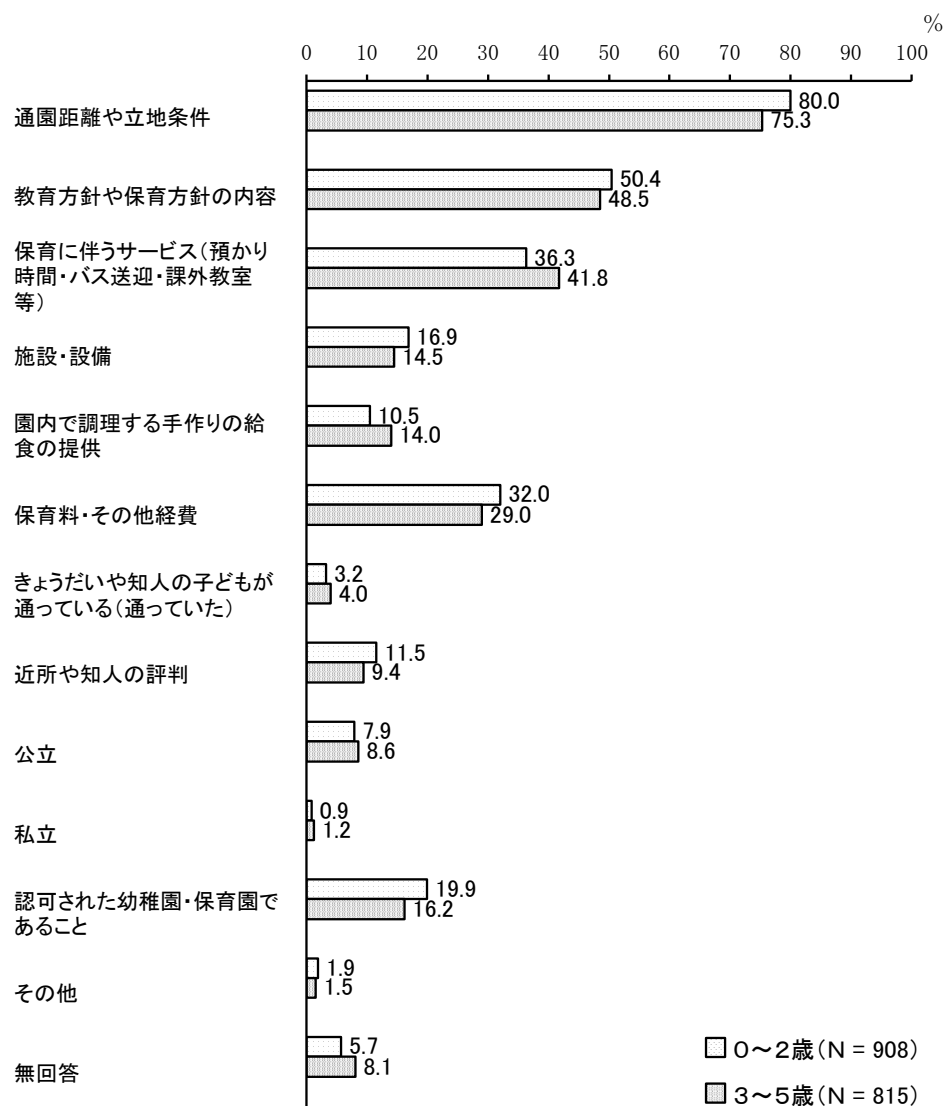


⑤施設・事業を選ぶ際に重視すること【0～2歳：問7-4、3～5歳：問7-4】（MA）

<平成29年度調査>



<平成 25 年度調査>



4. 土曜・休日や長期休暇中の教育・保育事業の利用希望について

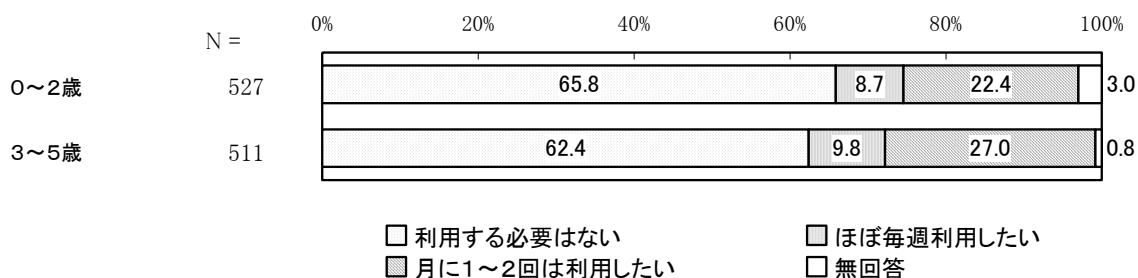
土曜・休日の定期的な教育・保育事業の利用希望は、土曜日については6割以上、日・祝日については、7割以上の方が「利用する必要はない」と回答しています。

次に、「幼稚園の預かり保育」に限定すると、約7割の方が平日に定期的に利用しており、平成25年度調査に比べ40ポイント以上増加しています。また、利用の理由については、「自分の時間をつくりたいため」が最も高く、5割を占め、次に「就労しているため」が多く、平成25年度の調査に比べ14ポイント増加しています。

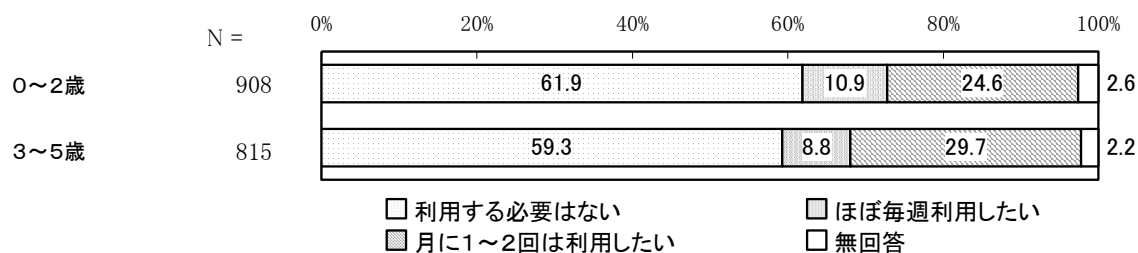
さらに、夏休みや冬休み等の長期休暇中の預かり保育の利用希望については、「ほぼ毎日利用したい」と「週に数日利用したい」を合計すると、約6割の方が利用したいと回答しています。

①土曜日の定期的な教育・保育事業の利用希望【0～2歳：問8、3～5歳：問8】（SA）

<平成29年度調査>

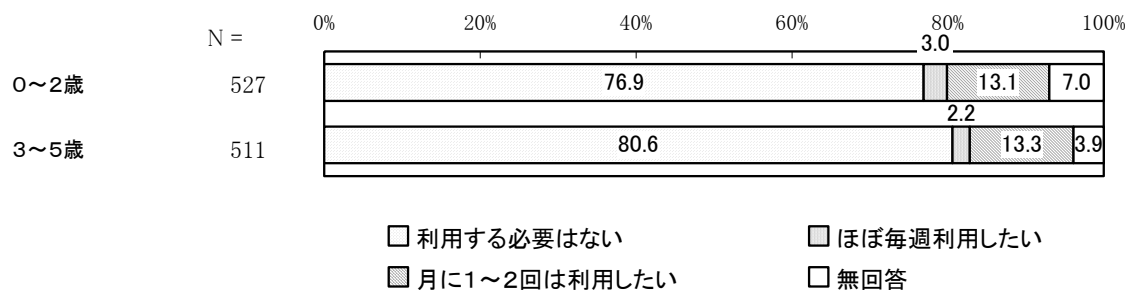


<平成25年度調査>

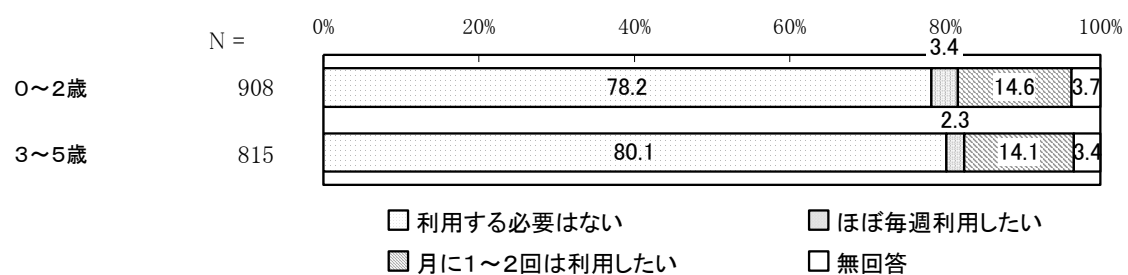


②日・祝日の定期的な教育・保育事業の利用希望【0～2歳：問8、3～5歳：問8】（SA）

<平成 29 年度調査>

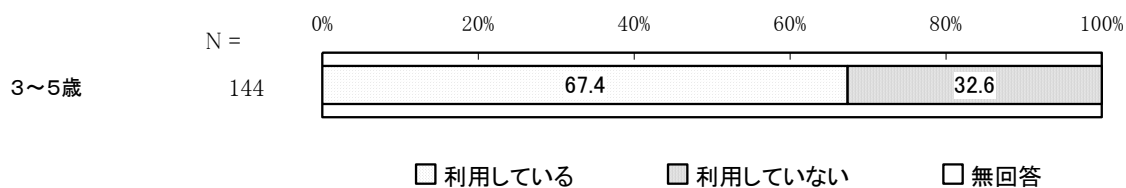


<平成 25 年度調査>

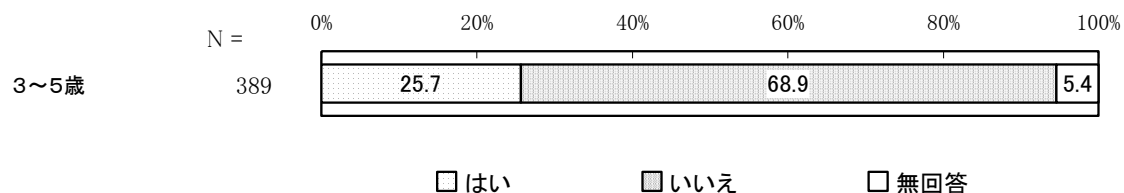


③幼稚園利用者の「預かり保育」の定期的な利用の有無【3～5歳：問9-1】（SA）

<平成29年度調査>



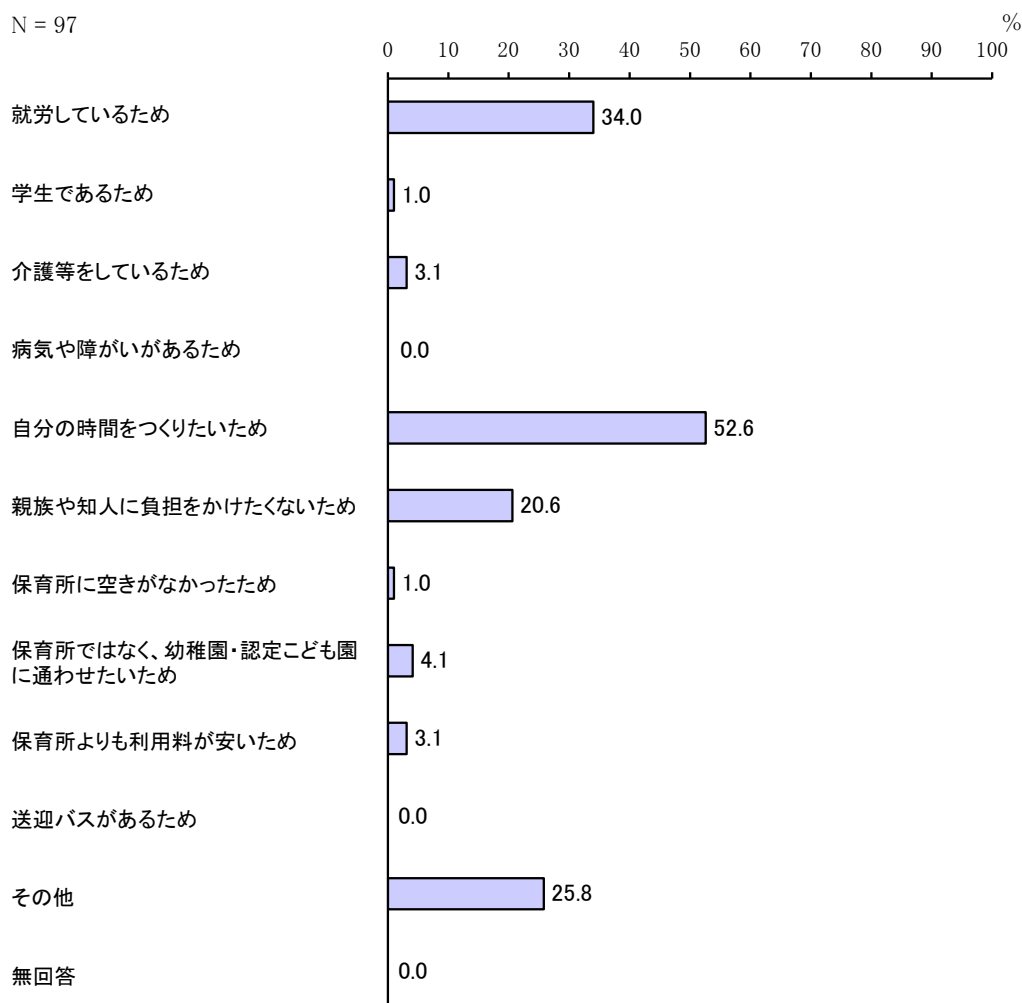
<平成25年度調査>



④幼稚園利用者の「預かり保育」の定期的な利用の理由【3～5歳：問9-2】（MA）

<平成29年度調査>

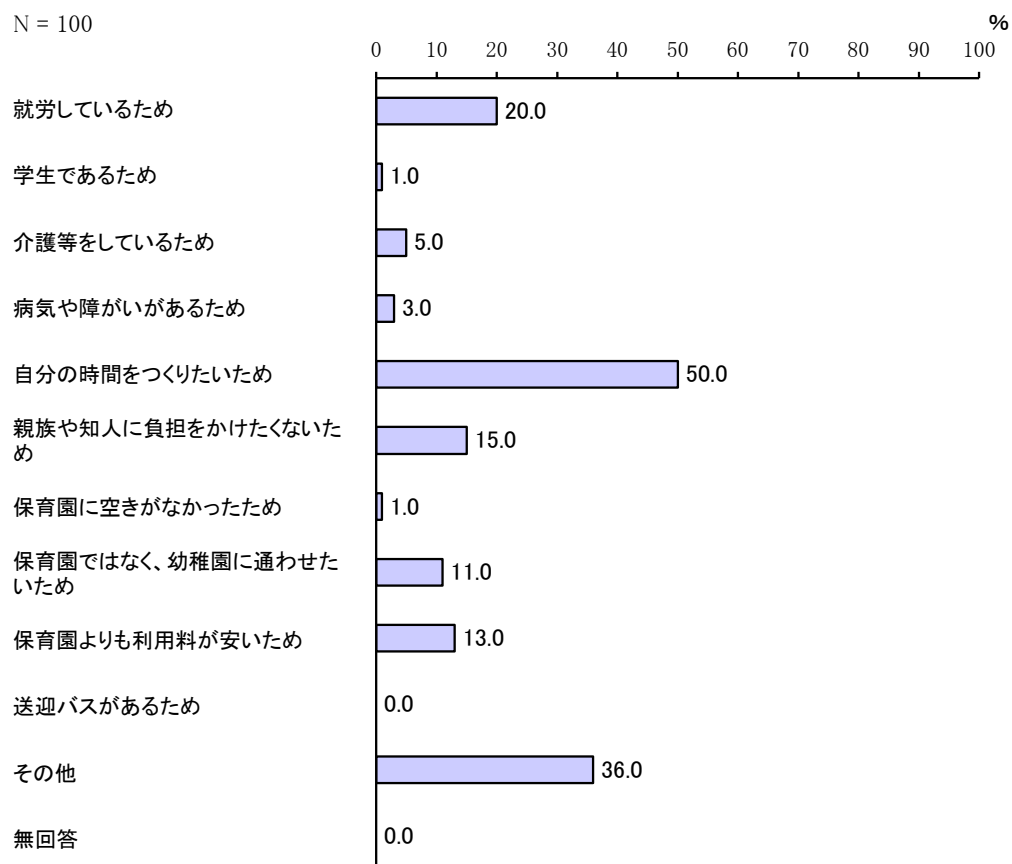
【3～5歳】



<平成 25 年度調査>

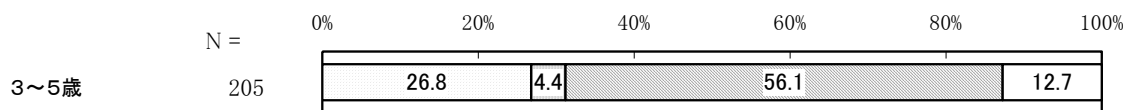
【3～5歳】

N = 100



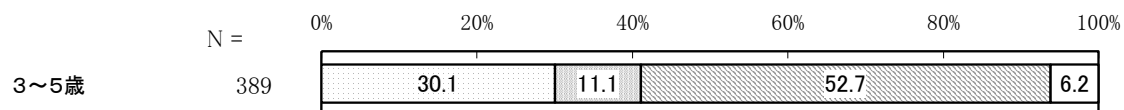
⑤幼稚園利用者の「長期休暇中の預かり保育」の利用希望【3～5歳：問9-3】（SA）

<平成 29 年度調査>



- ☐ 利用する必要はない
 ☐ 休みの期間中、ほぼ毎日利用したい
☐ 休みの期間中、週に数日利用したい
 ☐ 無回答

<平成 25 年度調査>



- ☐ 利用する必要はない
 ☐ 休みの期間中、ほぼ毎日利用したい
☐ 休みの期間中、週に数日利用したい
 ☐ 無回答

5. 子どもが病気やケガの際の対応について

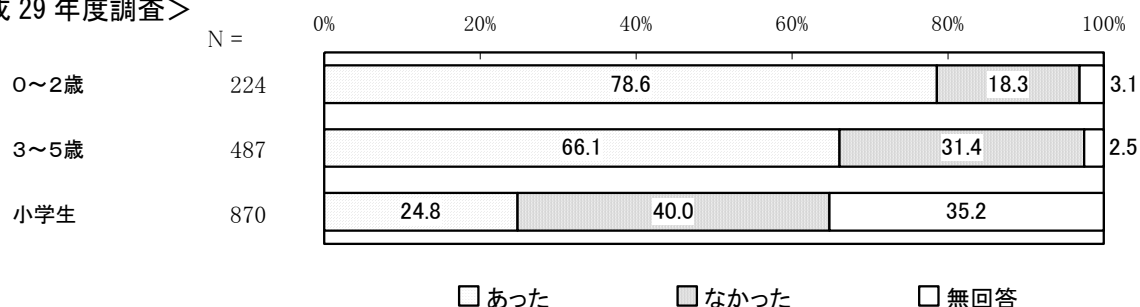
この1年間に、子どもが病気やケガが原因で、定期的な教育・保育事業が通常どおりに利用できなかったことがあるかどうかについて、0～2歳では、平成25年度調査と同様、約8割の方が「あった」と回答しています。

その場合の対処は、年齢区分に関わらず「母親休みをとった」が最も高く、次いで「親族・知人（同居者を含む）に子どもをみてもらった」となっています。

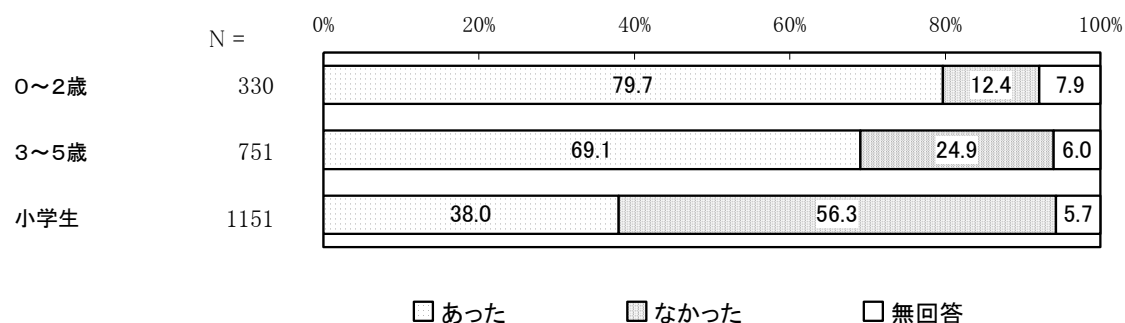
母親または父親が休んで対応した家庭の病児・病後児保育の利用希望については、子どもの年齢区分に関わらず「できれば利用したかった」が約3割となっています。また、未就学児童では、「できれば利用したかった」が減少しています。

①この1年間の子どもの病気やケガより定期的な教育・保育事業が利用できなかった経験の有無
【0～2歳：問9、3～5歳：問10、小学生：問14】（SA）

<平成29年度調査>

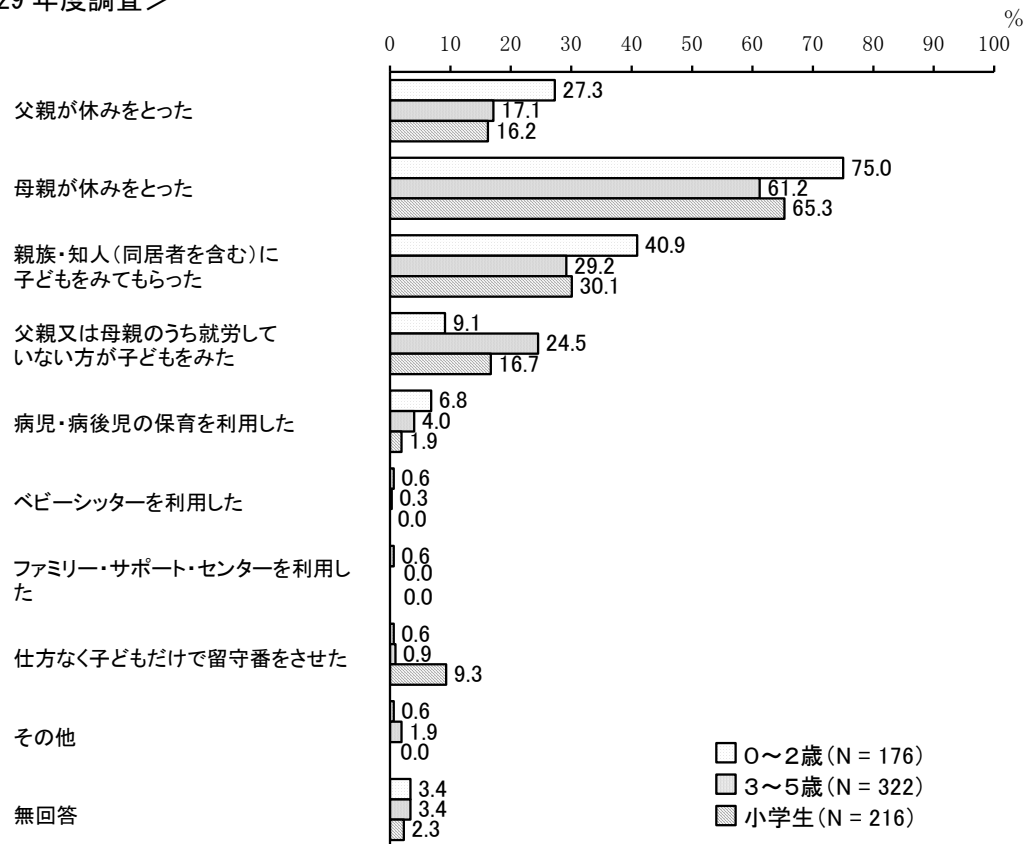


<平成25年度調査>

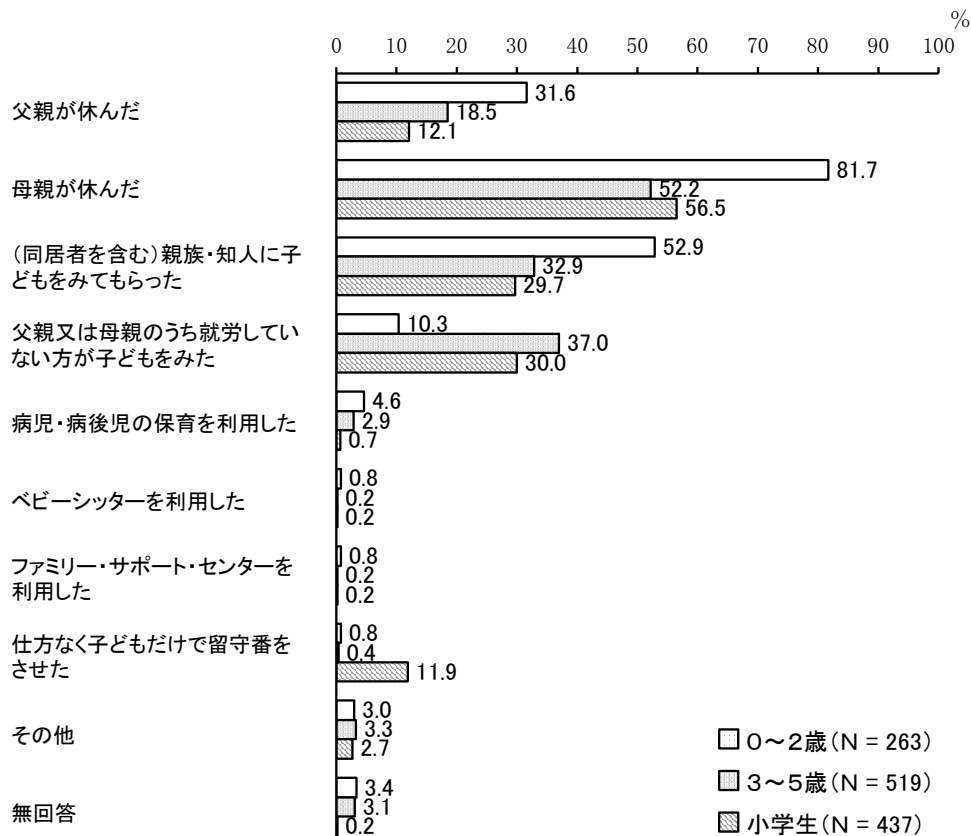


②病気やケガにより定期的な教育・保育事業が利用できなかった場合の対処方法
【0～2歳：問9-1、3～5歳：問10-1、小学生：14-1】(MA)

<平成29年度調査>

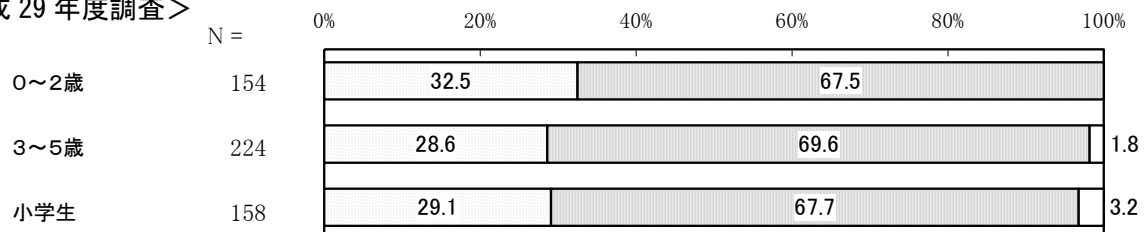


<平成25年度調査>



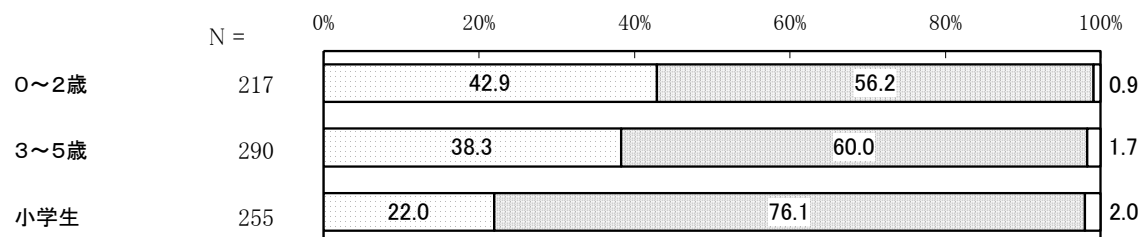
③母親または父親が休んで対応した家庭の病児・病後児保育の利用希望
【0～2歳：問 9-2、3～5歳：問 10-2、小学生：問 14-2】（S A）

<平成 29 年度調査>



☐ できれば利用したかった ☐ 利用したいとは思わなかった ☐ 無回答

<平成 25 年度調査>



☐ できれば利用したかった ☐ 利用したいとは思わなかった ☐ 無回答

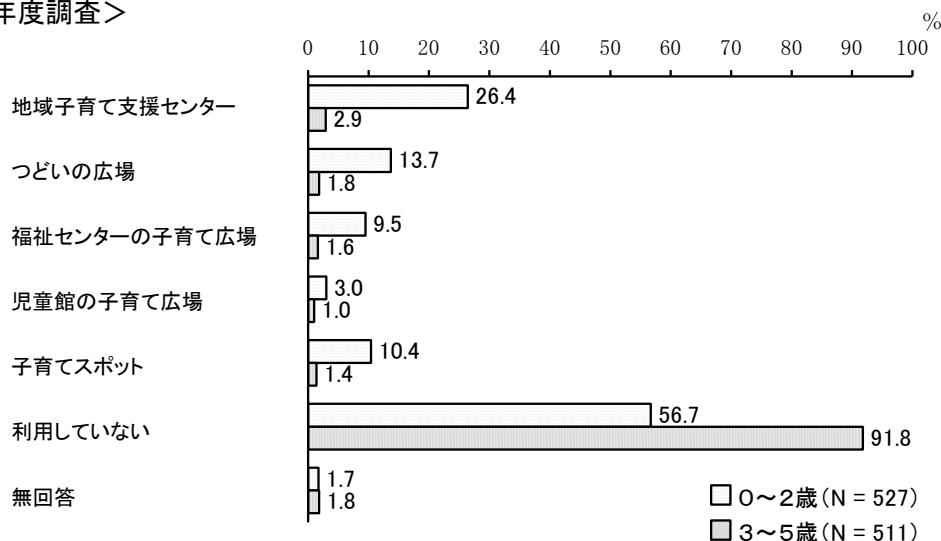
6. 地域の子育て支援事業の利用状況について

地域の子育て支援のための事業の利用状況について、0～2歳では、平成25年度調査と同様、「利用していない」が最も高く、5割を超えています。なお、利用事業の中では「地域子育て支援センター」の利用状況が最も高くなっています。

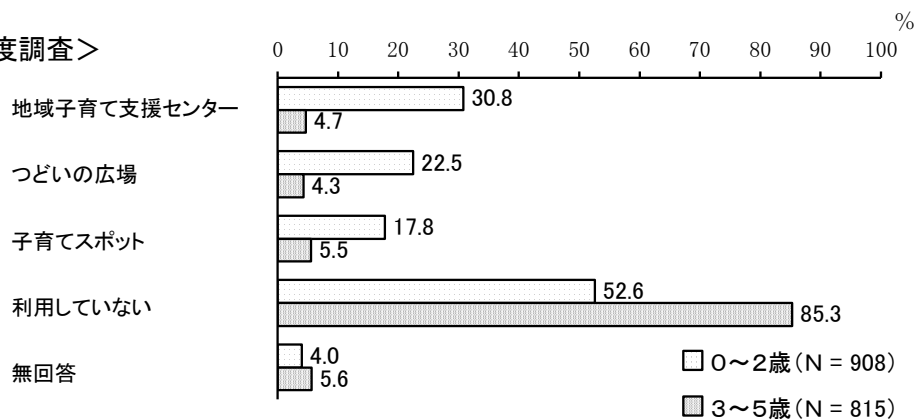
地域の子育て支援事業の今後の利用希望については、0～2歳では、「利用していないが、今後利用したい」と「すでに利用しているが、今後利用日数を増やしたい」を合計して“利用したい”方の割合が、平成25年度調査に比べ減少し、5割未満となっています。

①地域の子育て支援事業の利用状況【0～2歳：問10、3～5歳：問12】(MA)

<平成29年度調査>

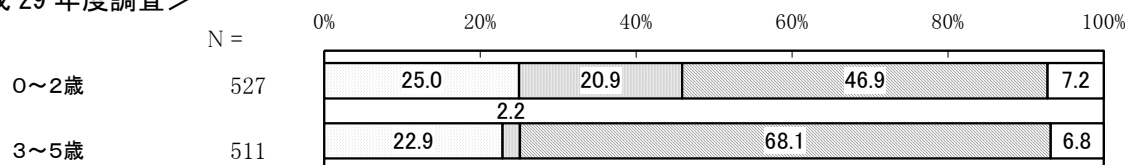


<平成25年度調査>



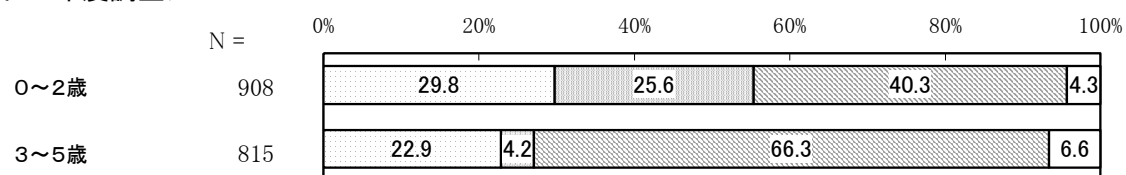
②地域の子育て支援事業の今後の利用希望【0～2歳：問12、3～5歳：問13】（SA）

<平成29年度調査>



- ☐ 利用していないが、今後利用したい
- ☐ すでに利用しているが、今後利用日数を増やしたい
- ☐ 新たに利用したり、利用日数を増やしたいとは思わない
- ☐ 無回答

<平成25年度調査>



- ☐ 利用していないが、今後利用したい
- ☐ すでに利用しているが、今後利用日数を増やしたい
- ☐ 新たに利用したり、利用日数を増やしたいとは思わない
- ☐ 無回答

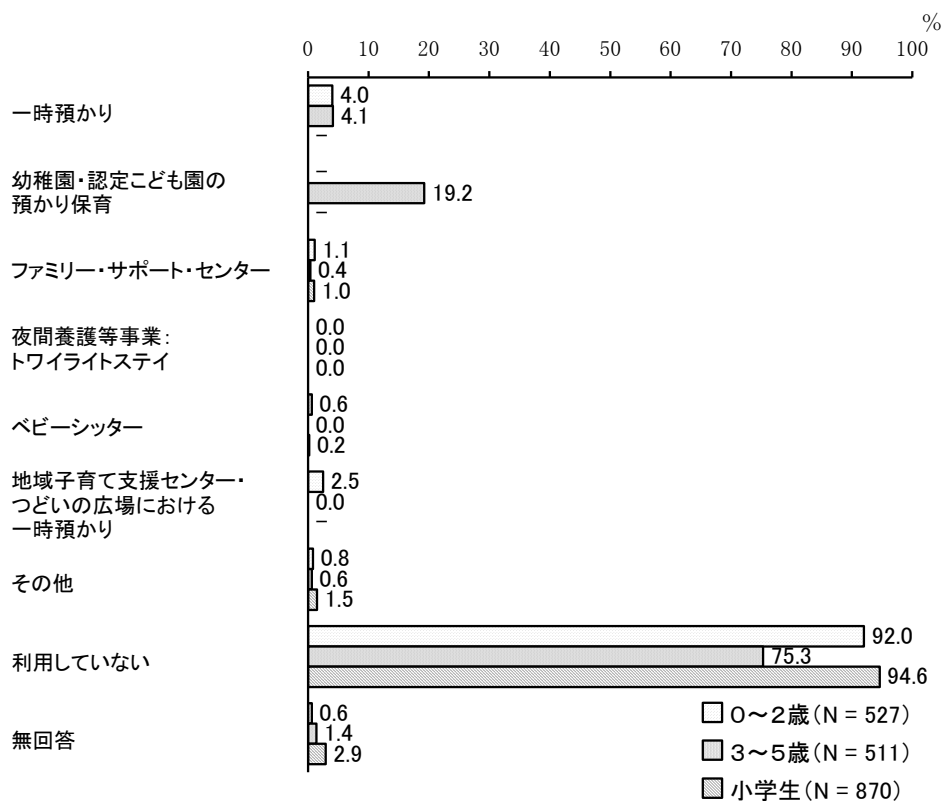
7. 不定期の教育・保育事業及び一時預かり等の利用状況について

定期的な教育・保育事業等以外に、保護者の私用や通院、不定期の就労等の目的で不定期的に利用している事業があるかどうかについては、子どもの年齢区分に関わらず「利用していない」が最も高くなっています。また、利用している事業の中では「幼稚園・認定こども園の預かり保育」が高くなっています。

その利用目的については、就学前児童では「私用、子どもや親の習い事等、リフレッシュ目的」が最も高く、小学生では「冠婚葬祭、学校行事、子ども（きょうだいを含む）や親の通院等」の割合が最も高くなっています。又、3～5歳では「不定期の就労」が増加傾向にあります。

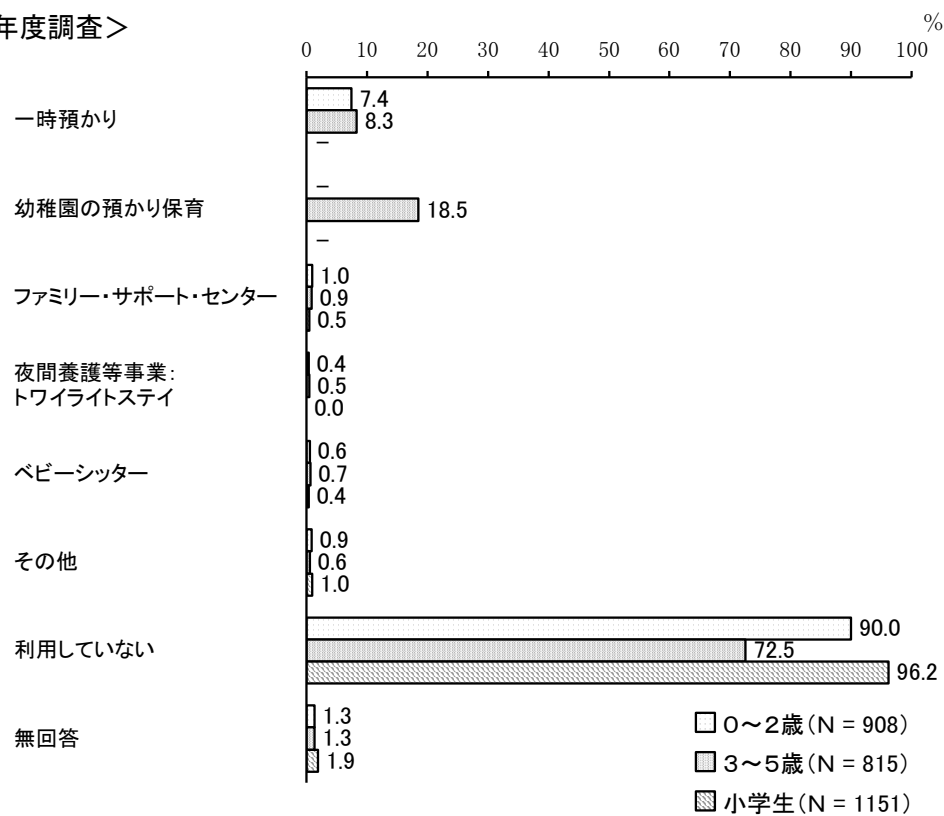
①不定期で利用している事業の有無【0～2歳：問14、3～5歳：問15、小学生：問16】（MA）

<平成29年度調査>



※0～2歳には「幼稚園・認定こども園の預かり保育」の選択肢はありません。また、小学生には「一時預かり」「幼稚園の預かり保育」「地域子育て支援センター・つどいの広場における一時預かり」の選択肢はありません。

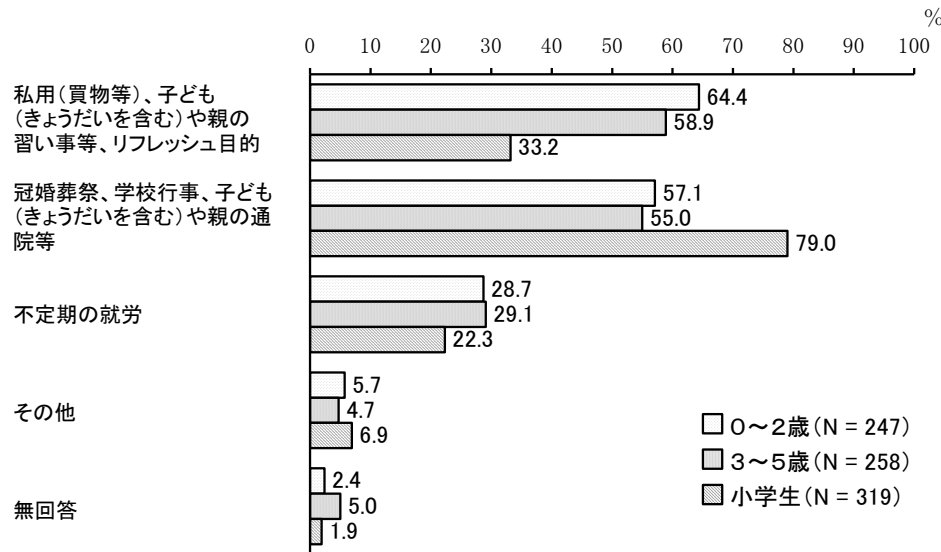
<平成 25 年度調査>



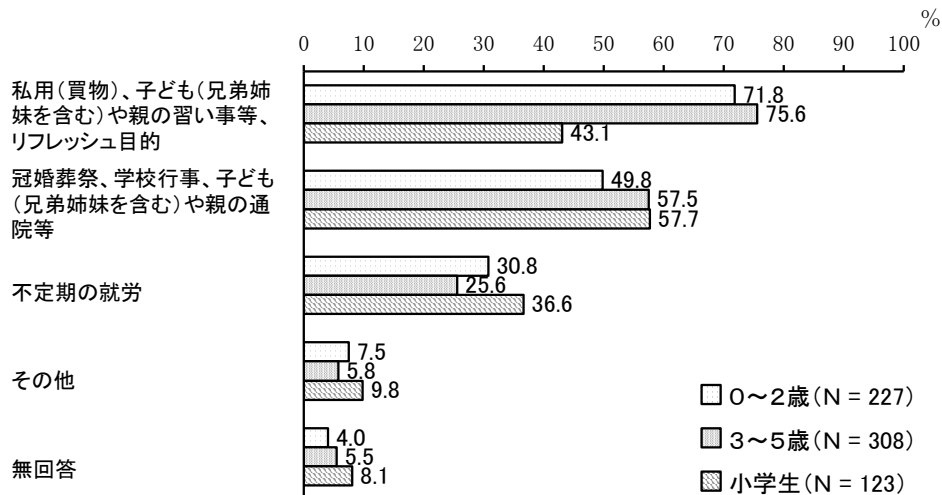
※0～2歳には「幼稚園の預かり保育」の選択肢はありません。また、小学生には「一時預かり」「幼稚園の預かり保育」の選択肢はありません。

②一時預かり等の利用目的【0～2歳：問15-1、3～5歳：問16-1、小学生：問17-1】(MA)

<平成29年度調査>



<平成25年度調査>

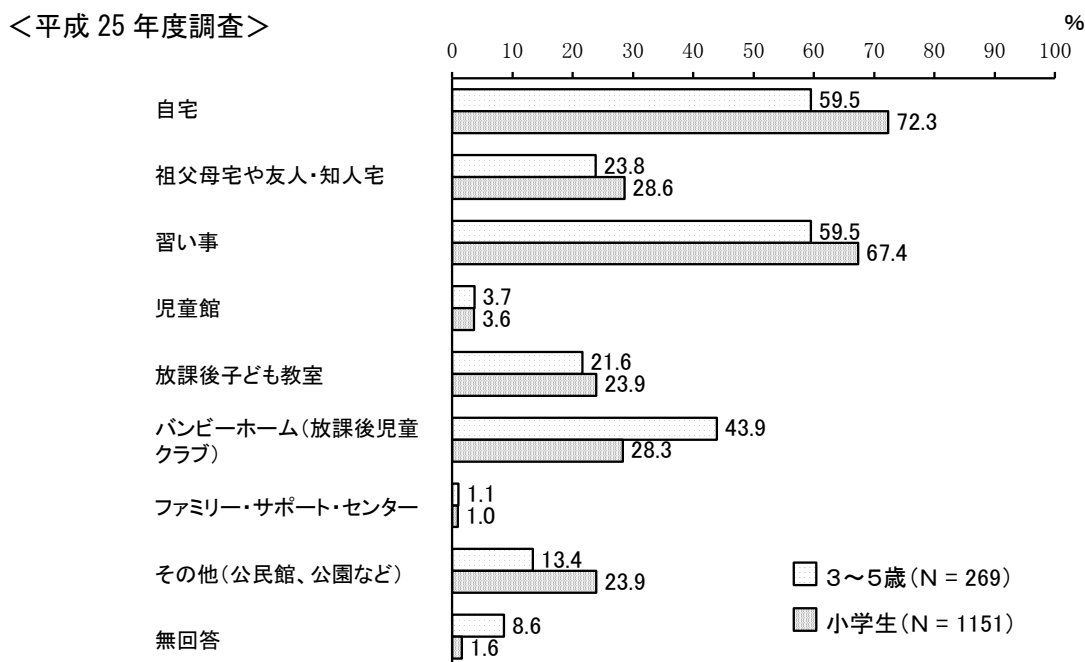
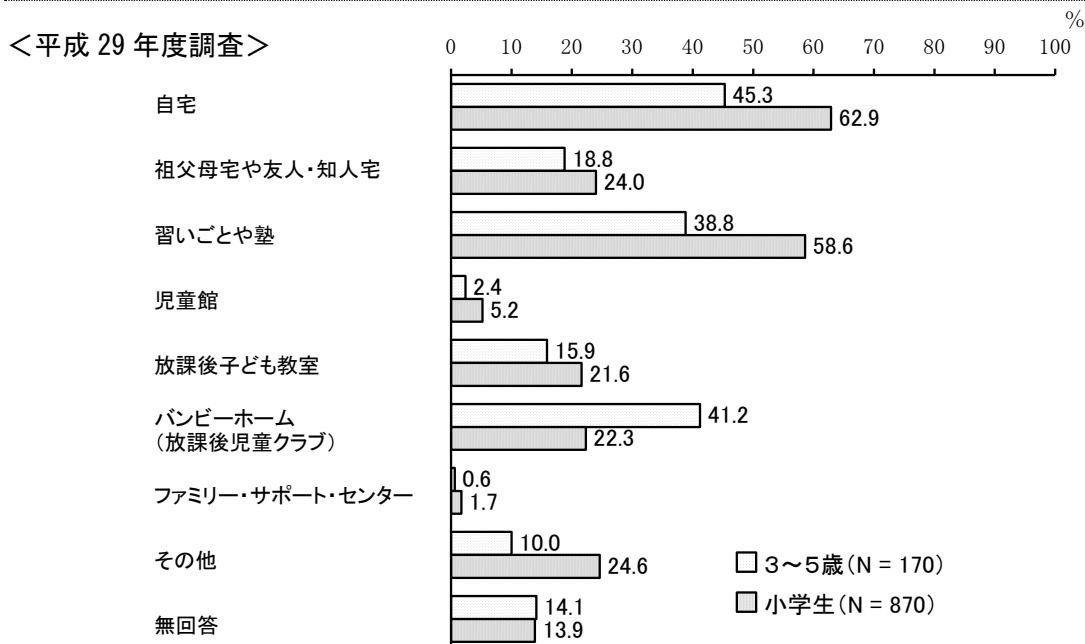


8. 小学校就学後の放課後の過ごし方の希望について

小学校就学後の放課後の過ごし方について、低学年（1～3年生）の間の過ごし方の希望については、「自宅」と「習い事や塾」が高くなっていますが、その割合は平成25年度調査に比べ、減少しています。また、「バンビーホーム（放課後児童クラブ）」は平成25年度調査と同様、約4割となっています。

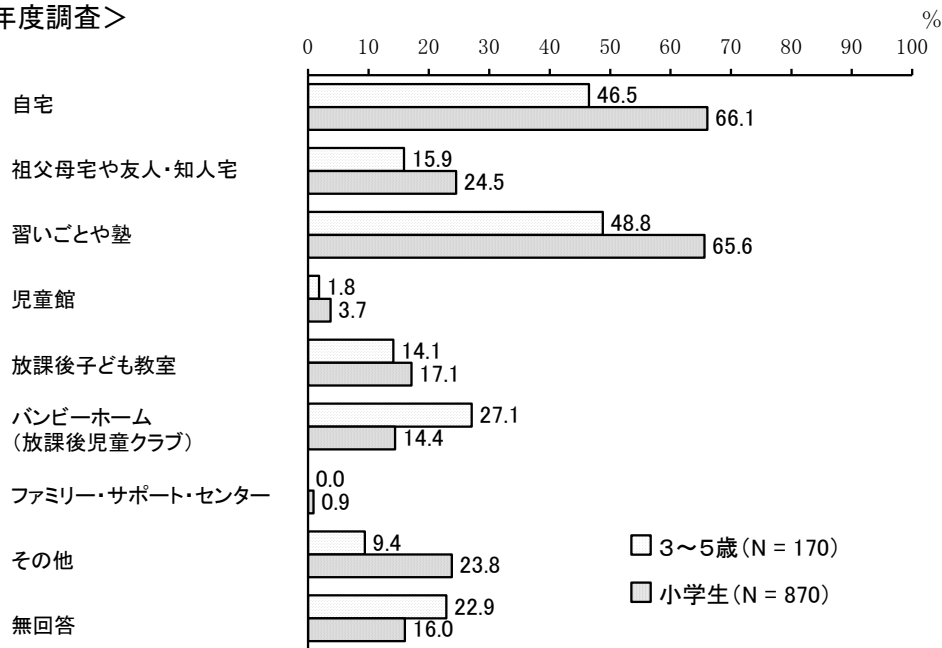
一方、高学年（4～6年生）の間の過ごし方の希望については、「自宅」と「習い事や塾」が低学年の間と同様に高くなっていますが、その割合は平成25年度調査に比べ減少しています。「バンビーホーム（放課後児童クラブ）」を希望する割合は、子どもの年齢区分に関わらず減少しています。

①小学校低学年（1～3年生）の間の放課後の過ごし方【3～5歳：問18、小学生：問8】（MA）

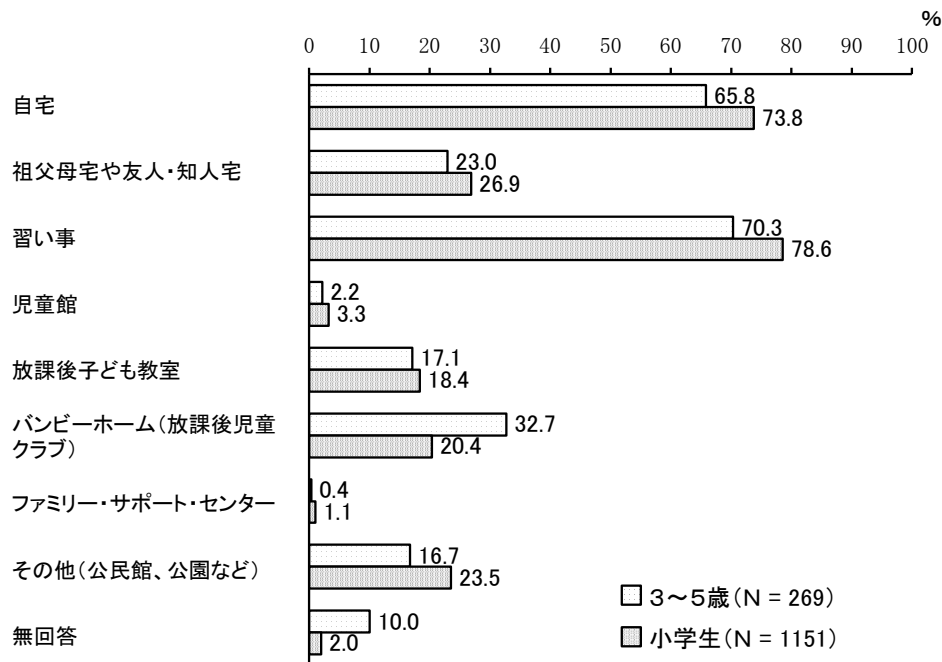


②小学校高学年（４～６年生）の間の放課後の過ごし方【３～５歳：問１８、小学生：問８】（ＭＡ）

<平成 29 年度調査>



<平成 25 年度調査>



9. 子育ての不安と悩みについて

最後に、奈良市の子育ての環境や満足度について、平成 25 年度調査と同様、子どもの年齢が上がるほど満足度が低いと回答する方の割合が高くなっていますが、平成 25 年度調査と比べ、満足度 4 又は 5 と記入する人の割合が全ての年齢区分で増えています。

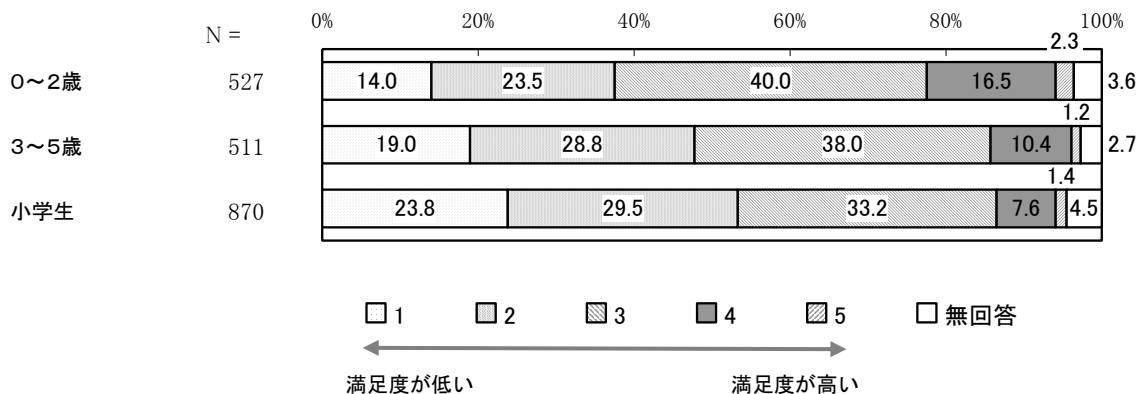
子育てに関して、日常悩んでいることや、気になることについては、平成 25 年度調査と同様、0～2 歳では「食事や栄養に関すること」や「病気や発育・発達に関すること」が高く、3～5 歳と小学生では、「子どもを叱りすぎているような気がする」とや「子どもの教育に関すること」が高くなっています。

子育てに関する悩みや不安がある場合の相談相手については、「配偶者・パートナー」が最も高く、次いで「その他の親族（親・きょうだいなど）」、「隣近所の方、地域の知人、友人」となっています。

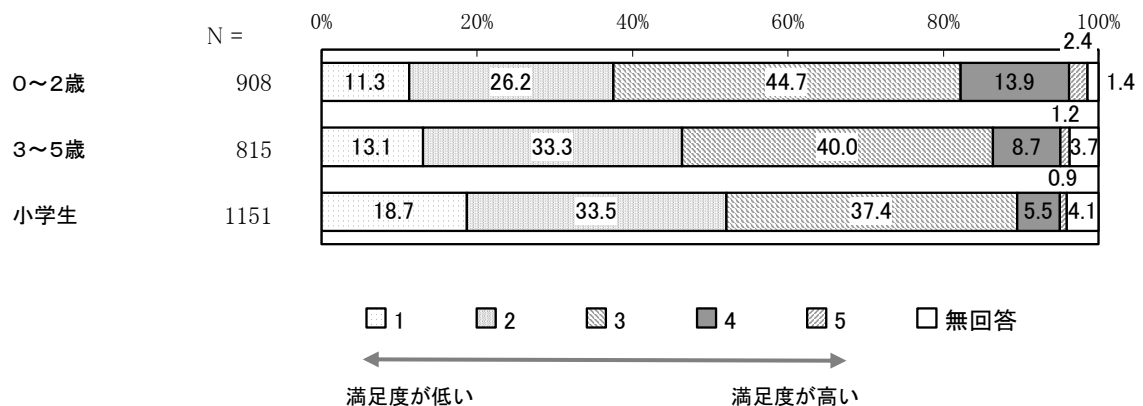
妊娠中、産後 3 か月以内に家事・育児に関して困ったことについては、「家事」「上の子どもの世話」が多くなっています。

①奈良市の子育て環境や支援の満足度【0～2 歳：問 18、3～5 歳：問 21、小学生：問 20】（S A）

<平成 29 年度調査>



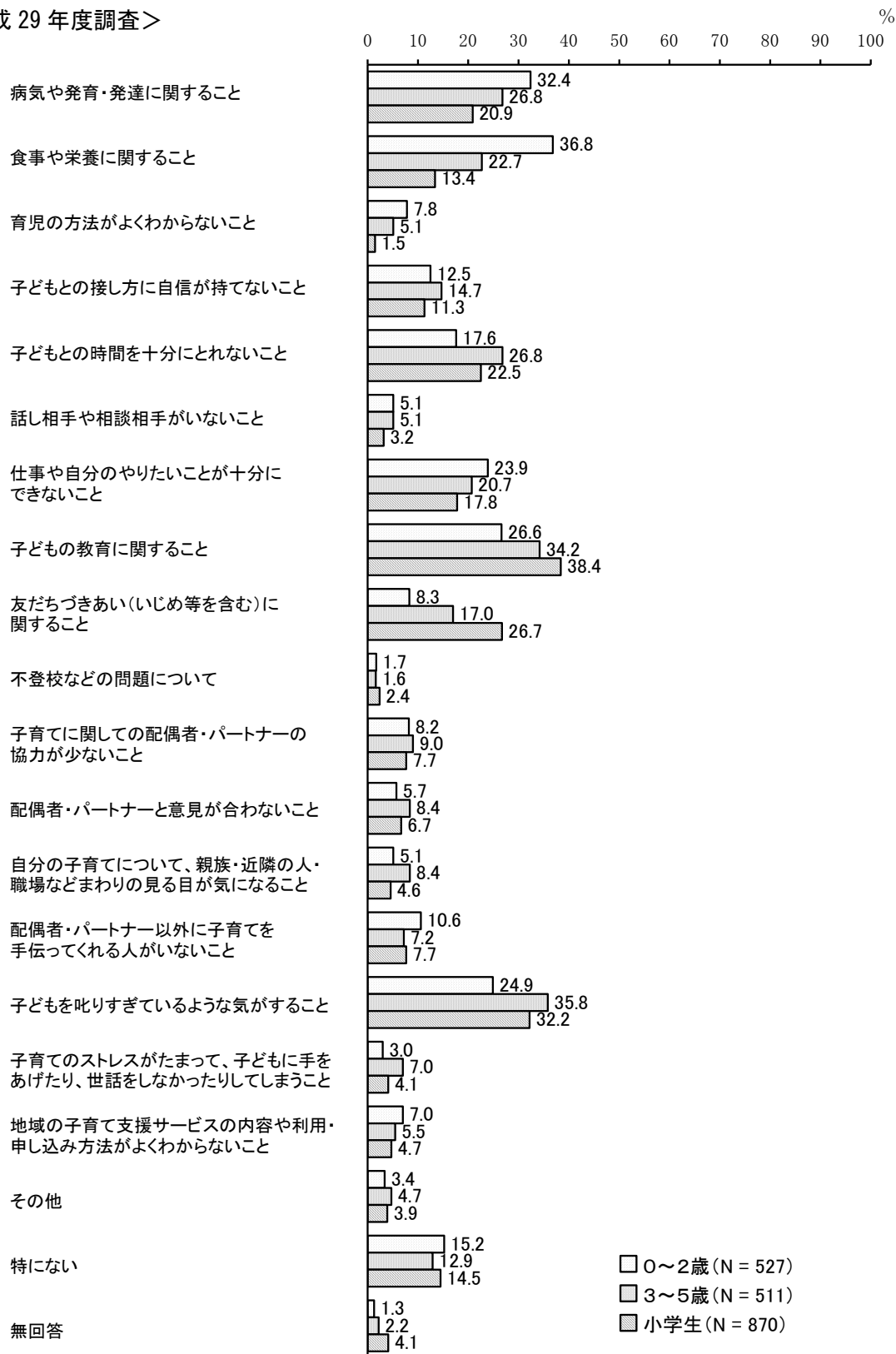
<平成 25 年度調査>



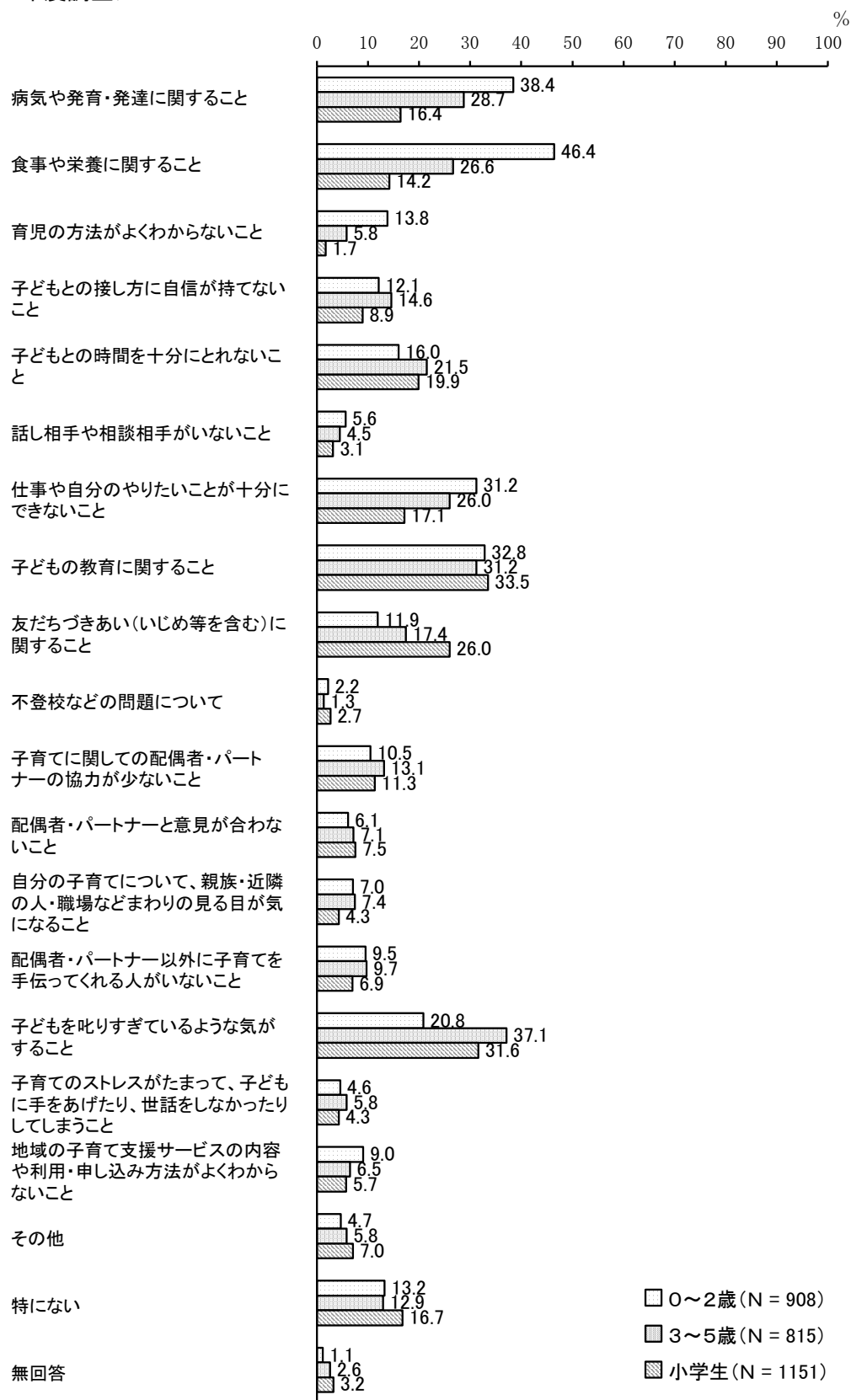
②子育てに関して、日常悩んでいること、気になること

【0～2歳：問20、3～5歳：問23、小学生：問22】(MA)

<平成29年度調査>

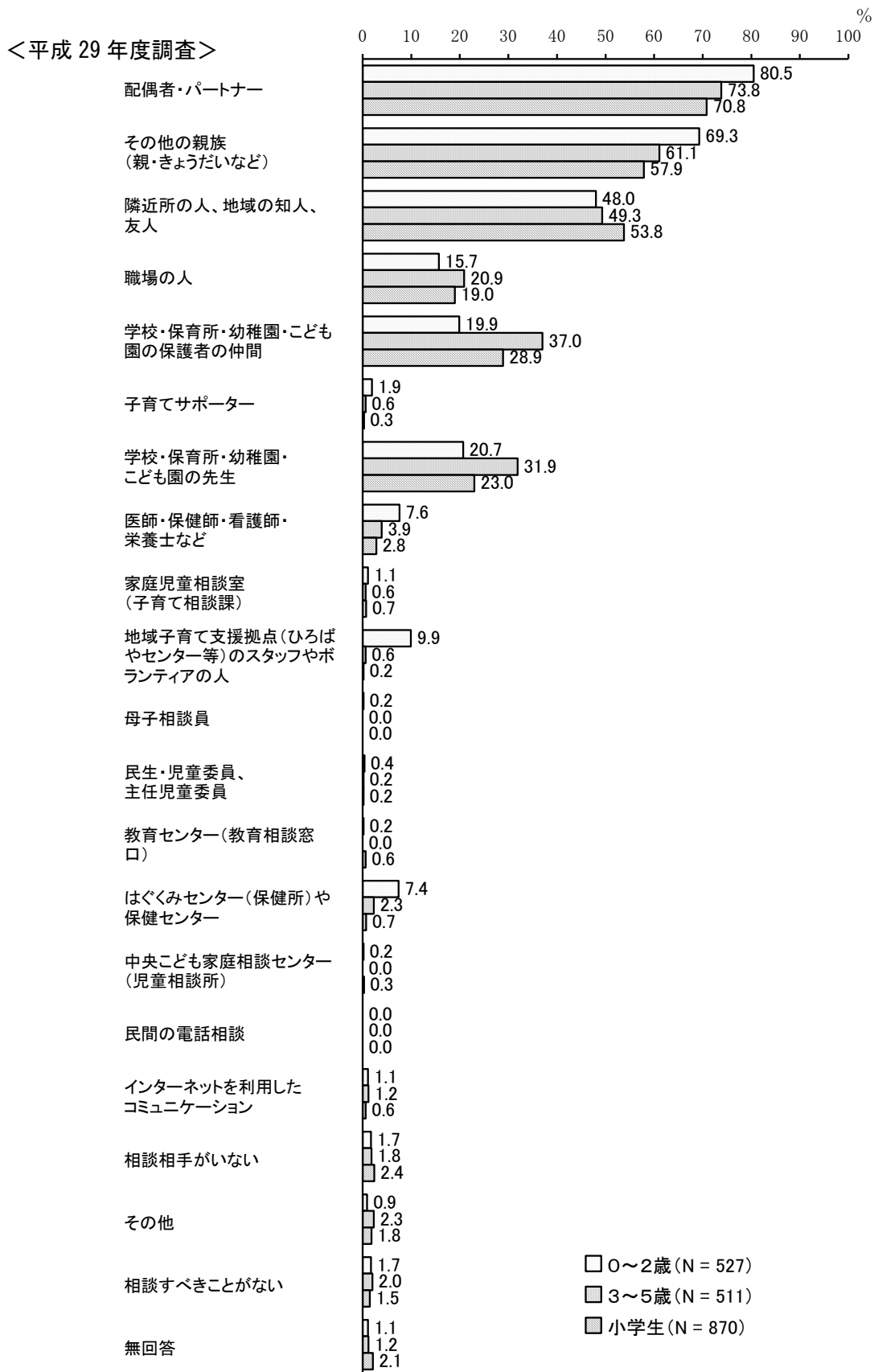


<平成 25 年度調査>

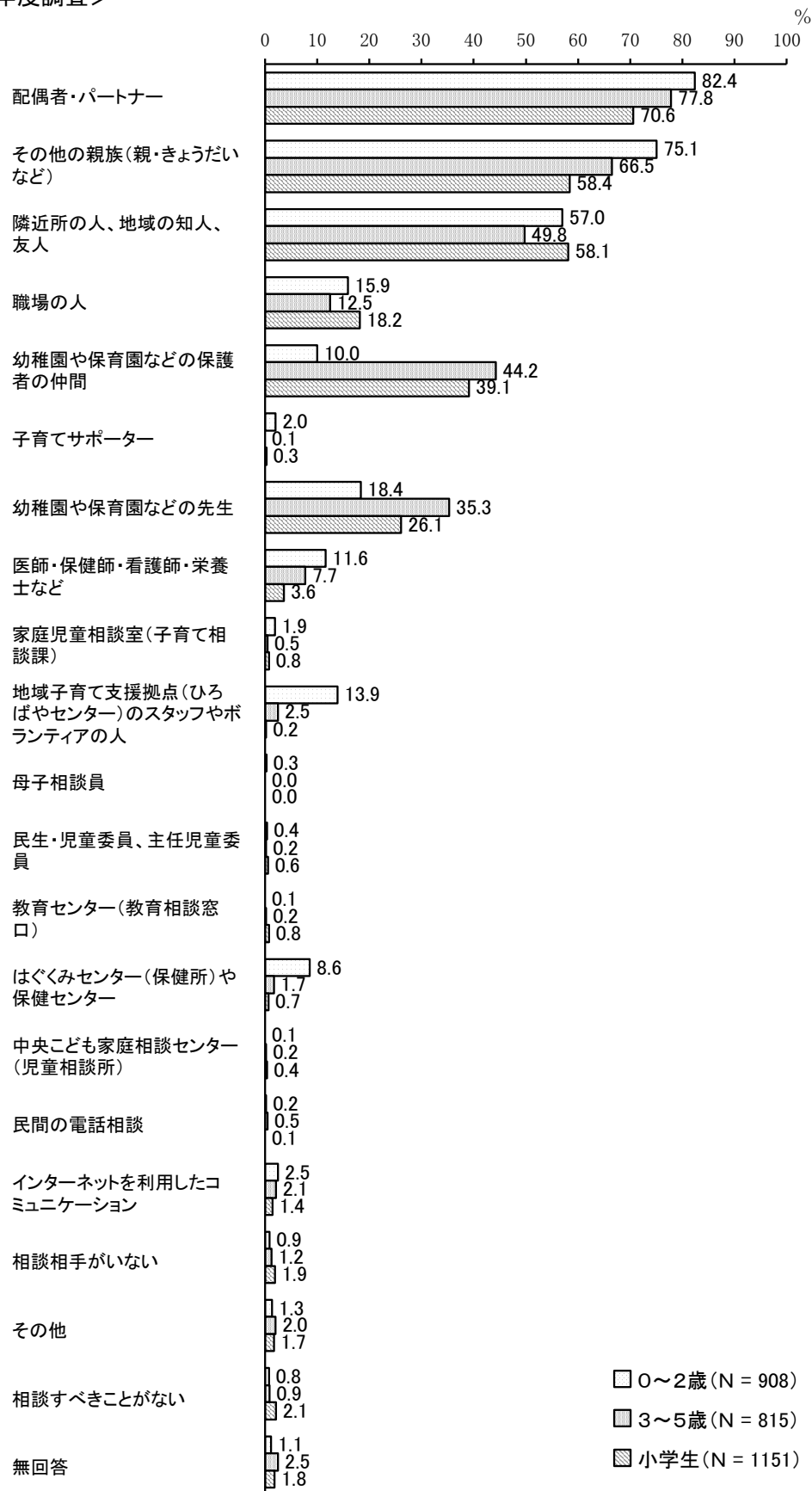


③子育てに関する悩みや不安がある場合の相談相手

【0～2歳：問21、3～5歳：問24、小学生：問23】(MA)

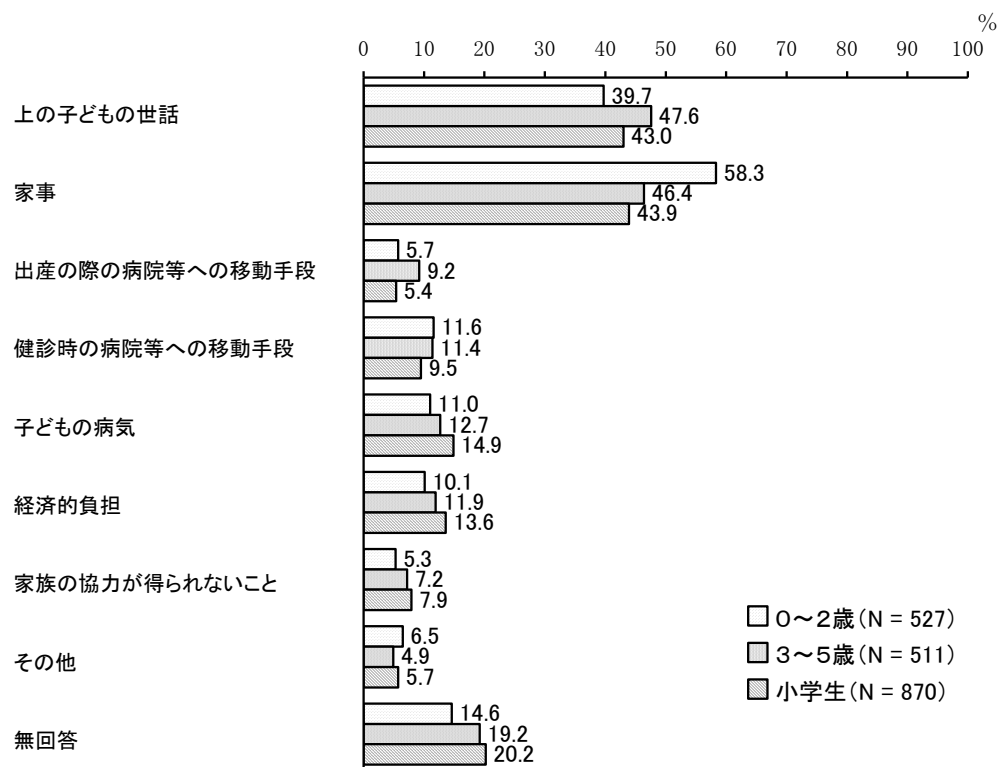


<平成 25 年度調査>



④妊娠中、産後3か月以内に家事・育児に関して困ったこと
【0～2歳：問22、3～5歳：問25、小学生：問24】（MA）

<平成29年度調査>



10. 子どもにやさしいまちについて

奈良市が子どもにやさしいまちかについては、子どもの年齢区分が下がるにつれ「とてもそう思う」と「そう思う」をあわせた“子どもにやさしいまちだと思う”方の割合が高くなっています。また、いずれの年齢区分でも「あまり思わない」と「まったく思わない」をあわせた“子どもにやさしいまちだと思わない”方が、“子どもにやさしいまちだと思う”方を上回っています。

子どもにやさしいまちだと感じる条件については、いずれの年齢区分でも「子どもが安心して過ごすことができる居場所や遊び場がある」と「安心して子育てできる環境がある」が多く、5割以上を占めています。

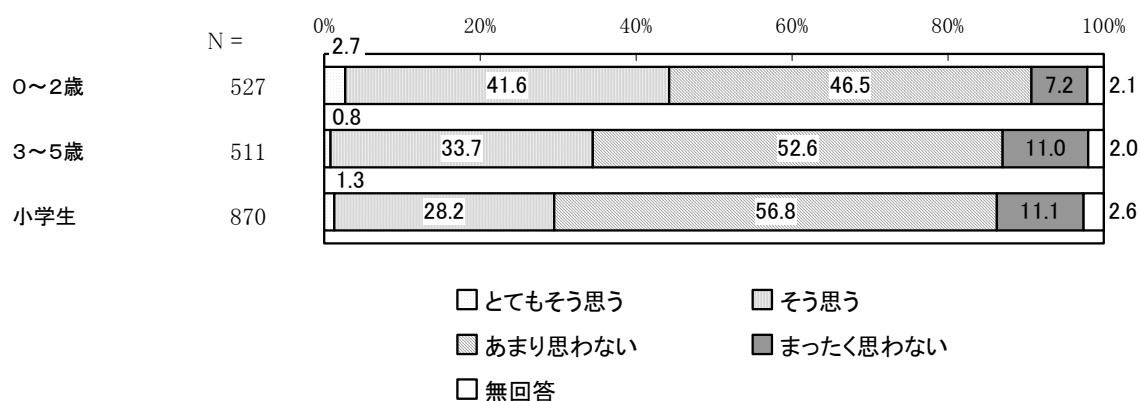
奈良市が子育てしやすいまちだと感じるかについては、年齢区分が低くなるにつれ「とてもそう思う」と「そう思う」をあわせた“子育てしやすいまちだと思う”人が多くなっています。また、いずれの年齢区分でも、「あまり思わない」と「まったく思わない」をあわせた“子育てしやすいまちだと思わない”方が、“子育てしやすいまちだと思う”方を上回っています。

子育てしやすいまちだと感じる条件については、いずれの年齢区分でも「経済的支援が充実している」「教育・保育に関する環境が充実している」「子どもにとって安全な環境がある」が多くなっています。

①奈良市は子どもにやさしいまちか

【0～2歳：問24、3～5歳：問27、小学生：問26】（SA）

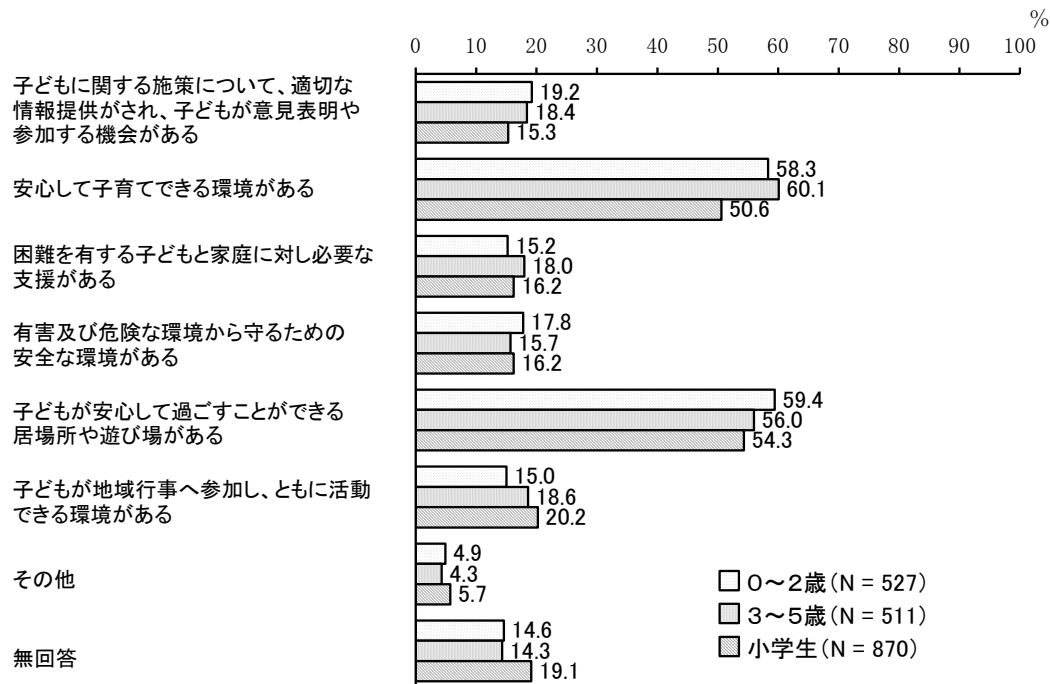
<平成29年度調査>



②子どもにやさしいまちだと感じる条件

【0～2歳：問24-1、3～5歳：問27-1、小学生：問26-1】（SA）

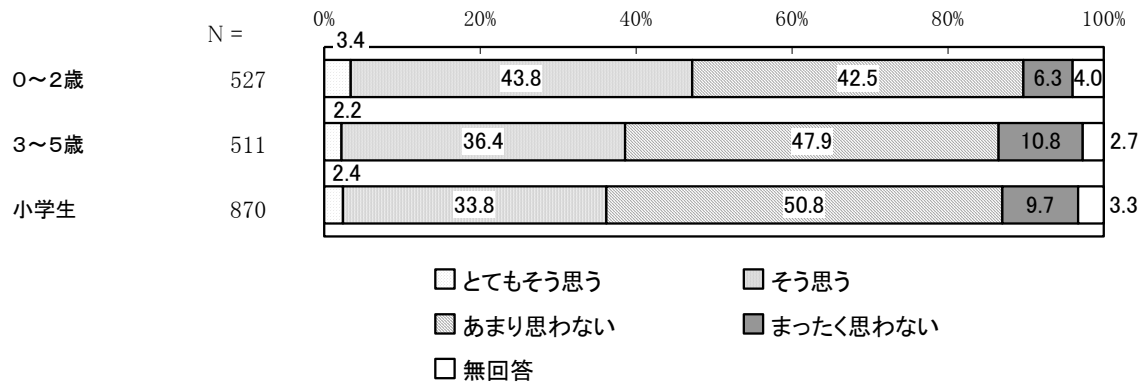
<平成29年度調査>



③子育てしやすいまちだと感じるか

【0～2歳：問25、3～5歳：問28、小学生：問27】（SA）

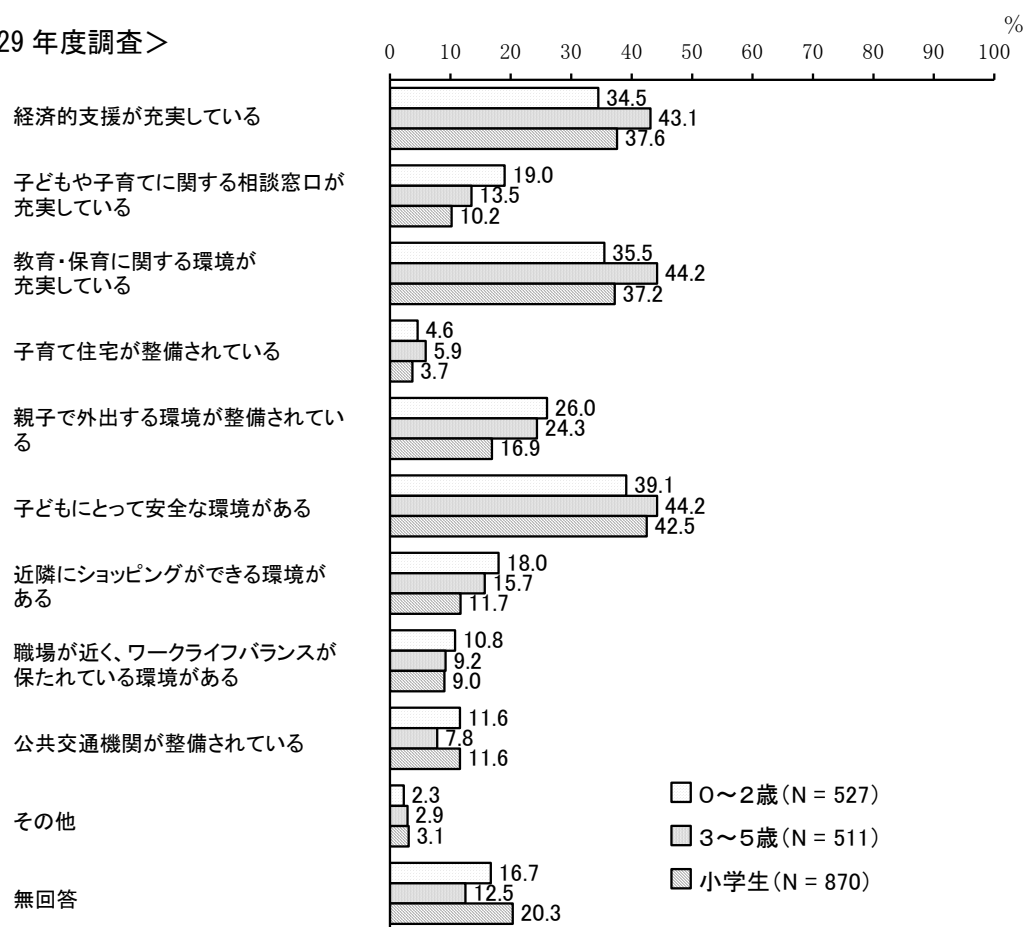
<平成29年度調査>



④子育てしやすいまちだと感じる条件

【0～2歳：問 25-1、3～5歳：問 28-1、小学生：問 27-1】（S A）

<平成 29 年度調査>



奈良市
ヒアリング調査結果報告書
(概要版)

校正中

平成 29 年 10 月

調査の実施について

(1) 調査目的

本市では、平成 27 年度から施行されている「子ども・子育て支援新制度」の一環として、「奈良市子ども・子育て会議」を設置し、奈良市子ども・子育て支援事業計画の策定・運営しています。

この度は書面送付によるアンケート調査だけではなく、子ども・子育て支援の実態や課題等を整理するための基礎資料作成を目的として、子育て支援施策を実施している施設の利用者を対象に、施設の利用状況や本市の子育て施策について、ヒアリング調査を実施しました。

(2) 調査概要

調査日	平成 29 年 8 月 21 日（月）～31 日（木）			
対象者	各施設の利用者			
実施体制	アンケート調査等委託業者と子ども政策課職員及び子育てナビゲーターで行いました。			
対象施設	区域	種別	施設名	調査人数
	中央	地域子育て支援センター	そらいろ	20
	西部北	地域子育て支援センター	P e a c e	20
	西部南	地域子育て支援センター	S a y a	20
	南部	地域子育て支援センター	ゆめの丘 S A H O	21
	東部	つどいの広場	りりーべるず	20
ヒアリング内容	1. あなたとお子さんについて 2. 施設の利用について 3. 子育ての悩みについて 4. 認定こども園について 5. 奈良市の子育て施策について			

(3) 調査結果の表示方法

- ・グラフに表示されている「N値」は有効回答数です。
- ・回答は各質問のN値を基数とした百分率（％）で示してあります。また、小数点以下第2位を四捨五入しているため、内訳の合計が 100.0%にならない場合があります。
- ・複数回答が可能な設問の場合、回答者が全体に対してどのくらいの比率であるかという見方になるため、回答比率の合計が 100.0%を超える場合があります。

○ヒアリング対象施設

施設名	種別	区域	住所	開催日時	
そらいろ	地域子育て支援センター	中央	三条本町 1 3 - 1 (はぐくみセンター 2 階)	月～金	9時～17時
P e a c e	地域子育て支援センター	西部北	秋篠新町 2 7 0 (あかね保育園)	月～土 (水休)	10時～15時半
S a y a	地域子育て支援センター	西部南	学園北一丁目 9 - 1 パラディ学園前Ⅱ 6 階	火～土	10時～16時
ゆめの丘 S A H O	地域子育て支援センター	南部	鹿野園町 8 0 6 奈良佐保短期大学 3 号館	月～金	10時～16時
りりーべるず	つどいの広場	東部	蘭生町 1 9 2 2 - 8 都祁福祉センター	火～土	10時～15時

※ゆめの丘 S A H O は第 2 土曜日午前 10 時～12 時

※祝日・年末年始は休み

※りりーべるずは祝日の翌日（火曜日を除く）も休み

上記子育て広場は、対象が概ね 0～3 歳の児童）とその保護者で、申込不要・無料です。

【地域子育て支援センター】

- 子育て親子が集まって遊べるスペースがあります。
- 専門職による子育て等に関する相談ができます。
- 地域の子育て関連情報を提供します。
- 子育て及び子育て支援に関するいろいろな講座をします。
- 子育てサークルへの援助等をします。
- 地域の公民館等へ出向いての子育て支援講座などを行います。

【つどいの広場】

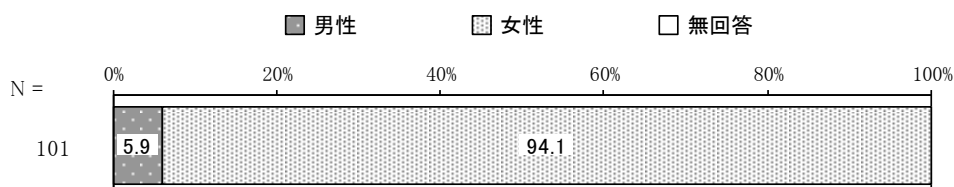
- 子育て親子が集まって遊べるスペースがあります。
- 専門職による子育て等に関する相談ができます。
- 地域の子育て関連情報を提供します。
- 子育て及び子育て支援に関するいろいろな講座をします。

集計結果

1 あなたとお子さんについて

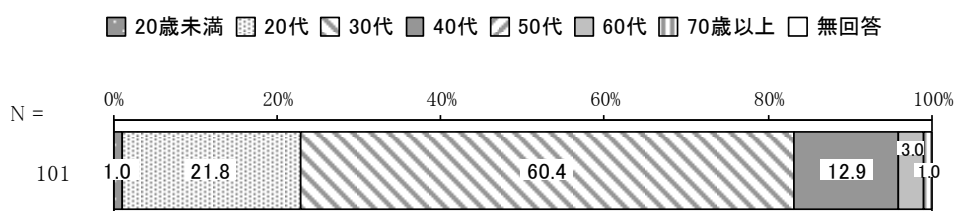
Q1 あなたの性別を教えてください

「男性」の割合が 5.9%、「女性」の割合が 94.1%となっています。



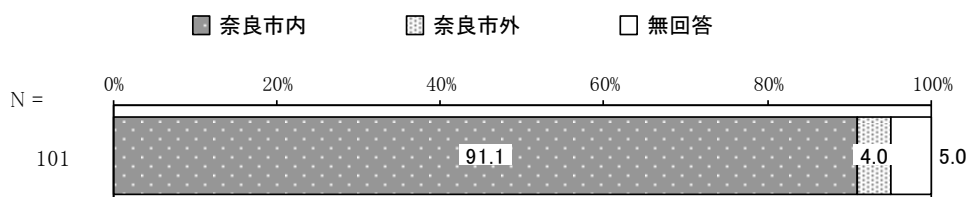
Q2 あなたの年代を教えてください。

「30代」の割合が 60.4%と最も高く、次いで「20代」の割合が 21.8%、「40代」の割合が 12.9%となっています。



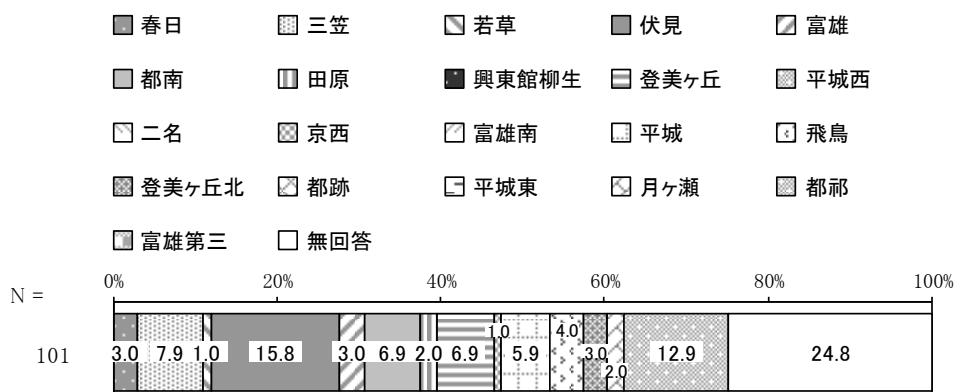
Q3 あなたのお住まいを教えてください。

「奈良市内」の割合が 91.1%、「奈良市外」の割合が 4.0%となっています。



【中学校区】

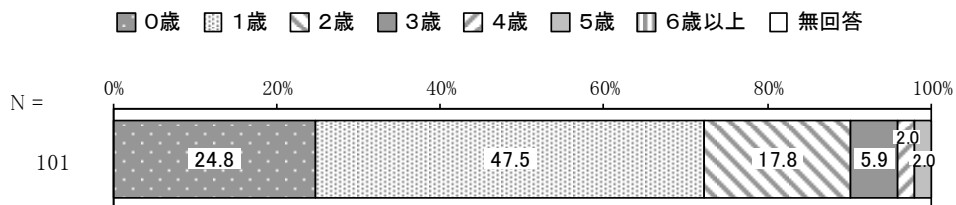
「伏見」の割合が 15.8%と最も高く、次いで「都祁」の割合が 12.9%となっています。



Q4 今日お連れのお子さんについて教えてください

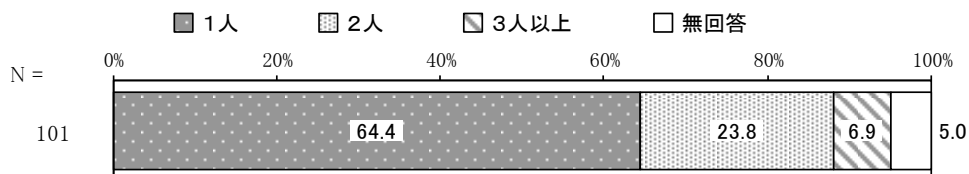
① お子さんの年齢はおいくつですか。

「1歳」の割合が47.5%と最も高く、次いで「0歳」の割合が24.8%、「2歳」の割合が17.8%となっています。



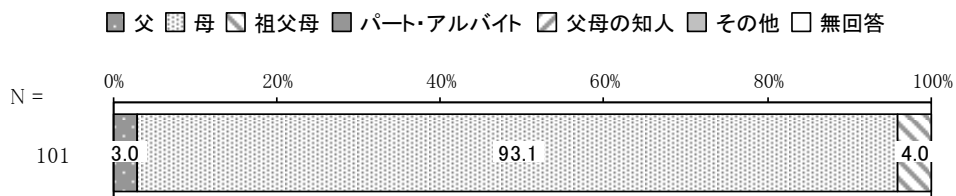
② お子さんは何人きょうだいですか。

「1人」の割合が64.4%と最も高く、次いで「2人」の割合が23.8%となっています。



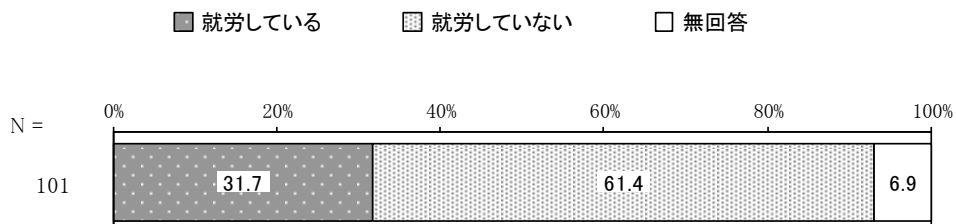
Q5 お連れのお子さんとの関係について

「母」の割合が93.1%と最も高くなっています。



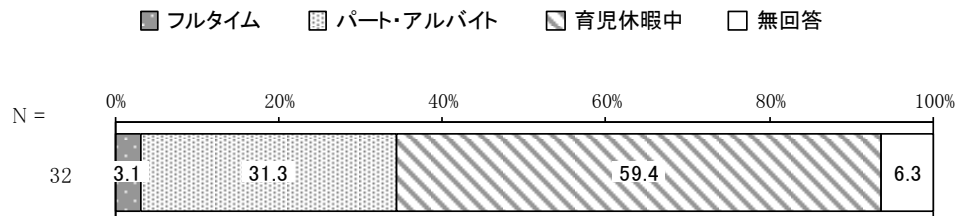
Q6 あなたの就労の有無について

「就労している」の割合が31.7%、「就労していない」の割合が61.4%となっています。



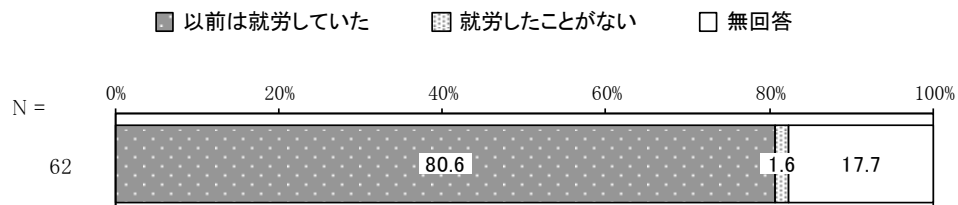
① 就労形態

「育児休暇中」の割合が59.4%と最も高く、次いで「パート・アルバイト」の割合が31.3%となっています。



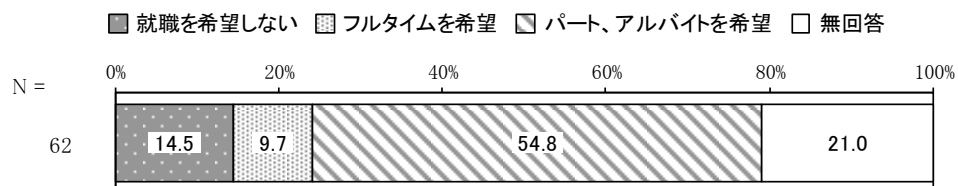
② 就労経験の有無（「就労していない」を回答した方）

「以前は就労していた」の割合が80.6%、「就労したことがない」の割合が1.6%となっています。



③ 今後の就職について

「パート、アルバイトを希望」の割合が54.8%と最も高く、次いで「就職を希望しない」の割合が14.5%となっています。



2 施設（地域子育て支援センター・子育て広場）の利用について

この施設を利用したきっかけについて

【そらいろ】

- ・赤ちゃん訪問の時に教えてもらった。
- ・HPを見て
- ・週2、3回利用
- ・体力の発散のため
- ・友人に教えてもらった
- ・交流（母・子共に）
- ・夏場などに主に利用することが多い
- ・遊べる場所を求めて
- ・インターネットで知りました。他の子ども達と関わりを持たせる為。月に5回ほど、もう少し回数を増やしたい。
- ・仕事をしていない間、家にいるのもひまなので。
- ・産後の自宅訪問の時
- ・友人に教えてもらった
- ・奈良市の助産師訪問でもらった冊子で知り、子供が広い場所で遊べるので週2回程度来ています。
- ・近いから
- ・この建物の別テナントの職員であった為。
- ・はじめてのパパママ教室に来た時に見て、来てみたいと思ったのがきっかけです。息抜きと子供に刺激を与えたくて。
- ・パクパク教室
- ・上の施設を利用している間（妻が健増の講座受講中お父さんがそらいろでみていた）
- ・ゆめの国（大宮の施設）の人におしえてもらった
- ・病院で知り、駅近なので利用してます。週1～2回 10回目くらい
- ・近所の方が来ていたから
- ・ここでパワーを使ってほしい
- ・家だとおもちゃに限られるから
- ・はみがきの講習でホールにきた時に知った
- ・大宮児童館で教えてもらった。
- ・家から近いため。外で遊ぶのは暑いので室内で遊べるのでよく利用させてもらってます。

【Peace】

- ・子供が4ヶ月くらいの頃に、保育士さんが自宅に来られてPeaceのことを教えてもらいました。自宅から近いので週3回は利用しています。職員の皆さんも親切で、いろんな話がしやすいです。子供もとても楽しそうに過ごしています。
- ・HPや友人の紹介
- ・掲示板、インターネット
- ・お友達に誘われて

- ・近所だった。他の施設できき、知った
- ・知り合いからの紹介
- ・週1、2回 子供の遊び
- ・他の子育て広場で教えてもらった。
- ・あかね保育園見学の時に知りました。目的：他の同じような月齢の子（人見知り改善）と慣れさせる為、気分転換
- ・ホームページ
- ・病院でもらった冊子
- ・2ヶ月の赤ちゃん訪問で教えていただきました。
- ・HP
- ・子どもの遊び場の一つとして
- ・月2、3回くらい”
- ・近所で遊ばせやすいため
- ・近くに遊び場がないため。（夏はすずしく冬はあたたかい）
- ・知人に聞いて
- ・週2、3回午前のみ
- ・上の子があかね保育園に行っていたから。
- ・友達に聞いて。家だとずっと遊んでくれないので。週3、4回
- ・インターネットにて知り、子育て相談等のため利用している。
- ・奈良市のホームページや人から聞いて。子供のふれあいの場、他のママとの交流が作れればと思って。月3～4回ほど。
- ・以前同じハイツに住んでいたママ友に連れて来てもらったのがきっかけです。最近は1ヵ月に3回くらい利用しています。
- ・ネットで知りました。夏の季節など公園に連れていけないので利用しています。週1～3程度

【S a y a】

- ・保健師さんにパンフレットをもらった。
- ・近所の人から聞いて
- ・上2人の時に利用していたので。子育ての相談やおもちゃがたくさんあるので、いい刺激になったらと思って。
- ・子供の発達のため
- ・社会性
- ・パラディのフロアガイドを見て。
- ・多かった時は1週間に4～5日、現在は2～3ヶ月に1度程度。
- ・パンフレット
- ・きっかけ→母から聞いた 目的→子どもに楽しい遊びを経験させたかった 頻度→週2～3回
- ・長女の幼稚園が近いから。
- ・5ヵ月児の離乳食教室で。週3程度で利用している。
- ・奈良市子育て相談課の担当者の方にすすめられた。
- ・赤ちゃん訪問で教えて頂きました。

- ・ホームページ
- ・インターネット
- ・月2～3回
- ・ご近所の方に聞いた。
- ・ネットで知って。
- ・引っ越してきたばかりでこの辺のことを知りたかったのだ。
- ・遊ばせたかったのだ。
- ・子育て情報誌で知り、他のお母さん達との交流や子ども同士の交流を目的に、頻繁に来ていたときは週2で来ている。
- ・市民日より
- ・友人からの紹介で（子連れで気軽に集まれるところを探していた）。

【ゆめの丘SAHO】

- ・近くで働いていた。週1～2子どもにしげきをあたえるため。
 - ・月曜日は南福祉センターが休みだから。月1、2回ぐらい。
 - ・子育て支援センターで検索してから。家が近い。週3、4ぐらいで利用しています。
 - ・同年代の子供と触れ合わせるため。
 - ・月曜日のみ利用（他の利用している施設が休みなので）。
 - ・ホームページをみて。
 - ・南福祉センターのイベント（リズム？）が良かったのだ。
 - ・友人達から「利用して楽しかった」という話を聞いて。
 - ・初めての利用。
 - ・友だちに教えてもらった。
 - ・友達の紹介で
 - ・友人の紹介
 - ・友達の紹介
 - ・相談に乗ってもらえるから
 - ・インターネット
 - ・娘にきいて
 - ・ホームページ
 - ・ベビーマッサージのイベントに参加した際に知って、少し遠いのですが来させて頂くようになりました。月に4～5回ほど利用しています。家の中ではもてあます時に来ています。
- ホームページで知りました。
- ・HPを見てゆっくり遊ばせたいので静かなこちらにたまに来てます。
 - ・ホームページで見て。ゆめわくわくリズム等企画されているイベント参加がきっかけ。
 - ・知りあいに子どもを遊ばせるのに良いと聞いたため。
 - ・久しぶりに来た。
 - ・訪問してくれた保健師さん？助産師さん？がおすすめしてくれた。また家から近い。週1～3ぐらいで利用しています。
 - ・三歌代先生のワクワクリズムで。この施設に来てから。

【りりーべるず】

- ・近所だったため
- ・妻が保健センターでお世話になっているところから、利用を始めました。
- ・利用目的、長期休暇中の子供の居場所の一つとして。
- ・友人、実母が同じ福祉センター内で働いていた。
- ・ご近所の方のお誘い。
- ・保健所のおすすめで。
- ・人から話を聞いて教えてもらった。
- ・子どもがのびのび遊べるので週2回ほど利用している。”
- ・お風呂を利用して知りました。
- ・友人とセンターの月毎のチラシ
- ・出産後、保健師さんの赤ちゃん訪問など
- ・4ヵ月検診で知り、妹が利用したいので一緒に来るようになった。週一回、一時あずかり利用。平日週1回程子供と一緒に利用。
- ・近所の人に教えてもらった。息抜き、週2、3ぐらい。
- ・保健センターで教えてもらった。
- ・インターネットで知り、子供を遊ばせたく利用
- ・友人、チラシ
- ・ママ友の紹介 利用頻度…イベント時や休日に（年に数回）
- ・インターネット、チラシで知りました”
- ・知り合いから
- ・友だちから聞いた
- ・知人に聞いて
- ・引っ越すにあたって子ども、私に友人が欲しくて。
- ・友人作りの為。
- ・保健センターでの健診で教えてもらいました。

この施設を利用して感じること

【そらいろ】

- ・同じ年代の友だちと関わったり、おもちゃも充実しているので参考になるので満足している。
- ・オモチャが沢山あり、安全にも配慮していて安心して遊ばせる事が出来満足している。
- ・遊びの工夫がされていて遊ばせやすい。
- ・安全面なども工夫されていると思う。
- ・明るいので利用しやすい。
- ・にぎやかで楽しい。
- ・オモチャの数が多くて、スペースも広く遊び易いと思います。
- ・広場によって雰囲気全然ちがう。
- ・無料で使用できるのがありがたい。
- ・始めて利用させて頂きましたが又利用したい。
- ・サポートの方がいて相談やお手洗い時に子供を見てもらえるところが助かります。
- ・広いし、清潔な印象で、子どもをのびのび遊ばせられます。職員の方も沢山おられるので気軽に話ができ、いやしをもらっています。
- ・先生がよく話をしてくれて、息抜きになります。ここでできたお友達も多くて、母子ともに利用して良かったと思っています。
- ・たくさんお友達がおられるので色々な刺激がもらえて良い。
- ・自由なところが良い。
- ・施設の人がいい人。
- ・広くていごこち良いです
- ・広々としていて、いろいろな遊び道具がある。
- ・大きい子、小さい子が分かれていて安全。
- ・こけても大丈夫な施設（床）がいい。
- ・家の近くの広場は狭い（割におもちゃが多くごちゃごちゃしている）ため、子の施設に来た
- ・広く他の子との関わりがもてる。
- ・先生がやさしい、相談ができる。
- ・おもちゃがたくさんある
- ・ハイハイがたくさんできるように広い場所があるといいなと思いました。
- ・とてもキレイでおもちゃがたくさんあって良いです。職員さんも話しやすく、接しやすいです。

【P e a c e】

- ・自宅から近いので利用しやすく、職員の皆さんも親切なので、親子でとても気に入っています。幼稚園の入園までまだしばらくあるので、まだまだ利用するつもりです。
- ・スタッフの方も相談にものってください、近くなので行きやすい。実家が近くではないので、病院や不定時の仕事の時に一時保育してもらえるので助かるが、最大3時間しか預けられないので、もうすこし長く預けられるようにしてほしい。西大寺は認可保育園の一時保育は満員なので。
- ・4月に県外から引っ越して来ました。誰も知人がいなく不安でしたがP e a c eに来てたくさん友人が出来、今では週に1回P e a c eのお友達がうちに遊びに来てくれます。一生の友達が出来たの

はPeaceのおかげです。Peaceの先生たちも色々なことを教えて下さって心強いです。本当にPeaceがあつてよかったです。

- ・広くてよく遊べてよい。
- ・他のお母さん方や先生方との距離が近く、何でも相談できる。
- ・月1、2回開催されるイベントが良い。
- ・イベントを増やしてほしい。先生が親切。
- ・他のお母さんやスタッフの方と交流できるのでよい。子ども同士のかかわりができるのもよい。
- ・スタッフの方に子育ての事を色々聞けるので助かっています。もう少し遅くまでやっているといいなと思います。
- ・同じ位の子供と接する機会がなかなかないので、ここで色々経験できてる。
- ・先生も含め、母親同士話しができて情報交換にもなる。
- ・友達ができた（母子共に）
- ・本当にありがたいと思っています。顔見知りもできて子どものためだけではなく、私自身話し相手もできてとても助かっています。夏は特に外で遊べないので…。
- ・ゆったり遊べて雰囲気もいいので好きです。昼食を食べる時間があるのが助かります。
- ・親しみやすいよう先生方がとても工夫されている。
- ・保育士の方々もしたしみやすく、何でも相談しやすいので助かっている。
- ・きれいでおもちゃも多くスタッフの方も親切。
- ・近いから
- ・保育士さんが見てくれることもあるので、少し気が楽になります。
- ・家から近く通いやすい。
- ・他のお子様と交流できる。子供についての悩みや心配事 etc 色々相談にのっていただけるのでとても助っています。
- ・お昼ごはんを皆で一緒に食べられるところがいいなと思います。
- ・保育の先生たちがとてもお話ししやすい雰囲気がある。

【S a y a】

- ・子供をのびのび遊ばせられる。買い物のついでに子供を休ませられる。
- ・満足です。ただ、おもちゃをなめるので消毒するティッシュを置いていただけたらうれしいです。
- ・とても満足している。
- ・同年代の子と一緒にあそべる。先生方に育児相談できる。上の子が小さいうちは毎日とてもお世話になってました。
- ・駅前で利用しやすい。
- ・とても満足しています。おもちゃもたくさんあつて嬉しい。保育士さんから色々教えていただけて嬉しい。
- ・利用者に対して広さが足りていないと感じる。
- ・大きい子が多いと危ないこともあるので、もう少し広い方がいいと思う。
- ・保育士さんが子供の成長をいっしょに喜んでくれたり、さ細な事でも相談にのってくれて心の支えになっている。

・いつもよくしてもらいとても助かっています。子供2人連れで片方みてもらえたり、よく遊んで頂き感謝一杯です。

- ・育児中の困ったことから遊び場情報まで教えてもらえてありがたい
- ・アットホームな雰囲気が良いと思う。
- ・買い物をして帰るので便利。おもちゃや本もたくさんあるので遊びやすい。
- ・色々なお友達とコミュニケーションをとれたり、沢山のおもちゃでも遊べて子供も喜んでいます。
- ・少しせまい。
- ・ボールプールが楽しい。
- ・スタッフの方がやさしい。
- ・同じ先生がいてくださるので、成長の様子を喜び合っていたり、子育てやこれからの幼稚園のことなど相談しやすい。
- ・和やかでいいと思いました
- ・広い所で自由に遊ばせてあげられて良い。同じくらいの月齢のママさんたちと話ができる。

【ゆめの丘SAHO】

- ・先生達も話をよく聞いてくれ、悩みも聞いてもらえるので助かります。おもちゃもたくさんあり、子どももよく遊ぶので満足しています。
- ・あまり大きなお子さんがいなくて良い
- ・先生方が優しく接してくれて、2人いるので下の子をみてくれてる間に上の子と遊んであげたりできるので助かっています。
- ・靴をぬぐ所との境界が子供に分かりにくいので、はだしのまま土足の所に出て行ってしまうのが気になるので改善できるなら改善してもらいたい。
- ・明るくてとてもよい感じです。
- ・整とんされていてきれい。落ちついてあそべる。
- ・先生方が子供をずっと見てくださって安心できます。
- ・スタッフの方がよく遊んでくれたり話を聞いてもらえる。ランチができるのも助かります。
- ・親も子もリフレッシュする場所。
- ・人が少なくてゆったり遊べるところ。
- ・子育ての相談に乗ってもらえる。
- ・良いと思います。
- ・スタッフの方も親切で安心して遊ばせることができる。
- ・とても満足していて、スタッフの方々は皆さん雰囲気がよく、相談もしやすいです。いつも整理されていて過ごしやすい環境なのもとても嬉しいです、外遊びも可能なのが嬉しいです。
- ・いつもキレイで利用しやすいので来ています。子どもの名前もすぐ覚えていただいたのでとても嬉しかったです。
- ・朝9：00～空いてたり土曜も利用できたらうれしいです。学食も利用できて助かります。
- ・外にも遊具があり、子供達は大変満足している様子。先生方のアドバイスもとても助かっています。
- ・アットホームな雰囲気が気に入っています

- ・お昼ごはんは学食レストランを利用できる場所がありがたい。広さもちょうど良く（狭すぎず、広すぎず）、おもちゃもたくさんあって子どもが飽きずに遊び続けられる。スタッフの方々が子どもをよく見てくれるので、息抜きにもなる。
- ・すこし心が安らぐ場所なので、とても好きです。子どもも、広くておもちゃもたくさんあるので好きです。

【りりーべるず】

- ・子供も大人もリフレッシュできる場所で大変満足している。
- ・スタッフの先生が子どもを親身に見て下さる。
- ・施設が広く、ゆとりがある。
- ・週3，4くらい利用させてもらうくらいありがたい施設です。子どもも一人なのでお友達が出来たりスタッフ、ママ友の交流が沢山出来て私自身も居心地よい空間になってます。
- ・自宅で(母親一人)の子育てだと、時間を持て余したり、いきづまったりすることも多いので、とてもありがたい場所である。
- ・子育ての悩みも気さくに相談出来て、スタッフさんにも感謝している。
- ・広くておもちゃもたくさん種類があり大変ありがたい。
- ・ゆっくり遊べて安心安全だと思います。
- ・家からも近く、利用者同士のつながりが深いように思う。
- ・老人の方の利用が多いので地域の方とのコミュニケーションも取れると思う。
- ・トイレ等外の遊具を新しくして頂けたらと思う。
- ・とてもよいです。
- ・家で1人でいるより気がまぎれるし、子供もみんなの目で見れるので、気をはらなくてすむ。
- ・相談しやすい。子供が喜ぶから。
- ・気がるに育児の事など相談できてたすかっています。
- ・地元の友達が増え、又、スタッフにも育児の相談ができ、とても助かった。
- ・近くにあるので利用しやすく良いです。地域に密着しているので、とても親近感があってすごしやすいです。
- ・子育ての悩みを聞いてもらったり、ママ達との情報交換が出来る良い場所だと思う。
- ・子育て広場の部屋が広々していて、安全なので安心して利用できる。
- ・トイレを子供も使いやすいように改善して欲しい。
- ・満足しています。
- ・とても感謝しています。ストレス発散になっています。
- ・子供同士の交流ができて良いです。
- ・スタッフさんが協力してくれるのでストレス発散で体が楽になります。
- ・楽しい場所です。
- ・身近に相談に乗ってくれる人がいる事はとても心強いです。火曜日から土曜日までほぼ毎日あけてくれているので本当にありがたいです。

子育て（妊娠中を含む）の悩みや気になることについて

【そらいろ】

- ・食育のこと
- ・離乳食の事等
- ・食事量や体重の増え等
- ・子供の遊ばせ方・しつけの方法・叱り方など迷ってしまう時がある（本やweb情報）子供の食事について（好き嫌が多い、遊び食べなど）→これだけは栄養として食べておいた方が良いなどあるのか
- ・頼れる人が近所にいないので、2人目を育てられるか悩む。
- ・食事の好き嫌いがあるので、色々な物をたくさん食べられるようになって欲しい。
- ・2人目出産後の上の子のケア。
- ・保育園に入れるか。
- ・保育園に入れるかどうか。
- ・特になし。
- ・希望の保育園に入れるかどうか。
- ・こどもが内気なため、お友達と一緒に遊べるか心配。食事が好きではなく、食べるものが少ないので栄養面で困っています。汚れることが大キライで、砂あそびや遊具で遊べずに外で遊べない。
- ・奈良に来てまだ浅いので、幼稚園や習い事等の情報を集めるのが心配。
- ・特になし
- ・元気すぎるところ。
- ・少し小柄なこと。
- ・2人育児はどうなっていくのか不安と楽しみどっちもある。
- ・赤ちゃん返りしないか心配。
- ・特になし
- ・2人目の子育て、お金の心配。
- ・現在2人目妊娠中で、上の子との接し方が悩みます。

【Peace】

- ・今のところ特になし
- ・イヤイヤ期
- ・仕事と育児の両立です。近くに親がいないので病気になった時が…。
- ・その都度いろんな方と話せるので特にないです。
- ・保育所に入れるか
- ・保育園に入れるかどうか
- ・食物アレルギー（乳と卵）があるのでその治療について。
- ・夜間の授乳が1才になっても多いこと。
- ・幼稚園の選び方
- ・2才～3才の間の遊び場
- ・教育費のこと

- ・再就職について
- ・特になし
- ・保育士さんもおられるので、すぐ相談できるので悩むことが少ない。
- ・イヤイヤ期が始まり少し心配。また２人目が生まれるので対応が心配。
- ・平日は母と子２人きりなので少し大変です。
- ・お金の事。３人目の年がはなれていて保育料の減額がなくて大変。
- ・遊びにつれて行くところに悩みます。
- ・奈良市に知り合いがおらず、保育園等の情報収集が困難。
- ・言葉が少し遅い。
- ・自分自身のストレスが溜まらないように気をつけないといけないという悩み。
- ・ないです。

【S a y a】

- ・悩む事はあっても親や友人や保健師さんにきいてすぐアドバイスをもらえるので、悩んだままにしない。
- ・離乳食のこと
- ・上の子と１０歳と９歳離れてて、今と子育てがかかわっていないか気がかり。
- ・特になし　しいて言えば学費とか？
- ・両親が（親せき等も）近くにいない（関東、中国地方）ため、家族が体調悪い時頼れる人がいないこと。
- ・保育園の待機状況の情報が欲しい。
- ・１歳以降、歩くこと、話すことなど遅いと気になる。
- ・特になし
- ・偏食　わがまま
- ・上の子が下の子にちょっかいだしておこるのがつかれる。
- ・上の子と下の子との接し方の違いで悩んでいます。
- ・子どもの年齢がはなれていると働くタイミングがむずかしい
- ・特になし
- ・言葉が遅いように思う
- ・姉とのケンカが多い
- ・姉への対応
- ・こどもの発達（ことばが遅い）
- ・遊ぶ環境が限られてしまうこと
- ・特になし

【ゆめの丘SAHO】

- ・家がいなかでまわりに子どもがいないので、近くに遊べる友達がいない。
- ・レトルトのごはんを食べない。
- ・食事、食べてたのに食べなくなったから。
- ・特になし。

- ・子供との過ごし方がわからない（夏など外出しにくい時など）。
- ・現在妊娠しているので仕事の始めドキがわからない。
- ・とくにありません。
- ・特にないです。
- ・身長が少し小さめなこと
- ・なし
- ・食事
- ・子供の発達
- ・自分の子どもへの接し方が分からないというか、もっといい接し方があるのではないかと思う。
- ・特にありません
- ・特にありません
- ・日中1人で育児してるので、ずっと2人きりで子どもがつまらなくしてないか心配になります。
- ・食育の進め方（保育士に相談しているが…）
- ・1人目のつわりがひどかったのも、もし2人目を授かった時につわりがあったら、1人目の面倒を見れるか心配 有料でも家事支援があれば…
- ・離乳食の進め方
- ・保育園に入れるのかどうか”
- ・すべて

【りりーべるず】

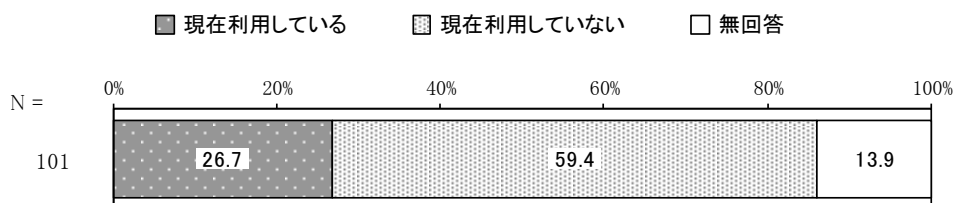
- ・娘の心身の発達
- ・入園をどこにするか
- ・子どもの発達、経済的な部分
- ・田舎なので家の周りに人がいないので、子供が小学校など通学するとき不安。
- ・公園がない。
- ・事故など安全面でいつも気を使っています。
- ・日中（園に行っていない間など）は母親と二人になるのでちょっと困ったとき等近くに親がいてくれたらな・・・と思う事がある。
- ・健診等何かするとならば奈良市中心まで出向いて行かなければならないのが大変。
- ・一時預りがなくて大変困りました。（通院など）
- ・特になし
- ・怒り方、上の子のやきもち。
- ・子どもの発育
- ・子供の病気
- ・小学校へ向けての心配（通学バス等）
- ・なし
- ・特になし
- ・働きたいがなかなか近くで仕事が見つけられない
- ・病院が遠いので大変
- ・2人いるので上の子の遊び場、友達とのふれあいができる場があると嬉しい。

- ・発達心配
- ・子どもの発達のおくれが気になった。夫の仕事が忙しく、子育てをあまりしてくれなかった。
- ・次男の癇癪
- ・子供の友達関係
- ・今後仲の良い特定の友達出来るのか心配です。

4 保育所・幼稚園・認定こども園の利用について

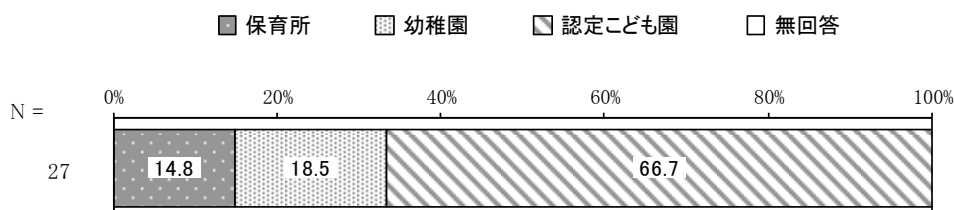
保育所・幼稚園・こども園を現在利用されていますか。

「現在利用している」の割合が26.7%、「現在利用していない」の割合が59.4%となっています。



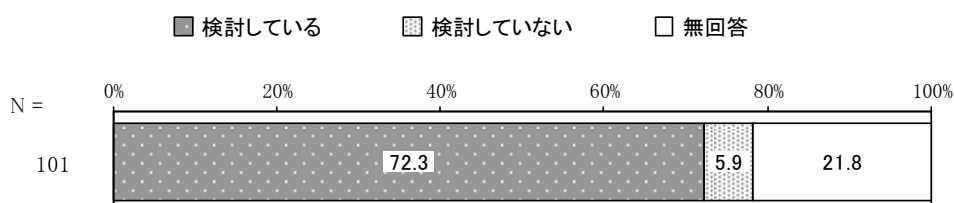
① 利用している教育・保育施設

「認定こども園」の割合が66.7%と最も高く、次いで「幼稚園」の割合が18.5%、「保育所」の割合が14.8%となっています。



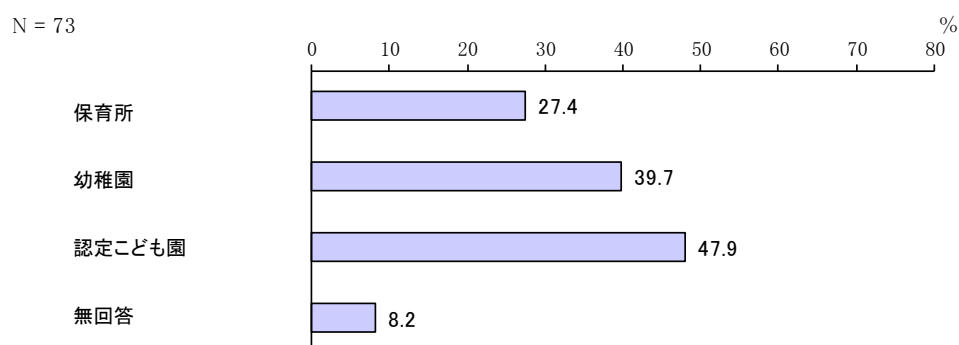
② 今後の利用について

「検討している」の割合が72.3%、「検討していない」の割合が5.9%となっています。



③ 検討している教育・保育施設

「認定こども園」の割合が47.9%と最も高く、次いで「幼稚園」の割合が39.7%、「保育所」の割合が27.4%となっています。



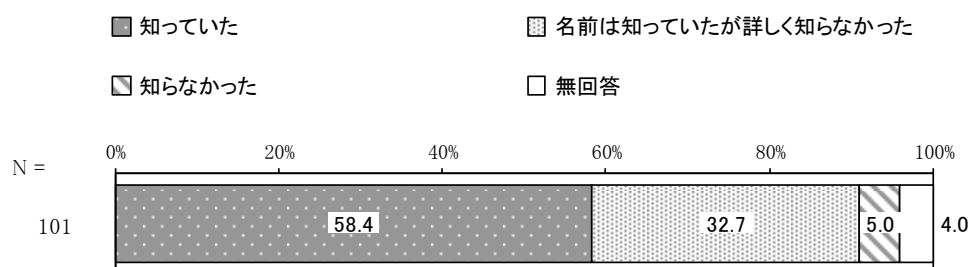
検討している理由

主な意見

- ・子供とずっと2人であるのがしんどい時がある為検討している。
- ・色んな子と遊ばせたい為検討している。
- ・仕事をしたい為検討している。
- ・家から近い為検討している。
- ・団体生活をさせたい為検討している。
- ・3年保育希望。

認定こども園をご存知でしたか。

「知っていた」の割合が58.4%と最も高く、次いで「名前は知っていたが詳しく知らなかった」の割合が32.7%となっています。



認定こども園について、どんなイメージをお持ちですか。

○認定こども園を知っていた方のイメージ

【そらいろ】

- ・幼稚園の子の方が多そうなので。保育園の子が少なそう。
- ・自宅の近くにあったらこども園に通いたいと思っている。
- ・保育所よりも色んな子とふれあう事で成長に良さそう。
- ・様々な家庭環境の子どもが集うというイメージ
- ・幼稚園と保育所のいいとこ取り。
- ・保育園と幼稚園の一体なので保育と教育が充実している。
- ・保育園＋幼稚園のイメージ。詳しくは分からない（こども園の広場を利用している→年齢層がはば広い）

- ・特にイメージはないが、とても便利だと思う。夏休みなども利用できるという点が良いと思った。
- ・謎
- ・入りづらい（今働いていないので）
- ・特になし
- ・あまり分らない

【P e a c e】

- ・あまりよく分らないです
- ・途中で働いても転園しなくていいのでいいと思う。
- ・まだよくわかりません。幼稚園のようなもの？
- ・何となく仕組みはわかっているが、実際にどんな風に保育が行われているかわからないので興味がある。
- ・幼稚園と保育園のいいところをとった感じ？
- ・働いたり退職したりがしやすい
- ・保育園がすごく良かったので幼稚園型の方に入った場合、ちゃんときめこまやかにみてもらえるのか心配。
- ・教育もあり、預り面でも安心できる。
- ・保育園よりしっかりしていないイメージ
- ・何をやっているのか知らないのでよくわかりません

【S a y a】

- ・完全給食がありがたい。
- ・イメージがあまりつかめないので、市として「こども園がどんなところか？こども園のとりくみ」などを広報してほしい。
- ・幼保一帯のイメージ
- ・3年保育とても助かる
- ・特になし。実際に保育園からこども園に変わっても、何も変わりはないので。
- ・保育園と幼稚園の良いところを合わせた所
- ・園によって特色が違ってくると思う
- ・保育所へプラスのことが増えた
- ・預ける時間や環境が選べて保護者にはありがたいと思う。幼稚園として保育所として使用するそれぞれの立場での保育内容が気になる。
- ・幼稚園と保育園の一緒になった所
- ・あまりよくないイメージ。
- ・保育園との差があまり分らなかった。
- ・働いているママの子どもが入園しているイメージ。
- ・保育園よりなイメージ

【ゆめの丘SAHO】

- ・上の子が現在通っている園は園庭開放がないのでかわいそう

- ・ 3 年保育
- ・ 幼稚園と保育所別々と一緒にのメリットがまだよくわからない
- ・ よくわからない…保育園児と幼稚園児が一緒に過ごすこと
- ・ もうすこし数が増えたらいいなと思います
- ・ 保育園と幼稚園が一緒になったイメージ
- ・ 保育園より学習面が多いイメージ
- ・ 親にとっては便利だと思う
- ・ 良いですね
- ・ 園の先生方が大変そうだなと思っていました。
- ・ どんな良い所があるのかイマイチ分からない。
- ・ 子供達にとって帰宅時間が違う等、多少デメリットがあるのではないかな、という印象
- ・ 長時間預かってもらえるイメージがあります
- ・ 幼稚園利用の保護者と、保育園利用の保護者がトラブるのではないか。
- ・ 給食が出るし、14 時まで見てもらえるのでよいなと思います。
- ・ よく分からない
- ・ 子どもの数がへっているので幼稚園と保育所が一緒になったのかなと思っていた。
- ・ 言葉としては分かるが、あまりどんな所か分からない
- ・ ない

【りりーべるず】

- ・ 幼保双方の利点を生かしていると感じます
- ・ 未就園児向けのクラスに週一行ってますが、友だち、ママ友との交わりもあり、先生とのお話もできありがたいです。
- ・ 保育園と同じようなイメージ
- ・ よい。
- ・ 仕事してるしてないにかかわらず、いろんな状況でも預けられるイメージで良いと思う。ふところが深い感じ。
- ・ 幼稚園と保育所一緒だからいい。
- ・ 給食が助かります
- ・ 働く保護者にはとても良いと思う。先生方との連絡等もよくできる。
- ・ メリットがたくさんあって良いと思います。
- ・ 私は働いていないので、こども園があって助かりました。
- ・ 親が急に働くことになっても、同じ園で預かってもらえるのでありがたいです。
- ・ 短時間も長時間も一緒にのクラスで見てもらえるので働くことを考えた時に便利
- ・ 週 1 回の子育て支援の広場を開催して頂いているので子どもも楽しんで行かせてもらい、そのまま入園できるなら子どもも慣れていて良い流れになると思う。
- ・ 保育園のようなイメージ
- ・ 近くには認定こども園しかなかった。

5 奈良市の子育て支援事業について

奈良市の子育て分野に関する取組において、他の自治体より良いと思うところはどのような取組だと感じていますか。理由もあわせて教えてください。

【そらいろ】

- ・待機児童について
- ・支援センター等で色んなイベントが行われている所
- ・待機児童が他の都道府県より少ないところ。子育てセンターなどが充実しているところ
- ・特になし
- ・支援センターの充実
- ・他を知らないですが、こういう遊べる場や気軽に計測して頂けるのが良いと思う
- ・保健センターの職員の方の対応が良く、困った時に相談しやすい
- ・子育て支援施設が充実している。福祉センターも含めると月～土までどこでも遊べることがすごくありがたいと思います
- ・あまりない
- ・わからない
- ・3月末に新潟から引越してきたばかりでまだよく分からない
- ・雨や雪が少なく気候が良いのがいいと思う
- ・月1回、健康増進課で体重チェックしているのですが、親身になっていただき感謝してます
- ・はぐくみ他広場の数の多さ
- ・他の所を知らない
- ・奈良市に住んでまだ短いので分からないです

【P e a c e】

- ・他の地域のことは分かりませんが子育て支援センターが充実している
- ・保育園に入りやすいと思います（他の県と比較して）。近くにピースのようなところが多くて、1人で育てている母親にとっては助かります。
- ・支援センターの数が他よりも多い方と聞いた事がある。自転車、徒歩圏内であるのはありがたい。
- ・他と比べたことがないのでよくわかりませんが…子育て広場の数が小さめだけれど多い。
- ・思いつかない
- ・他の地域が分からない。（※他地域居住の経験がないため）
- ・ほかの自治体の状況をあまり知らない。
- ・スポットの一時預かり
- ・P e a c eのような施設がある点は良いと思う。
- ・「きしゃぼっぽ教室」に今年5月参加。同じような悩みを持った方と悩みが共有でき、色々子育てのコツについても専門の方から教えていただいた。子供もすごく楽しそうに参加していました。
- ・今まで入院を2回したのですが、病院側の対応がすごく良かったです。先生も優しく（市立奈良病院）退院後のことも色々お話しして下さりました。
- ・子育てパスポートみたいなものがあって、色々なお店で割引きを受けられるのでとても良いなと思い

ます。

【S a y a】

- ・あやめ池に住んでるが、そこからは行きやすい支援センターが3つもあるのが嬉しい。はぐくみセンターでされた40代のママ育サロンは有り難かった。
- ・他との違いがまだ分かりません。
- ・無料で利用でき、子育ての相談を何でもできるところ。
- ・ひとり親医療費の制度とか。とても助かっている。
- ・他の自治体の取組に詳しくないのでよくわかりません。支援センター等が多いと思うので日々気分をかえて利用しやすいと思う。
- ・支援センターが使用しやすい。
- ・子育て広場がたくさんあってうらやましい…と青森県むつ市に住んでいる友人に言われた。
- ・相談窓口が親切でした。
- ・他市町村に比べて支援センターは充実している方だと思う。
- ・ほかの自治体の事を知らないのわからない
- ・子育てスポットがいっぱいある
- ・無料の遊び場が沢山ある
- ・特になし
- ・ほかの自治体のこと知らないです。
- ・子育て支援センターがたくさんある。
- ・HPが充実している。
- ・支援センターが多い。
- ・特になし
- ・他の地域を知らないが、支援センターなどは数が多く、色々な所を利用しやすい。

【ゆめの丘SAHO】

- ・医療費や補助が出るところ。
- ・遊び場が他よりは多いと思います。
(こども医療などについては知っているが、特別他の自治体より良いとは思っていない)
- ・いろんな場所でいろいろなイベントをしていただいているのがとても良い感じだと思います。
- ・子育て支援センターなどが充実している。
- ・子育て支援センターが充実している。
- ・奈良市に住んでいないので分かりません。
- ・まだわかりません
- ・妊娠、検診のチケットがある
- ・そらいろで一時預かりがあるところ
- ・上のお子様(5歳)の言葉等の発達面で気になり、いろいろと相談したが「専門ではない」と、どこも真剣にとり合ってもらえなかったのが良いと思うところはないと言われていました。
- ・良いですむ 公立が多いところ
- ・特になし

- ・支援センターをよく活用させて頂いています。
- ・冊子も役に立っています。
- ・LINE登録しています。
- ・教室とか沢山あって分かりやすい。
- ・幼稚園の送迎バスを増やしてほしいです。
- ・児童館が多い
- ・(取組みとは違うと思いますが…) 奈良の保育士さんは親切・丁寧に相談に乗ってもらえてありがたいです。あと、子育てルームが近くに何ヶ所もあるので利用しやすいです。
- ・他の自治体を知らないのわかりません。
- ・あまりよく知らないの、わかりません。

【りりーべるず】

- ・他自治体については分かりませんが、都祁地区においてはこども園、リリーベルズ、保健センター等子育てへのサポートがしっかりしていると感じます。
- ・どんな取り組みがあるのか自体知らない。
- ・支援センターやこども園でお母さん同士の情報交換などでしか知らない。
- ・具体的な取り組みが良く解からない。
- ・天理市の一時預かり利用料が安いのが良いと思うので奈良市も同じような利用料にならないのでしょうか？
- ・なら子育て応援団をよく利用します。ありがたいです。
- ・イクメン手帳。りりーべるずの様なパッと来られる所がある。
- ・バンビホーム
- ・相談できる所がある所
- ・保育料が2人目以降安くなるのは助かる。
- ・子育て支援充実しているように思います。
- ・都祁での子育ては自然がいっぱいでびのびと過ごせている。
- ・月ヶ瀬からの参加で、つげでこのような場所やイベントがあるとうれしい。
- ・りりーべるずのような支援センターがあちこちにあるところ。
- ・親の交流もできて良いです。
- ・イベント行事はうれしい。一時預かりをしてくれる所もいい。
- ・「りりーべるず」は無料でいろいろなイベントもしてくださるので感謝しています。

また、もっと充実してほしいところはどのような取組だと感じますか。理由もあわせて教えてください。

【そらいろ】

- ・特になし
- ・外で遊び施設が少ないので、外で遊べる季節などは少し困る。もっと外遊びを沢山させてあげたい。家の庭で遊んだり、近所の散歩などになってしまいがち。
- ・外遊びのできる場所が増えてほしい
- ・保育所や幼稚園の情報を得易くして欲しい。
- ・産後ケア
- ・駐車場のある遊べる場所がもっと欲しい
- ・保育園の入園にあたってのサポート、市役所の方の話がわかりにくい。
- ・保育園になかなか入れなかったのもっと入れるようにしてほしい。
- ・預かり保育
- ・天理市の駅前開発のように、大きな遊び場が欲しい。いつも同じ場所になってしまって、子供を連れていく所がない。
- ・わからない
- ・月齢の低い子向けのイベントなどあれば参加したいです。6ヶ月頃まではひきこもっていたので…
- ・特になし
- ・一時預かり、ショートステイを増やしてほしい

【P e a c e】

- ・子育て家庭へのクーポンの配布。(京都市にはあります)
- ・立体駐車場をもっと増やしてほしい。
- ・エレベーターを増やしてほしい。公共施設
- ・病児保育してくれる施設を増やしてほしい。
- ・屋内で子供が遊べる場所をもっとふやしてほしいです。
- ・病児保育園をもっと増やして、仕事と両立し易いようにして欲しいです。また、遅くまで空いている保育園。
- ・西大寺駅の通り抜けを無料でさせてほしい(150円は返ってくるが、中で買い物するのがわずらわしい)
- ・奈良ファミリー内に子どもの遊び場を作してほしい。
- ・踏み切をベビーカーで渡らないでおうとすると駅の改札を抜けるのが好ましい
- ・西松屋みたいな子ども用品店を奈良ファに誘致して欲しい
- ・図書館が古くて駐車場なども不便。子ども向けの新しい本などもっとたくさんあるとうれしい。
- ・思いつかない
- ・医療費を初めから支払わないようにしてほしい。(後で返ってくるが手間だと思う)
- ・年の離れた3人目も保育料を助けてもらえなかったら生活できません。
- ・公園をもっと作ってほしい。生駒とか大阪にわざわざ行かないといけない…。
- ・いつも遊んでいるところなので、子供も泣かず、1人に対して保育士さん1人がついてくるので安心

です。

- ・医療費負担の軽減（地元はこども医療費無料のため）
- ・待機児童の解消
- ・公立幼稚園の3年保育
- ・「きしゃぼっぽ教室」がとても良かったので、その後のフォロー、流れももっと充実してると嬉しいです
- ・子供が楽しめるイベントをたくさんしてほしいです。
- ・特になし

【S a y a】

- ・母親ばかりで父親が参加しづらそう。パパ達が参加しやすい環境があればと思う。
 - ・今のところないです。
 - ・今のところは不満とかはない。仕事を始めて保育園等を利用する様になったら、何か思うこともあるかもしれません。
 - ・子育てのイベントをもっとしてもらえると嬉しいです。
 - ・子育て広場と医療相談の連携。産後うつや子育てうつの予防。子供の発達相談などができるよう、医療スタッフが子育て広場に来てくださる日などがあればとてもありがたいです。
- 室内アスレチックのような体をたくさん動かせる遊び場があれば良いと思う。天候に関係なく遊べればうれしいので。
- ・支援センターが少なかったり、不便なところにあたりと子どもが多く住んでいる地域に対して適していないので細かく調査してほしい。
 - ・認定こども園がもっと増えたらいい
 - ・産じょくヘルパー（1時間当たり700円で利用できる自治体があるときいています）の導入（家事を主にサポート）
 - ・病児保育、可能な保育園を増やしてほしいです
 - ・ファミサポのサポート者がエリアによって不足しているので可能であれば増やして頂くようお願いしたいです。
 - ・2人目、3人目の補助をもう少し増やしてほしい。
 - ・特になし
 - ・家の近くでリトミックや演奏会など参加できる施設が増えたらうれしいです。（自動車を運転できないためバスや電車で行きやすい場所で）
 - ・東大阪市はもっと広がった
 - ・医療費の助成（自己負担が無料の自治体もあるので）
 - ・民間の施設、図書館など又幼い子も遊べる公園などが充実すればと思う。
 - ・特になし

【ゆめの丘SAHO】

- ・医療費の負担についてほかの自治体との違いがある
- ・子どもが小さくても遊びやすい公園が少ない
- ・幼稚園の3年制度をもっと多くの園で取り入れてほしい。

- ・土、日空いてる所があると嬉しい。(支援センター) 主人が子供と遊べる時が土日になるので、あいていると安心して任せられる。子育てサービスなどもっと明確にしてほしい。わかりにくい部分がある。
- ・医療費の窓口での支払い方法←周りの自治体は窓口で500円払うだけ
- ・公園が利用しづらい←小さな子ども用のあそび用具がない、草がぼうぼう
- ・歩道が段差が多く狭いので、ベビーカーを利用しづらい。
- ・開始時間をすべて9時にしていただけると嬉しいです。(起きる時間が早いので)
- ・今はとくにありません。
- ・0、1才くらいの乳児があそべるところがほしいです。
- ・近くに無料のリズム教室みたいなものが頻繁に開催されていると嬉しいです。
- ・医療費助成をあとで返すのではなく、先にしてほしい。返ってくるのが2〜3ヵ月後はちょっと家計がきつい…
- ・一時預かりできる所をもっと増やしてほしい
- ・支援センターでお弁当など少し食べられるスペースがあればゆっくり遊べると思います
- ・発達相談に乗ってくれるところがあれば良い
- ・経済的支援。大阪等の他市はもっと充実している所があるから。
- ・医療費の支払いが窓口での手続きがなくなれば嬉しいです。
- ・身近に遊ばせる公園が少ない！県外、市外に連れだして遊ばせることの方が多い。
- ・子どもと遊びやすい公園がほしいです。
- ・部分的に待機児童が多いので、駅の近くなど保育園を充実させてほしい。
- ・もともと町民だったので、「市」という大きさにすこし行政サービスやどういうものがあるかよくわからないし、市役所も車がないと不便なのでもう少し地域に色々あるとうれしいです。

【りりーべるず】

- ・都祁に住んでいるので検診の場所がはぐくみセンターだと遠い
- ・廃校になった吐山小学校の有効利用
- ・ここで書くのが適当かわかりませんが、小学校、親がもう少し自由に子どもを迎えに行けるようにしてほしいです。4校統合してバス通学になっていますが、時間がかかりすぎているように感じます。
- ・子どもの集える場、習い事などなんでもですが情報が身近に入ってくる環境がほしいです。
- ・地元の図書館の本をもう少し充実させてもらえたらうれしい。
- ・公園がない。託児所も少ない。
- ・室内で遊ぶところがあるので、外で遊べるところが増えると嬉しい。
- ・必要な時に気軽に利用できるような施設がほしい。
- ・子ども園を利用していますが、チケットを買い仕事の日は預けています。土曜日の仕事の日もあるので利用できるようにしてほしいと思う。
- ・医療費を窓口0円にしてほしい。公園が少ない。一時預りの施設がない(月ヶ瀬地区)
- ・少し大きめの公園が都祁にもあると良いなど。
- ・救急の時、TEL対応。高熱でた時、何回もかけなおしたから。
- ・とくに思いつかない
- ・子供の健診の時には、市の方から育児の事を聞いてもらえるが、本当に大変な育児をされている方もおられるので、もう少し声をかけてあげられる様なことがあってほしい。

- ・子連れで利用できる飲食店、カフェなどふやしてほしい。
- ・子ども達が遊べる公園が近くにあればいいなと思います。
- ・子育て広場はあるけれど、もっと大きな（小学生も一緒に遊べる）広場・公園をつくって欲しい。
- ・子供が遊べる公園みたいなのがあったらうれしい。
- ・土、日に利用できる所をもっとふやしてほしい。
- ・特になし
- ・親だけでも行かせてもらえたら。
- ・子供の医療費を無料にしてほしいです。バンビも無料にしてください！